








図版番号	登録番号 出土地点名 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-1677 IV60 溝・第2溝 (SF 080) 灰黒色砂質土層	(8.8) 4.1 0.7 — (39)	緑色片岩 (点紋)	E 片刃。A面体部中央と端部には研磨されているが剥離面が残り、うすくなっている。刃面に左右方向の研磨痕あり。紐孔は身幅の中央より下に位置する。 ○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消え、光沢をもつ。 ○ 刃先と背面肩部にあり、共にB面側への剥離を伴う。			
	S-07-1705 不明	(6.0) (5.8) 0.7 — (44)	緑色片岩	E 片刃。身幅の広い形態。背面は平坦で、両面との境に角をもつ。端部破損面に再研磨が施されている。体部の研磨はあらく、B面では剥離面がのこる。(内6mm、外8mm) ○ 両面共に磨滅しており、研磨痕は消える。磨滅はB面の剥離面全面にもおよび、A面紐孔の左方向に紐擦れ痕あり。 ○ 刃先にあり。			
	S-07-1709 GP58 表土層	(5.6) 3.5 0.7 — (23)	緑色片岩	E 片刃。背面は平坦で、両面との境界は角をもつ。刃面に研ぎ直しあり。両面共に、研磨面下に剥離面が残る。A面体部に左上-右下方向、刃面に、左右方向の研磨痕がある。B面体部には、右上-左下方向の研磨痕がある。(内6mm、外A9mm、B7mm) ○ 両面共に研磨は浅くなっている。刃先には、小剥離を伴う磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面中央に両面に傾斜を持ってある。			
	S-07-1714 GT58 溝 (SF 335)	(6.7) (3.5) 0.8 — (25)	緑色片岩	E 片刃。身幅の狭い形態。刃面は幅広く、刃部稜はない。A面体部には右上-左下方向、刃面にはやや右上がりの研磨痕あり。B面体部には右上-左下方向、刃部にはやや左上がりの研磨痕あり。 ○ 両面共に研磨痕は浅くなっている。B面肩部の背面、B面との境界は磨滅により丸くなっている。 ○ 刃先全体にあり。	全面に鉄分付着。 		
	S-07-1716 GP54 表土層	(4.2) (3.4) 0.6 — (13)	緑色片岩	E 片刃。稜線は不明瞭。B面刃部にも浅く、幅の狭い面をつくっている。背面は両面より研磨され鋭い。A面左右方向、B面背面に沿った方向の研磨痕あり。 ○ 刃先は丸く磨滅し、B面刃先より刃部に面の磨滅がみられる。 ○ なし	全面に鉄分付着。 石庖丁の背に刃をつくりだした二次加工品。 		
	S-07-1724 MB54 溝 (SF 074) 腐混黒色砂質土層	(7.6) 3.8 0.8 — (32)	緑色片岩	E 片刃。身幅の狭い形態。A面端部近くに敲打面あり。B面体部に右上-左下方向の研磨痕あり。刃面には左右方向の研ぎ直しがある。 ○ B面体部の研磨痕は浅くなり、A面体部ではほとんど消える。刃先には、小剥離と刃線に直交する磨滅があり、刃先から上方及び右上方にのびる面の磨滅がB面刃部にある。 ○ 左肩部に剥離を伴ってある。	全面に鉄分付着。 		
	S-07-1725 GP58 粘土下暗褐色砂層	(7.7) 4.3 0.6 2.1 (38)	緑色片岩	E 片刃。身幅の広い形態。両面中央部に片理面が残り、片理面に沿って研磨され中央がうすくなっている。背面はやや平坦で両面との境界は丸みを持つ。紐孔は両面から敲打後穿孔。刃面には右上-左下方向の研ぎ直しあり。(内4mm、外6mm) ○ 両面共に磨滅し研磨痕は消える。背面、B面は光沢をもつ。B面背方向に紐擦れ痕あり。刃先は刃線に直交する方向に磨滅する。 ○ なし	鉄分付着 		
	S-07-1728 MJ54 溝・下部流路内 (SF 074) 褐色砂層	(7.7) (4.0) 0.8 2.0 (37)	緑色片岩	E 片刃。身幅の中央に紐孔あり。A面下半は中央に右上-左下方向に端部に左上-右下方向に再研磨され、体部中央に不明瞭な稜を持つ。刃面は左右方向に研ぎ直されており、体部との境界は研磨方向の速いだけで稜線はない。(内5.5mm、外9mm) ○ A面上半とB面は磨滅により、研磨痕は消え、B面は光沢をもつ。再研磨面も磨滅しており、浅くなっている。刃先は刃線に直交する磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面の右孔上から右側、肩部にかけてと、刃先の紐孔下にあり。			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。


石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号)位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備 考
						○使用痕跡 ○背潰れ痕	
	S-07-1730 LX56 溝 (SF 075) 腐混黒色粘土層	(10.1) (5.0) 1.2 — (75)		緑色片岩	E 片刃。身幅の広い形態。特に厚味のあるもの。全体に研磨はあらく、剝離面が研磨面下に残る。大きく何面かの研磨面にわかれる。B面肩の研磨面は背面に大きく剝離し、背面がうすくなっている。A面体部は2面よりなり、共に右上-左下方向の研磨痕があり、刃面には左右方向の研磨痕がある。B面は3面よりなり、肩部及び左半では右上-左下方向、中央部の研磨面は、やや右傾きの上下方向である。B面刃部にはやや左上がりの研磨痕あり。 ○ 刃先は丸く磨滅する。 ○ なし		未製品か。 
	S-07-1731 LW50 溝 (SF 074) 上部褐色砂層	(8.5) (3.7) 0.7 2.3 (34)		緑色片岩	E 片刃。肩部のA面に背よりの剝離があり、背面がうすくなる。 ○ 両面共に磨滅して研磨痕は消え、光沢をもつ。A面では刃面にも磨滅がおよび、稜線はつぶれる。肩部の剝離面も磨滅し、背面におよぶ。刃先は、B面側に小剝離し、刃線に直交する方向に磨滅する。 ○ 背部中央にあり。		
	S-07-1734 IV60 溝 (SF 080) 第4層	(11.1) 4.1 0.6 2.1 (42)		緑色片岩	E 片刃。背面中央は、A面側に剝離し、ややうすくなっている。B面に片理面が残る。刃面は左右方向に研ぎ直される。(内4mm、外6mm) ○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消え、光沢をもつ。刃先は丸く磨滅するが鋭さが残っている。A面双孔を結ぶ方向に紐擦れ痕あり。 ○ なし		
	S-07-1737 GP58 砂礫層	(8.7) 4.4 0.7 2.4 (42)		黒色片岩	E 片刃。身幅の広い形態。両面共に片理面が残り、面の凹凸がはげしく、全体的にB面側に彎曲する。紐孔は両面より敲打後穿孔。刃面は体部の凹凸に左右され、稜線は蛇行する。背面は丸い。A面に右上がり、B面に右上-左下方向の研磨痕あり、B面紐孔近くと刃面には左右方向の研磨痕あり。紐孔は身幅の中央にあり、左下がりである。(内8mm、外11mm) ○ 両面共に研磨痕は磨滅し、浅くなり、光沢をもつ。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面の左孔上と刃先全体にあり。刃先の左孔よりやや左の部分では、上下方向に、刃面へのびる。		
	S-07-1740 MB50 溝 (SF 074) ガラス含褐色砂層	(6.2) (4.4) 0.7 — (27)		緑色片岩	E 片刃。身幅の広い形態。背面は丸い。刃面には左右方向の研ぎ直しあり。 ○ 両面共に研磨痕は磨滅して消える。刃先には刃線と直交する磨滅あり。 ○ なし		背部は火をうけ赤変。 
	S-07-1750 GP50 溝 (SF 083) 黒色粘質土層	(9.9) 4.2 0.7 — (27)		緑色片岩	E 片刃。刃面は研ぎ直され急角度となる。A面両端部とB面左方に折れ面が残る。B面右端部はB面側に剝離欠損し研磨される。刃面に右上がりの研磨痕あり。B面刃部右上-左下方向に浅く研磨されている。(内4mm、外7mm) ○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消え、光沢をもつ。刃先には、刃線に直交する磨滅があるが鋭い。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし		
	S-07-1758 不明	(5.8) (4.0) 0.9 — (32)		緑色片岩	E 片刃。特に厚味のあるもの。背面は丸くなっている。刃部稜は不明瞭。両面から敲打後、穿孔。B面紐孔は左に長い敲打面は研磨されている。 ○ 表面の研磨痕みられず。刃先は小剝離を伴った磨滅。 ○ なし		

( ) は残存部分の法量である。

( ) は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。



図版番号	登録番号 出土地 遺構 (遺構番号) 層位	法量 (cm)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-1771 GT58 溝 (SF 335) 上層	(2.8) 3.7 0.7 — (14)		緑色片岩	E 片刃。紐孔は身幅の中央より下に位置する。刃面に研ぎ直しあり。刃部稜は不明瞭。背面は平坦で両面との境界に角を持つ。B面の背より、紐孔近くが、大きく剝離している。B面刃部に浅く幅の狭い面がつくられている。刃面に左右方向の研磨痕あり。 ○ 全体に磨滅し、研磨痕は消えている。研ぎ直された刃面にわずかに研磨痕が残る。B面の剝離面も磨滅している。 ○ 刃先にある。		鉄分付着 
	S-07-1774 GT50 整地層	(9.1) (2.8) 0.8 1.8 (33)		緑色片岩	E 片刃。身幅の狭い形態。刃面は急角度である。端部近くに背面がのこり、平坦でA面に狭く、B面に広い、台形状のくぼみが研磨されている。 ○ 表面は磨滅し、研磨痕は消え、稜線も不明瞭になる。刃面に刃先より剝離があるが、やはり磨滅している。 ○ 背部、刃部にあり。左端部の背面と、右方の折れ面の上方を除き、みられる。背面は著しく紐孔の上半分は失われる。		鉄分若干付着 
	S-07-1777 GP58 溝 (SF 083) 黒色土層	(4.0) (4.1) 0.7 — (16)		緑色片岩	E 片刃。身幅の広い形態。刃部稜は不明瞭。背面は平坦につくられ両面との境界に角をもつ。両面体部共に右上一左下方向の研磨痕。刃面にも、右上一左下方向の研磨痕。 ○ 両面共に研磨痕は浅くなり、周辺では磨滅して消える。刃先には刃線に直交する方向の磨滅があり、B面刃先より左上方にのびる磨滅となる。 ○ なし		
	S-07-1778 MJ54 溝・下部流路内小溝 (SF 074) 最下層	(8.8) 4.3 0.7 — (46)		緑色片岩	E 片刃。刃面に研ぎ直しあり。背面は平坦で両面との境界に角をもつ。肩部の端部寄りに剝離が残る。この為に背面がうすくなり、角がなくなっている。左折れ面近くに未貫通穿孔痕あり。 ○ 全面に渡って磨滅しており、研磨痕は消え、光沢をもつ。刃先には刃線に直交する磨滅痕あり。B面、肩部の中央寄りに磨滅あり、角がつぶれている。 ○ なし		端部から紐孔までの間隔が長い。 
	S-07-1781 GI58 Pit面・砂層	(8.1) 3.3 0.8 — (36)		緑色片岩	E 片刃。身幅の狭い形態。紐孔は身幅の中央にある。背面は丸い。刃部稜は不明瞭。刃先に平坦な幅狭い(1mm)面を研ぎだしている。 ○ 両面共に研磨痕は磨滅して消える。刃先の平坦な面は中央部で磨滅により角がとれて、丸くなっている。 ○ 背面は、端部近くから中央部にかけてあり。肩部に著しく、くぼむ。		
	S-07-1782 GT50 Pit 2	(8.1) 4.3 0.7 — (44)		緑色片岩	E 片刃。身幅の広い形態。刃面は研ぎ直されている。刃面は端部側にやや幅広くなる。背面は平坦で両面との境界に角をもつ。紐孔は身幅の中央に位置し、紐孔上に未貫通穿孔痕あり。端部に折れ面があり、再研磨されている。刃面に左右方向の研磨痕あり。 ○ 両面共に体部は磨滅し、研磨痕は消える。背面の角は磨滅し丸みを持つ。特にB面肩部にめだつ。刃先は丸く磨滅する。 ○ なし		
	S-07-1784 GZ 溝 (SF 083) 上部砂礫層	(9.9) 4.3 0.7 2.9 (53)		緑色片岩	E 片刃。身幅の広い形態。背面は丸い。刃部稜は不明瞭。(内7mm、外8mm) ○ 両面共に磨滅し、研磨痕が消える。背面も磨滅し光沢をもつ。刃先は丸く磨滅し、中央部では刃線に直交する方向に磨滅する。中央部に磨滅が著しく、刃線は内彎状を示す。刃先中央の磨滅はB面刃先より左上方にのび、肩部に至る面の磨滅となる。このため背面はうすくなる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし		全面に鉄分付着。 

( )は残存部分の法量である。




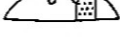
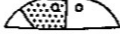


( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
	S-07-1788 GZ 表採	(11.0) (3.8) 0.8 2.1 (57)	緑色片岩	E 片刃。全体にねじれる。刃面に左右方向の研ぎ直しあり。刃部稜は不明瞭。A面左肩部は背部に傾斜して研磨され、うすくなっている。紐孔は両面より敲打後穿孔。右孔はA面下方、B面上方より穿孔され、左孔はA面右下方、B面右下方より穿孔される。A面体部に左上-右下方向の研磨痕あり。(内5mm、外右9mm、左11mm) ○ B面体部の研磨痕はきえており、両面共に光沢をもつ。両面に紐擦れ痕あり。刃先は刃線と直交する磨減が著しく、B面左方の刃先より左上方にのび、左肩に至る磨減と右方の刃先より右上方にのび、右肩に至る磨減があり、中央で広く、この両方向の磨減はかさなる。背面はうすくなっている。刃線は中央で磨減が著しく、やや内彎気味となる。 ○ 背部中央にあり。			
	S-07-1809 不明	(6.0) (3.9) (0.5) — (17)	緑色片岩	E 両刃。 ○ 両面共に磨減して研磨痕は消える。 ○ なし	両面共に鉄分付着。 		
	S-07-1810 不明	(9.0) 4.5 0.8 (4.8) (66)	緑色片岩	E 片刃。身幅の広い形態。左孔より左では刃部稜はなだらかになる。左端部はややすばまる。紐孔間の距離は極めて長い。左孔は身幅の中央に位置し、不正円形である。右孔はやや上方に位置する。B面右孔の右に未貫通穿孔痕あり。A面体部には右上がりの研磨痕があり、背寄りには上下方向の研磨痕がある。 刃面には右上がりの研磨痕。(内5mm、外10mm) ○ 両面共に磨減しており、A面では研磨痕が浅くなり、B面では消え、光沢をもつ。左の折れ面も磨減している。刃先は丸く磨減する。B面紐孔の左肩に左孔方向にのびる紐擦れ痕あり。 ○ 背面、刃先にあり、左折れ面にもあり。			
	S-07-1826 GZ 上部砂礫層	(4.7) (4.8) 0.5 — (19)	緑色片岩	E 両刃気味片刃。身幅の広い形態。特に薄手のもの。刃部稜はない。B面刃部には稜をもった面がつくられている。端部は平坦な面をもち、肩部はA面に傾斜する面となっている。A面体部は剝離により大きく凹み、あらく研磨されており、剝離面が残る。刃面には左右方向に研磨痕あり。 ○ 両面共に研磨痕は消える。 ○ 刃先と背面肩部の先端部全体にみられる。	B面に鉄分付着。 		
	S-07-1829 不明	(4.4) (4.0) (0.7) — (19)	緑色片岩	E 両刃気味片刃。刃面の幅は狭く、刃部稜は不明瞭。背面と両面の境界に角をもつ。端部は再研磨により、うすくなり直線的である。両面共に研磨面下に剝離面を残す。研磨痕は、A面体部、左上-右下方向、B面体部、右上-左下方向、刃部は両面共に左右方向である。 ○ 両面共、研磨痕は浅く、刃先は磨減する。 ○ なし	B面に鉄分付着。 		
	S-07-1830 不明	(8.9) (4.1) 0.8 3.3 (49)	緑色片岩	E 片刃。身幅の広い形態。中央部に厚く、端部に向ってうすくなる。端部には刃線にほぼ直交する方向の側辺を持つ。刃面は中央広く端部で狭い。刃先に沿って、幅狭く研ぎされる。紐孔は両面より敲打後穿孔。B面の敲打痕は著しい。A面右上-左下方向に研磨痕あり。(内8mm、外A13mm、B19mm) ○ A面の研磨痕は磨減し、浅くなり、刃部中央では消え、稜線も磨減し消える。B面も磨減により研磨痕は消える。刃先は刃線に直交する方向に磨減し、B面刃先より左上方にのびる。B面肩部も磨減する。A面右孔に左方向の紐擦れ痕あり。 ○ 背部端を除き、背部全体にあり。背部の原形をとどめない。			

( )は残存部分の法量である。





( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (cm)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-1834 KL68  第4層・褐色包含層	(5.2) (2.7) 0.7 — (14)		緑色片岩	E 片刃。A面体部中央に剥離面が残る。 ○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消える。 ○ 刃先にB面側への小剥離を伴っている。端部先端近くの背面にあり、凹みをつくる。背面に著しく紐孔の上をこわし、刃線とほぼ平行な面となる。		B面に鉄分付着。 
	S-07-1875 GP58 溝 (SF 083)	(6.5) 5.0 0.8 2.6 (37)		緑色片岩	E 片刃。身幅の広い形態。A面左孔より右は片理に沿って大きく剥離する。背面は幅が広く平坦で、紐孔間上では、旧紐孔が部分的に残り、浅い抉り状をなす。(内 5.5mm、外 8mm) ○ 両面共に研磨痕は磨滅して消える。刃先には刃線に直交する磨滅があり、A面刃先より右上方に若干のびる磨滅となるが刃部後までは及んでいない。B面刃先より左上方へのびる磨滅あり。 ○ なし		背面からB面にかけて鉄分付着。再加工再使用品。 
	S-07-1892  不明	(5.5) (4.8) 0.6 2.5 (23)		緑色片岩	E 両刃気味片刃。身幅の広い形態。背面は丸い。A面研磨面下に剥離面が残る。B面刃部の研磨面下に、刃先よりの剥離面が残る。紐孔は六角形状の不正円形をなす。両面体部に左右方向およびやや右上がりの研磨痕あり。刃部には右上がりの研磨痕あり。(内 6mm、外 8mm) ○ 両面共に磨滅しており研磨痕は浅くなり、大部分消えている。B面背方向に紐擦れ痕あり。刃先は刃線に直交する方向に磨滅する。 ○ なし		
	S-07-1905 GT50 溝 (SF 333)	(3.6) 3.5 0.6 — (15)		緑色片岩 (点紋)	E 片刃。身幅の狭い形態。紐孔は身幅の中央よりやや下にある。背面は丸い。 ○ 両面共に磨滅し、研磨痕は消え、光沢をもつ。 ○ 刃先にあり、B面側への小剥離を伴う。		
	S-07-1908 MJ65 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	(5.9) (3.5) 0.8 — (22)		緑色片岩	E 片刃。刃面は左右方向に研ぎ直されるが、刃部後には不明瞭。両面共に右上-左下方向の研磨痕あり。(内 7.5mm、外 9mm) ○ 両面共に磨滅し、研磨痕は浅くなっている。刃先はB面側に小剥離する。 ○ 背面にあり。両面に剥離を伴う。		
PL.38-1 PL.57-5	S-07-1030 KZ  表採・盛土	15.0 4.2 0.8 2.6 90		緑色片岩	F 片刃。略完形。背部は円く、刃部は浅く彎曲する形態。(深9.5mm) 紐孔は左寄りに位置し、(左端より9位) 最大幅をもつ。左半分に厚みがあり。(8.3mm) 右側へいくにつれて、幅は狭く、うすくなる(5mm) 刃部は稜をもつ。右端部はわずかに欠損し、そのエッジに磨滅あり。刃面に、刃線に沿った研磨痕があり、刃の研ぎ直しを行っている。A面左孔上方に未貫穿孔痕があり、右孔上方背面にも対になる両面からの穿孔痕あり。背面右端部に鋭く抉りとられたように凹み、長軸に直交する方向の研磨痕がみられる。(内 7mm、外 9~12mm) ○ 両面共磨滅により研磨痕は失われ、光沢をおびる。刃先は丸く磨滅し、刃線に直交する磨滅がみられる。B面では背方向、A面右孔では左方向に紐擦れ痕あり。 ○ なし		
PL.38-2	S-07-0647 MF61 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	14.3 (3.6) 0.7 2.2 (44)		緑色片岩	F 片刃。身幅の狭い内彎刃形態。(深 5mm) 背潰れが著しく、背面の原形は失われる。両面に研磨痕がわずかに残存しており、A面体部右側は上下方向、他は左上-右下方向の研磨、B面紐孔周辺に右上-左下方向のあらい研磨が施され、刃面には右上-左下方向のあらい研ぎ直しがみられる。A面刃部右側はその後削り取られた様に再研磨されている。A面右端部に敲打痕残存。(内 5.5mm、外 6mm) ○ 両面共磨滅により研磨痕は浅くなり、刃先は丸く磨滅し、刃線に直交する磨滅痕あり。B面左上方へのびる面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面に著しい。B面側に大きく剥離し、そのエッジにも背潰れ痕があり、背面は原形を留めない。		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径・右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
PL.38-3	S-07-1749 MB50 溝 (SF 074) 上部褐色砂層	16.4 (4.9) 0.7 2.7 (91)	16.4 (4.9) 0.7 2.7 (91)	緑色片岩	F 片刃。略完形。(深 6.5mm) 最大幅が左端より約位にあり、右側へいくにつれて狭くなる。紐孔も左寄りに位置し、わずかに左下方へ傾く。A 面体部には右上-左下方向、左右方向、上下方向の研磨がみられ、刃面には左側は刃線に沿った方向、右側 A 面体部刃線上方には右上-左下方向の研ぎ直しがみられる。左端わずかに欠損するが再研磨再使用する。 ○ A 面上半部は研磨が浅くなり、B 面は全く研磨は失われ、光沢をおびる。刃先は丸く磨滅し、刃先より B 面左上方への磨滅がみられる。B 面左端より約位の刃線が著しく凹んでおり、又、左側肩部も磨滅により浅い凹面を呈する。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面中央部に著しく、原形を留めない程凹む。刃部左端部にもあり。	○使用痕跡 ○背潰れ痕	両面共紐孔周辺に朱が付着。 再研磨・再使用品 
PL.38-4	S-07-0013 不明	13.1 4.9 0.8 1.7 88	13.1 4.9 0.8 1.7 88	結晶片岩	F 片刃。完形。比較的身幅は広く、刃部は浅く彎曲する。(深 2mm) 左端部は剝離欠損し、側辺を呈し、使用により磨滅。紐孔は左寄りに左下方に傾いて位置する。A 面体部には左右方向、右上-左下方向の研磨痕が残存。B 面紐孔下方にも右上-左下方向の研磨痕残存。刃面には三つの研磨面があり、刃先側は左右方向、上方は左右方向と右上-左下方向が混在、左端はわずかに右上がりの研磨である。紐孔上方は背面より剝離しやすくなる。A 面右孔右に未貫通穿孔痕あり、右孔は A 面では左上方より、B 面では左下方より穿孔されている。(内 5mm、外 7.5mm) ○ 両面とも磨滅して研磨痕は浅くなり、B 面では光沢をおびる。特に背部の磨滅が著しく、背面はうすくなっている。刃先は丸く磨滅し、刃線に直交する磨滅がみられ、刃線の中央部では特に著しく凹線を呈する。また刃先より、B 面左上方への磨滅がみられ左半分背面に至るまで磨滅している。右端部のエッジも磨滅し、B 面への磨滅も著しい。B 面背方向の紐擦れ痕あり。 ○ なし		全面煤けてまっ黒である。 
PL.38-5	S-07-1720 GT58 整地層	13.8 (4.3) 0.7 2.4 (68)	13.8 (4.3) 0.7 2.4 (68)	緑色片岩	F 片刃。完形。刃部は中央部で大きく内彎し(深 6.5mm)、右端部は比較的鋭いが、左端部は円くなる。背面はもとは彎曲していたが背潰れにより、中央部は平らである。刃面には研ぎ直しがみられ、右上-左下方向の研磨である。紐孔は左寄りに位置し、紐孔の径は比較的小さく(内 5mm、外 7mm)、双孔とも A 面より敲打後穿孔。B 面に敲打痕はない。右孔は三角形の不正円形を呈す。背面より B 面紐孔に至るまで剝離し、その面も磨滅する。 ○ 両面とも磨滅により研磨痕は失われている。刃先は丸く磨滅し、B 面左上方、背面までの磨滅がみられる。両端部ともエッジはうすくつくられ、左端面には両面に小さな打ち欠きがみられるが共にそのエッジは丸く磨滅し、左端部はエッジから B 面への磨滅と刃先と同様の磨滅がある。 ○ 背面にあり、中央部が平らになる位に著しい。背面に小さな打ち欠きがみられ、両面に剝離している。右孔上方より右側はエッジは磨滅しているが残っており、左側のエッジに著しい背潰れ痕がみられる。		鉄分付着 
PL.38-6 PL.57-6	S-07-0796 JI62 整地層	13.4 (2.9) 0.7 1.8 (63)	13.4 (2.9) 0.7 1.8 (63)	緑色片岩	F 片刃。完形。刃部には 2ヶ所内彎した部分があり、背面は彎曲しているが中央部は背潰れにより平坦になる。紐孔はわずかに左寄り、左下がりに傾く。両面ともわずかに研磨痕が残存しており A 面体部ではやや右上がり、B 面右端部では左右方向の研磨がみられる。刃部は刃先に沿って彎曲しており、刃先に沿った方向の研ぎ直し、一部に右上-左下方向の研磨がみられる。A 面には片理に沿って剝離した部分がある。左孔は両面から二度の穿孔痕が残存し、三角形である。A 面右孔周辺に未貫通穿孔痕が 2 個みられる。(内 6.5mm、外 9mm) ○ A 面体部は磨滅により、研磨痕は浅くなり、B 面では光沢をおびる程である。特に B 面刃部から左半分にかけては左上方への磨滅が著しい。B 面を上にして左側の内彎部分の磨滅は著しく、刃先は丸くなり、左上方への磨滅で B 面・背面にかけて浅い凹面を呈する。右側の内彎部分右半分の刃先も特に丸くなっており、他の部分は比較的鋭い刃先が残っている。両面に紐擦れ痕あり。右端部背部に左下-右上方向の面の磨滅がみられる。 ○ 背面にあり。特に中央部に著しい。		鉄分の付着がみられ、B 面に著しい。 

( )は残存部分の法量である。


( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
PL.38-7	S-07-0037 MJ62 第4層	(5.6) 4.2 0.9 — (27)		緑色片岩	F 片刃。背面の中央は直線状にのび、右下方へ屈折して端部に至る。端部は両面に剝離欠損後再研磨し、うすくつられる。刃部は右側で浅く部分的に内彎している。刃面には刃先に沿った方向の研ぎ直しがみられる。紐孔は両面から敲打後穿孔されている。(内7mm、外9mm) 長さは比較的短かいと思われる。 ○ 両面とも磨滅により研磨痕は失われ、光沢をおびる。刃先の鋭さは残るが刃線に直交する磨滅がみられ、B面左上方へのびる面の磨滅あり。B面背方向の紐擦れ痕あり。 ○ なし		
PL.38-8 PL.57-7	S-07-0053 MJ57 黒色土層	(9.8) 4.2 0.8 — (46)		黒色片岩	F 片刃。背面中央部は平坦で、右下方へ屈折してのび屈折部分はうすくなり稜線をもち、端部に至る。刃部も背面に対応して大きく内彎する。刃面には研ぎ直しがみられ、中央部ではやや右上がり、端部では右上-左下方向の研磨が施されるが刃部稜は不明瞭である。(内8mm、外11mm) 背面中央部折れ部分に両面から穿孔した紐孔が残存。再加工再使用である。 ○ 両面とも磨滅が著しく、B面では光沢をおびる。中央内彎部の刃先の磨滅は著しく刃線に直交する磨滅がみられ、刃線に細かな凹凸あり。刃先からB面左上方へのびる面の磨滅がある。B面背方向に紐擦れ痕あり。 ○ なし	再加工・再使用品 	
PL.38-9	S-07-0473 MD59 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	13.3 (4.2) 0.6 2.5 (73)		緑色片岩	F 片刃。完形。刃部の中央部が大きく内彎し(深7.5mm)、背面も弓状に円く彎曲し、両端は幅があり。平面形は彎曲した矩形を呈す。左側辺は剝離欠損しているがエッジは磨滅している。両面とも研磨痕は浅く残存。A面体部には右上-左下、左上-右下方、B面右半分には右上-左下、端部では左上-右下方の研磨が施される。刃面には刃先に沿った方向の研ぎ直しがみられるが、刃部稜は不明瞭である。紐孔はわずかに右下がりである。(内5mm、外7mm) 左右右側に未貫通穿孔痕あり。 ○ 両面とも磨滅により研磨痕は浅くなっている。刃先は丸く磨滅しており、B面左上方へのびる面の磨滅があり、肩部に至り、背面角は磨滅により丸くなっている。B面背方向に紐擦れ痕あり。 ○ 刃部内彎部にあり。B面へ小剝離し、そのエッジに背潰れ痕あり。		
PL.38-10	S-07-0133 KM69 第3層	14.5 3.7 0.8 2.2 72		緑色片岩	F 片刃。完形。身幅の狭い直刃形態に近いが、刃部中央よりやや右側に寄った部分で浅く内彎する(深2mm)。A面体部右半分には右上-左下方向のあらい研磨がみられ、B面右端部には左右方向の研磨痕あり。更に右上-左下方向の鋭いひっかききざがB面右側に、左側には左右方向のきざが残存。背部A面は剝離してうすくなるが研磨している。両端部に小さな剝離欠損あり。紐孔はやや右下がりに位置する(内5.5mm、外9mm)。刃部稜は不明瞭だが、最大厚を有し、刃面は急な傾斜面を呈す。 ○ 両面共磨滅により研磨は浅くなっている。刃先は丸く磨滅し、中央より右寄りの内彎部分の磨滅が著しく、B面左上方へのびる面の磨滅がみられ、左側肩部に至る。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面にあり。紐孔の左肩部に著しく、右肩部にもみられる。		
PL.38-11 PL.57-8	S-07-0057 MJ57 第5層・黒色土層	11.9 4.0 0.9 2.8 63		緑色片岩	F 片刃。完形。背面は中央が平らで両肩部で彎曲し、刃部は中央で大きく内彎する(深6mm)。全体に厚さは不均一で刃部稜に最大厚を有する。A面体部下半及び刃面には左右方向の研ぎ直しがみられる。体部右側に右上-左下方向の2本の条痕あり。紐孔A面では敲打後穿孔し、B面では敲打痕はみられない。(内6~7mm、外9.5mm) ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われ、光沢をもつ。刃先は丸く磨滅し、B面左上方へのびる面の磨滅がみられる。B面背方向の紐擦れ痕あり。 ○ 背面左端部にわずかにあり。		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。







石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備 考
						○使用痕跡 ○背潰れ痕	
PL. 39-1	S-07-0954 LW54 黒褐色礫混合土層	(14.5) 4.3 0.7 2.8 (66)	緑色片岩	F 片刃。刃部は中央部で大きく内彎し、(深 4.5mm) その部分の刃面の幅は狭い。(幅 3.5mm) 長軸に於いて、左半分はB面側へ、右側ではA面側へS字状に彎曲しており、左半分は薄くなっている。刃面右側にのみ右上-左下方向の研磨痕残存。紐孔は両面より敲打後穿孔されており、他と比較して径は大きい。(内 8mm、外 14mm) ○ 両面とも磨滅により研磨痕は失われ、刃先は全体に丸く磨滅する。特に内彎部分の刃先には刃線に直交する方向の磨滅痕が著しく、刃先からB面左上方へのびる面の磨滅がみられる。B面左肩部は刃先からのびる磨滅でうすくなっている。両面に紐擦れ痕あり。A面右肩部の背面角も左下-右上方向の磨滅により丸くなる。 ○ なし			
PL. 39-2	S-07-0329 KG67 土坑 (SK 406)	12.0 4.0 0.7 2.3 52	緑色片岩	F 片刃。完形。刃部左側は外彎し、右側で内彎し(深 1.5mm)、刃線は浅いS字状を呈する。左端より $\frac{1}{2}$ に最大幅があり、右に行くにつれて狭くなり、所謂鎌形を呈する。左端はB面に剝離欠損するが、その面にも磨滅がみられる。紐孔の径は小さく、右下がりに位置する(内 5mm、外 7mm)。刃面にのみ左右方向の再研磨痕残存。両肩部背面には剝離が残存。 ○ 両面とも磨滅により光沢をもつ。刃先には刃線に直交する方向の磨滅がみられ、B面左上方へのびる面の磨滅がみられ、B面左側では、肩部に至る。紐孔B面では双孔とも左上に紐擦れ痕がみられ、A面では双孔を結ぶ方向にみられる。 ○ なし			
PL. 39-3	S-07-0660 IT65 黒褐色砂質土層	13.6 3.8 0.8 2.4 65	緑色岩類	F 片刃。完形。背面は比較的うすく、刃部後に最大厚がある。刃部は全体に浅く内彎する(深さ 5mm)。背面には研磨以前の剝離面は残存するが、磨滅しており背面は凹凸あり。紐孔はやや左寄りに位置する。紐孔は両面より敲打により貫通し、わずかに穿孔する。刃面にのみやや右上がりの方向性をもつ研ぎ直しがみられる。(内 5.5mm、外 15mm) ○ 両面とも磨滅により光沢を有し、B面で特に著しい。刃先は丸く磨滅しているが比較的鋭く残存。B面では刃先より左上方へのびる面の磨滅が肩部に至るまでみられる。B面左肩部の剝離面も磨滅がみられる。B面左孔背方向に紐擦れ痕あり。 ○ 左肩部両面へ打ち欠きがみられるが、エッジは潰れておらず鋭いが磨滅している。	A面に鉄分の付着が著しい。 		
PL. 39-4 PL. 57-9	S-07-0287 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	12.3 3.8 0.7 1.3 (40)	スレート	F 片刃。完形。左端部より $\frac{1}{2}$ に最大幅があり、右側へいくにつれて徐々に狭くなり、鎌形を呈す。厚みも同様になくなる。刃部は浅く内彎する。(深 4mm) 背面には研磨前の剝離面が残存。更に、左肩部がA面に大きく剝離欠損後、刃面及び左端部に左右方向の再研磨を施す。紐孔間の距離は特に狭い。(内 5mm、外 8mm) B面右孔右上方に未貫通の穿孔痕がある。 ○ 両面とも磨滅により研磨痕は失われる。刃先は丸く磨滅し、B面刃先より左肩部に至る。左上方へのびる面の磨滅が著しい。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし			
	S-07-0603 MK63 黒褐色礫混合土層			S-07-0287と同一個体。			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。








図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (cm) (g)	長 さ 幅 厚 紐孔距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
PL.39-5	S-07-1106 JM66 黒色土層	(12.1)	3.2 0.8 2.8 (45)	緑色片岩	F 両刃。身幅の狭く、長さのある形態。刃部は浅く内彎(深約3mm)。背面に最大厚がある。長軸においてB面側へ彎曲する。A面体部には右上-左下方向、刃先では刃線に沿った方向、刃先中央部では左上-右下方向の研磨がみられ、B面体部紐孔周辺ではやや右上がりの方向、左側では右上-左下方向、刃部中央では左上-右下方向の研磨。背面では長軸方向の研磨がみられる。紐孔は右下がりに位置し、B面より大きく穿孔する。(内5.5mm、外A7mm、B9mm) ○ 刃先は丸く磨滅しているが比較的鋭さが残存。B面左側の研磨は磨滅により浅くなる。B面左肩部は磨滅でうすくなっており、対応したA面右肩部も磨滅により研磨痕は失われている。B面背方向に紐擦れ痕あり。 ○ 背面、紐孔上にわずかにあり。刃先左側にもわずかにみられる。		
PL.39-6	S-07-1327 IS64 黒褐色土層	13.6	4.3 0.6 2.6 59	緑色片岩	F 片刃。完形。比較的身幅の広い形態。刃先は全体として浅く外彎するが、中央で使用による凹みがある。紐孔は左寄りに位置する。全面に細かな研磨痕が残存しており、B面では右上-左下方向のみ。A面では紐孔周辺では右上-左下方向、両端部では上下方向、刃面周辺ではやや右上がりの方向性をもつ研磨がみられる。刃面周辺は再研磨である。 ○ 刃先は丸く磨滅しているが、比較的鋭い。中央部の凹みの部分のみ磨滅は特に著しく、刃線に直交する面の磨滅もみられる。B面刃部及び左半分は研磨痕は失われ光沢をもつ。紐孔両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし		
PL.39-7	S-07-1231 JU64 溝 (SF 081) 黒色土層	(8.8)	3.7 0.7 2.7 (39)	緑色片岩	F 片刃。身幅は狭く背面と刃線が略平行して彎曲。刃部は浅い内彎刃(深約3mm)。A面下半部にあらい研ぎ直しあり。B面刃部にも刃線に沿った方向の同様の研ぎ直しあり。紐孔は左端に片寄り左下方に傾いて位置する。またA面外孔及び内孔は不正円形を呈し、B面外孔は正円形である。(内5~6mm、外8mm) ○ 刃先は研ぎ直しの為使用痕は不明。B面紐孔の左側は研磨痕は失われ、刃先より左肩部にのびる面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし		
PL.39-8	S-07-0725 JB64 褐色礫混土層	(8.9)	3.8 0.8 2.1 (49)	緑色片岩	F 片刃。平面形は彎曲した矩形を呈す。刃面は幅が狭い(幅3.5mm)。刃面にのみ刃線に沿った方向の研磨及び右上-左下方向の研磨がみられ、研ぎ直される。紐孔は両面より敲打後穿孔される。左下がりに位置する。 ○ 刃先は丸く磨滅しており、B面刃部には刃線に直交及び右上方へのびる面の磨滅がみられる。B面では背方向に紐擦れ痕がみられる。 ○ 背面全体にあり。		S-07-0473と同一形態。
PL.39-9	S-07-0511 MT58 溝 (SF 078) 黒色砂混粘質土層	(12.9)	3.9 0.8 2.2 (65)	緑色片岩	F 片刃。刃部中央で浅く内彎(深1.5mm)。左端部欠損後再研磨。背面には剝離面が残存するがその面も磨滅している。長軸に於てB面側へ彎曲する。(内5.5mm、外8mm) ○ 刃先には刃線に直交する方向の磨滅がみられ、B面刃先より左肩部に至る面の磨滅がみられる。両面とも磨滅により研磨痕は失われ、光沢をもつ。両面とも紐擦れ痕が著しい。 ○ 背面全体にあり。		
PL.39-10	S-07-0548 MO57 黒色礫混粘質土層	(10.8)	4.0 1.0 3.0 (66)	緑色片岩	F 片刃。刃部中央で浅く内彎(深約4.5mm)。端部へいくにつれてうすくなり、背部、端部に剝離面が残存。長軸に於てA面側へ彎曲する。紐孔は両面より敲打後穿孔される(内6mm、外11mm)。両面とも体部下半に右上-左下方向のあらい研磨痕あり。刃面、B面刃部には刃線に沿った方向のあらい研磨痕残存。研ぎ直される。 ○ 両面とも体部上半の研磨痕は失われている。刃先には刃線に直交する方向の磨滅がみられ、B面左上方へのびる面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面(左孔上方)にわずかにあり。		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備考
						○使用痕跡 ○背潰れ痕	
PL.39-11	S-07-0795 JI62 整地層	(9.6) 4.1 0.8 2.7 (45)	緑色片岩	F 片刃。刃部は大きく内彎する(深11mm)。内彎部分はB面刃部にも刃面がつくりだされており、両刃気味である。刃面は急角度に傾斜し、刃面の幅も狭い。紐孔は右下方に傾いて位置する。刃面には左右方向の研ぎ直しがみられる。長軸においてB面側へ彎曲する。端部はうすくつくられる。(内6.5mm、外11mm) ○ 両面とも磨滅により研磨痕は消えている。刃先は丸く磨滅し、B面刃部には刃先に直交してのびる面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 右孔上方背面に両面への打ち欠きがみられ、背潰れ痕あり。	鉄分付着。A面に著しい。 		
PL.39-12	S-07-0242 ML61 溝 (SF 074) 褐色砂層	12.7 (3.7) 0.8 2.0 (56)	緑色岩類	F 片刃。完形。刃部は中央部に片理面があり、そこでより深く内彎する(深6mm)。体部左側両面に敲打痕残存。刃面の幅は広く、左側では刃線に沿った右上がりの方向、右側では右下がりの方向の研ぎ直しがみられる。紐孔は左寄りに右下方に傾いて位置する。(内6mm、外9.5mm) ○ 両面とも研磨痕は消え、磨滅して光沢をもつ。刃先は丸く磨滅しており、特に内彎部分に著しい。刃先よりB面刃部には刃線に直交、及び右上方へのびる面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面中央部にあり。			
PL.42-1	S-07-1698 HS62 溝 (SF 098)	13.2 (4.7) 0.9 2.6 (86)	緑色片岩	F 片刃。完形。本来は杏仁形態であったと思われる。A面下半部に石目があり、そこは固い石質のため不自然に残りその石目の下方は傾斜面を呈す。刃部は中央部が使用により大きく内彎し(約3mm)、その両側は背潰れ痕により直線状になる。端部で切れ上がる。刃面は両端部にのみ残る。紐孔は左下方に傾斜して位置する(内5mm、外8.5mm)。B面刃部に鋭い刃物で抉った様な痕跡がみられ、その刃先も又、磨滅している。 ○ 刃先は固い石目に影響され、石質の軟かい部分がすりへる。刃先の凸部には背潰れ痕があり、凹部にのみ使用痕が残り、刃線に直交する磨滅痕で丸くなっており、B面左上方へのびる面の磨滅もみられる。B面左側のみ研磨痕は浅くなっている。 ○ 周縁全体にあり、原形は失われる。特に背面は紐孔直上まで潰れており、背は真直ぐに近い。背面の背潰れ痕はA面側、B面側とわかれており、傾斜面をなし、中央で稜をなす。	鉄分付着 		
PL.42-4	S-07-0859 MF62 溝 (SF 075) 黒褐色礫混合土層	(12.3) (4.2) 0.8 1.8 (75)	緑色片岩	F 片刃。両端は剥離欠損。背部・刃部は背潰れのため変形しているがわずかに刃部稜が内彎する。長軸においてB面へ彎曲する。紐孔は左下方へやや傾いて位置する。紐孔は三角形の不正円形を呈す。(内5mm、外7mm) 左孔上に未貫通の穿孔痕あり。刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり。 ○ 両面とも光沢あり。B面左孔に背方向の紐擦れ痕あり。 ○ 背部、刃部に著しく、背部は直線状になり、刃部は刃先が失われる。	鉄分付着 		
PL.42-8	S-07-1251 MN54 第12号土器堆積 (SL 311) 黒褐色土層	14.4 (2.9) 0.8 2.3 (57)	緑色片岩	F 片刃。完形。身幅の狭い、半月形直刃形態に近い。刃部は全体的に浅く内彎する(深1mm)。刃面には左右方向の研ぎ直しがみられる。紐孔は左寄り、右下方に傾いて位置する。(内4.5mm、外6.5mm) ○ 両面とも光沢をもつ。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなっており、B面刃部には刃先より左上方へのびる面の磨滅がみられる。A面紐孔間を結ぶ方向に紐擦れ痕あり。 ○ 背部、刃部にあり。背部中央は背潰れが著しく紐孔に至っており凹凸をなし、原形は失われる。刃先全体にもみられる。			
PL.42-12	S-07-1150 MR54 砂礫混黒褐色土層	(9.5) (3.3) 0.9 2.2 (47)	緑色片岩	F 片刃。本来的に背部は彎曲し、刃部は全体として内彎しており(深約3mm)、端部で切れ上がる。(内4.5mm、外6mm) ○ 刃先は背潰れ痕により失われているが、B面刃部には刃先より左上方へのびる面の磨滅がみられる。 ○ 背部・刃部に著しい。背部は紐孔まで潰れており、平坦になる。刃先B面側へ傾斜した背潰れ痕あり、刃先は失われる。	鉄分付着 		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 址 (cm) (g)	長 幅 厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
PL.42-13	S-07-1729 MJ54 溝・下部流路内 (SF 074) 褐色砂層	(11.7) (3.5) 0.8 3.0 (54)	緑色片岩	F 片刃。背部は本来的には半円形状に深く彎曲し、刃部は浅い内彎刃を呈す(深約2.5mm)。刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり。紐孔は右下方に傾いて位置する。(内6mm、外10mm) ○ 刃先は失われており不明。B面紐孔の左側に刃先より左上方へのびる面の磨滅がみられ、肩部に至る。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背部・刃部にあり。特に左半分に着しく、背部は左孔まで潰れており、刃部は刃面が失われる。			
fig・15	S-07-1525 MK63 溝 (SF 075) 黒色土層	(12.8) 4.3 0.9 3.3 (60)	緑色片岩	F 片刃。背部は中央が浅く彎曲し、肩部で屈折し内彎して端部へのびていく。刃部は全体的に内彎し(深3.5mm)、刃部稜は明確で刃面は傾斜が急である。刃面は研ぎ直しによる。紐孔は極端に左下がりに位置する。右孔は外孔が五角形状を呈する。(内右5mm、左6mm、外A7mm、B8mm) ○ 両面とも光沢をもち、刃先は刃線に直交する磨滅が著しく、丸くなっており、中央部では刃線に凹みをなす。刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅がみられ、肩部背面角は丸くなる。B面左上方へのびる紐擦れ痕あり。 ○ なし	S-07-0564と接合。 鉄分付着。 		
	S-07-0010 MO62 黒褐色土層	(8.4) 4.3 0.7 2.2 (43)	緑色片岩	F 片刃。本来は身幅の広い浅い外彎刃形態であったが使用により中央部が内彎する(深約4mm)。紐孔は両面に敲打後穿孔。紐孔径は比較的小さい。(内4mm、外11mm) ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先には刃線に直交する磨滅痕がみられ、丸くなり中央部では特に著しく、内彎刃を呈し、中央部の刃面は失われている。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし	A面に鉄分付着。 紐孔部は双孔とも円形に鉄分の付着のない部分がある。 		
	S-07-0011 MN62 黒褐色礫混合土層	(4.8) (3.8) 0.6 — (17)	緑色片岩	F 片刃。刃部の一部分のみ残存し、刃先は使用により凹凸があるが、刃部稜は浅く内彎する。刃面には刃線に沿った研ぎ直しあり。 ○ 刃先は刃線に直交する磨滅があり、B面左上方へのびる面の磨滅あり。左肩部は磨滅によりうすくなる。 ○ なし	A面に鉄分付着。 		
	S-07-0041 KH67 第3層・黒色砂質土層	(7.9) 3.9 0.9 2.5 (38)	緑色片岩	F 片刃。背部・刃部は平行して彎曲する(深約4.5mm)。B面は平坦な面であり、紐孔部背面に最大厚があり、端部へいくにつれてうすくなる。長軸においてB面側へわずかに彎曲する。A面右孔は敲打面中心と穿孔中心とにいちがいが生じる。(内5.5mm、外8.5mm) 紐孔の左寄りに1対の未貫通穿孔痕あり。(紐孔間の距離33mm) ○ 両面とも磨滅により、光沢あり。刃先は刃線に直交する磨滅があり、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅がB面刃部にみられ、浅い凹面を呈す。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし	B面に鉄分付着。 		
	S-07-0043 KK67 第3層・黒色砂質土層	(10.1) 4.1 0.8 2.4 (55)	緑色片岩	F 片刃。刃部中央で内彎(深約5mm)。背部中央で剥離しているがその部分にも研磨がおよぶ。紐孔は左下方に傾斜している。刃面には研ぎ直しが施され、刃先に沿った方向である。内彎部分では右上一左下方向の研磨が混在している。(内6mm、外7mm) ○ 両面とも磨滅により光沢をもち、刃先には磨滅がみられ、内彎部分では特に著しく丸くなる。刃先よりB面左上方及び刃線に直交してのびる面の磨滅がみられ、B面左肩部に至り、肩部でやや凹面を呈す。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面中央部にあり。			
	S-07-0046 KF69 第3層・黒色砂質土層	(5.4) (4.0) 0.7 1.7 (24)	黒色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃を呈す(深3.5mm)。刃面には左右方向のあらい研ぎ直しがあり端部刃面の幅は広いが(幅7.5mm)中央部では狭くなる(幅3.5mm)。紐孔は両面に敲打後穿孔。内径は三角形の不正円形を呈す。(内6.5mm、外不明) ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先は丸く磨滅しB面へのびる面の磨滅あり。B面右肩部左下-右上方向の磨滅で丸くなる。A面紐孔間方向に紐擦れ痕あり。 ○ 刃先にあり。			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
	S-07-0047 KP66  第4層か・整地面	(8.3) 4.1 0.7 2.3 (47)	緑色片岩	F 片刃。刃部は全体的に内彎(深約4mm)。左端部両面に打ち欠きがみられる。刃面には左上-右下方向の研ぎ直しが施される。紐孔は五角形状を呈す(内6mm、外7.5mm)。やや右下方へ傾斜して位置する。左端部両面に対応して敲打痕残存。 ○ 刃先は丸く磨滅しており、刃先よりB面へのびる面の磨滅もみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 左端部背面にわずかにあり。	A面に鉄分付着。 		
	S-07-0052 MJ57  黒色土層	14.3 4.2 0.7 2.5 63	緑色片岩	F 片刃。略完形。刃部中央で浅く内彎(深4mm)。両端部わずかに欠損後再使用。刃面には右端部はやや右上がりの研磨がみられ、他は左右方向の再研磨がみられる。紐孔は左寄りに位置する。左孔には重なって2個の未貫通穿孔痕がある。紐孔は左寄り、やや右下に傾斜して位置する。両面に研磨の及ばない片理面が残存し、右肩部には打ち欠きによる欠損面もあるがそれらの面は全部磨滅している。 ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われる。刃先は丸く磨滅し、中央内彎部分には刃線に直交する方向の磨滅がみられB面刃部にそのまま及び左上方へのびる面の磨滅があり、左肩部に至り、背面はうすくなる。B面では背方向に紐擦れ痕あり。 ○ 左端部背面にあり。			
	S-07-0054 MJ57  黒色土層	(7.7) 3.8 0.7 2.3 (33)	緑色片岩	F 片刃。本来的には身幅の狭いDタイプだった様である。刃部は全体的に内彎刃を呈す(深約4mm)。刃面は中央部で幅が狭くなり傾斜が急になる。刃面には左右方向の研ぎ直しが施される。紐孔は敲打後穿孔される。B面にわずかに敲打痕残存す。端部もうすくつくられる。(内7mm、外10mm) ○ 両面とも光沢あり。刃先は丸く磨滅しており、B面左上方へのびる面の磨滅もみられる。両面共に紐擦れ痕は顕著である。B面端部には片理面があり、そこにも磨滅している。 ○ 背面にわずかにあり。			
	S-07-0062 KF68  第3層・黒色砂質土層	(9.1) 3.9 0.8 2.4 (52)	黒色片岩	F 片刃。比較的長さがあり、刃部はごく浅い内彎刃である(深約3mm)。刃面は上下二面あり、左右方向の研ぎ直しがみられる。B面左端部に敲打痕残存。紐孔は左下がりに傾斜する。(内5.5mm、外7.5mm) ○ 両面とも磨滅して、光沢をもつ。刃先は磨滅が著しく丸くなっており、B面左上方へのびる面の磨滅がみられる。B面左孔背にむけて、擦った様な痕跡がある。 ○ 右肩部背面、刃部右端部にわずかにあり。			
	S-07-0072 MZ  表採	(8.9) 3.4 0.6 2.0 (31)	緑色片岩	F 片刃。身幅は狭い。刃部は浅い内彎刃である(深約3mm)。紐孔は両面に敲打後穿孔(内4.5mm、外7mm)。刃面には左右方向の研ぎ直しあり。 ○ 両面とも磨滅して研磨痕は浅くなる。B面紐孔の左側は磨滅が著しく浅い凹面を呈す。B面に背方向に紐擦れ痕あり。 ○ 刃先全体にあり。B面に小さな剝離を伴う。背面にもわずかにあり。			
	S-07-0082 MJ57  褐色砂層	(6.6) 4.8 0.7 — (35)	緑色片岩	F 片刃。身幅は広く、平面形は彎曲した矩形を呈す。刃部は内彎刃(深3mm)。両面とも研磨の及ばない片理面がある。紐孔は両面に敲打後穿孔。身幅のほぼ中央に位置する。 ○ 両面とも磨滅して研磨痕が浅くなる。刃先は刃線に直交する磨滅が著しく、丸くなっている。刃線上磨滅の著しい所は小さく凹んでいる。 ○ なし			
	S-07-0084 MJ57  褐色砂層	(6.5) 3.5 0.6 3.0 (23)	緑色片岩	F 片刃。身幅は狭く、残存部分では背面はわずかに彎曲。刃部はごく浅い内彎刃を呈す(深約1.5mm)。刃面は左右方向の研ぎ直しがある。(内5.5mm、外8mm) ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、又刃線に細かな凹凸がある。刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面全体にあり。紐孔上方背面は平らになっている。			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。







図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法 量 (cm) (g)	長 幅 厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
	S-07-0085 MJ56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(5.2) (3.6) 0.6 — (23)		緑色片岩 (点 紋)	F 片刃。刃部は本来的には外彎刃であったものが内彎刃に変化したもの(深約 1.5mm)。刃面には左右方向の研ぎ直しがみられる。刃面は部分により傾斜が異なり、中央傾斜は急である。 ○ 両面は磨滅して光沢あり。刃先からB面へかけて刃線に直交する磨滅があり、B面左上方へのびる左肩部に至る。肩部角も磨滅によりうすくなる。 ○ なし		
	S-07-0086 MJ56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(8.3) 4.0 0.8 2.2 (42)		緑色片岩	F 片刃。刃部は全体的に内彎(深約 5mm)。刃面には右上-左下方向の研ぎ直しがみられる。刃部稜に最大厚あり。紐孔は両面より敲打後、穿孔されるが、B面には敲打痕殆ど残らず、A面に著しい。A面紐孔右下方に一对の敲打痕があり、右孔に穿孔を施した痕跡が残存。(内 7mm、外 9.5mm) ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われ、刃先には磨滅がみられる。刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅がみられ、B面左肩部に至り、背面はうすくなる。両面に紐擦れ痕が著しい。 ○ 右端部にわずかにみられる。		
	S-07-0099 MH56 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(8.3) 3.5 0.8 2.1 (36)		緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃を呈す(深約 1.5mm)。背面は弓なりに彎曲。紐孔は右下方へ傾斜する。刃面には左右方向の研ぎ直しあり。(内 5.5mm、外 7.5mm) 双孔中央に未貫通穿孔痕あり。 ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先は刃線に直交する磨滅痕がみられ、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅もみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし		
	S-07-0127 MI56 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(6.6) (4.2) 0.6 — (26)		緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃を呈し(深約 2mm)、刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり。背面は弓状に彎曲する。 ○ 両面とも磨滅して研磨痕は浅くなり、刃先は刃線に直交する磨滅により丸くなる。 ○ なし		
	S-07-0137 KT60 溝 (SF 074) 第3層・黒色砂質土層	(8.0) (3.7) 0.7 — (27)		緑色片岩	F 片刃。刃部先端は背潰れの為欠損するが、残存する刃部稜が内彎する。端部では切れ上がる。長軸においてA面側へ彎曲。両面に剝離面残存。(内 6mm、外 12mm) ○ 両面とも光沢あり。 ○ 刃先全体が両面に剝離し、そのエッジに背潰れ痕あり。端部にも同様の痕跡あり。		
	S-07-0174 MP63 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	13.2 (2.9) 0.8 2.4 (66)		緑色片岩	F 片刃。完形。刃部は全体的に内彎(深 4.5mm)。右端部欠損後再研磨再使用。紐孔は左寄りに左下方へ傾いて位置する。紐孔は不正円形を呈し、左孔では三角形状である。刃面左側では刃線に沿った方向、右側では右上がりの方向性をもつ研ぎ直しがみられる。(内 6mm、外 9.5mm) B面右孔右に未貫通穿孔痕あり。 ○ 両面とも磨滅して光沢をもつ。刃先は丸く磨滅しており、B面左上方へのびる面の磨滅がみられ、左肩部に至る。両面とも紐擦れ痕がみられる。 ○ 背面中央部に著しい。平坦になる。背潰れ部分の右半分はA面に傾き左半分ではB面側に側く、刃部左端部にもわずかにみられる。		
	S-07-0182 ML61 溝 (SF 074) 黒色土層	(8.2) (4.7) 0.7 2.6 (43)		緑色片岩	F 片刃。身幅は広く、刃部は浅く内彎する(深約 1mm)。A面に剝離面残存。紐孔は左下方へ傾斜する。B面は平らだが、A面はB面側へ彎曲し、端部でうすい。 ○ 両面とも研磨痕は浅くなっており、刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、B面左上方へのびる面の磨滅あり。B面右孔背方向に紐擦れ痕あり。 ○ 背面中央部、左孔下方刃部にあり。背面は平坦になり、刃部は凹み、刃先を失う。	A面に鉄分付着。 	

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。



石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
	S-07-0204 KK66 Pit 1 第3層・黒色砂質土層	(9.3) (3.7) 0.7 3.0 (39)	緑色片岩	F 片刃。背面は彎曲し、刃部は内彎刃を呈す(深約4mm)。B面右端部には敲打痕があり、うすくなっている。 ○ 両面とも磨滅して光沢がある。刃先の磨滅は著しく、刃面が狭くなっており、刃先よりB面にのびる面の磨滅により、両刃気味になっている。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面中央部に著しく、背面の原形は失われ、平坦になる。			
	S-07-0262 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	(9.7) 3.9 0.8 2.3 (43)	緑色片岩	F 片刃。刃部は中央部で浅く内彎し、右端部は直刃を呈す(深約3mm)。刃部稜に最大厚あり。刃面には左右方向の研ぎ直しがみられる。右肩部に打ち欠きあり。(内6mm、外10mm) ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先には刃線に直交する磨滅がみられるが比較的鋭い。刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅が著しく、肩部に至る。その面は全体として浅い凹面を呈し、他より光沢がある。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし			
	S-07-0270 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	(9.8) 4.4 0.6 2.4 (48)	緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅く内彎(深約2mm)。刃面にのみ左右方向の研ぎ直しがみられる。(内6mm、外7mm) ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われている。刃先には磨滅がみられ、内彎部は刃線に直交する磨滅で丸くなっている。B面刃部には刃先の磨滅痕がそのままのびるものや左上方へのびる磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 右肩部背面にあり。			
	S-07-0272 NI 58 第3層	(7.6) (3.8) 0.7 3.0 (34)	緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅く内彎刃を呈し(深約1mm)、背部は中央は平らに近く、肩部で円く屈曲する。端部はA面側に小さく剝離している。刃面には左右方向の研ぎ直しあり。(内5.5mm、外7mm) ○ 両面とも磨滅して研磨痕は消えている。刃先は刃線に直交する磨滅痕があり。B面にのびる面の磨滅がある。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 紐孔部上方の背面に著しく、浅く凹む。			
	S-07-0293 MJ58 廣混黒色砂質土層	(8.7) 4.8 0.7 3.3 (51)	緑色片岩	F 片刃。身幅の広い形態。刃部は内彎刃を呈す(深5mm)。A面体部には傾斜の急な右上-左下方向、B面体部も同方向、紐孔部のみ上下方向に研磨痕。刃面には左右方向のあらい研ぎ直しがみられる。紐孔は左下方に傾いて位置する。(内5.5mm、外8mm) ○ 両面とも研磨痕は浅く残存し、刃先には刃線に直交する磨滅があり、B面刃部にのびている。 ○ なし			
	S-07-0323 MM61 溝 (SF 074) 褐色砂層	(10.0) (3.0) 0.8 2.9 (39)	黒色片岩	F 片刃。身幅は比較的狭く、刃部は全体的に内彎(深約7mm)。左肩部A面に大きく剝離面残存するが、再研磨再使用。刃先右側に鋭いもので抉りつけた様な痕跡あり。(内6.5mm、外8.5mm) 刃面には右上-左下方向の研ぎ直しがみられる。 ○ 両面とも磨滅により光沢をもつ。刃先中央部には刃線に直交する磨滅が著しく、刃先は丸くなる。B面刃部には左上方へのびる磨滅と刃線に直交する磨滅がみられる。 ○ 背面に著しく、原形を失い紐孔に至る。			
	S-07-0328 KG66 Pit 12	(10.1) 3.3 0.7 2.8 (36)	緑色片岩	F 片刃。右端部は円く、左端部は鋭い鎌形を呈す。身幅も狭く、比較的短く小型である。刃部は左寄りに浅く内彎する(深2mm)。紐孔は左下方へ傾いて位置しており、両面に敲打後穿孔。(内5mm、外8mm) B面右孔左側に未貫通の穿孔痕あり。刃面には刃線に沿った研ぎ直しがみられる。左肩部、背面中央部に剝離欠損あり。 ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先は丸く磨滅し、B面左上方へのびる面の磨滅がみられる。B面背方向に紐擦れ痕あり。B面右孔右上方へのびるあらい擦痕あり(幅2mm)。紐擦れ痕の一種か。 ○ 右孔上方の背面にわずかにあり。			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。










図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
	S-07-0338 KL67  黄色土層	(7.4) 3.5 0.9 1.9 (34)		緑色片岩	F 片刃。背部・刃部が平行して彎曲。刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり。紐孔は左下方へ傾斜して位置する。 ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先は刃線に直交する磨滅があり、B面左上方へのびる面の磨滅もみられる。B面紐孔には背方向の紐擦れ痕あり。 ○ 背面にわずかにあり。		
	S-07-0342 MI57 溝 (SF 074) 褐色土層	(5.6) 4.0 0.7 1.8 (31)		黒色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃。(内 4.5mm、外 7.5mm) ○ 両面とも光沢あり。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし		全面煤が付着して黒光りを呈す。 
	S-07-0362 KZ  表採	(11.9) (4.1) 0.7 2.8 (58)		緑色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃である(深約 3mm)。紐孔は左下方に傾斜して位置する。(内 6mm、外 8.5mm) ○ 両面とも磨滅が著しく、光沢あり。刃先は丸く磨滅しており、著しい所は刃線上凹む部分があり凹凸を呈す。両面に紐擦れ痕が著しい。 ○ 背面全体及び左孔左下方刃先にあり。		
	S-07-0363 KLZ  表採	(5.5) 4.1 0.8 2.6 (28)		緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃。刃面には左右方向の研ぎ直しがみられる。紐孔は両面に敲打後穿孔。(内 7.5mm、外 8.5mm) ○ 両面とも磨滅して研磨痕は消えている。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなっており、B面左上方へのびる面の磨滅あり。両面に紐擦れ痕顕著。 ○ なし		
	S-07-0377 MB59  黒褐色礫混土層	(8.1) 4.3 0.6 2.0 (39)		緑色片岩	F 片刃。背面中央部は平坦で肩部で屈折して傾斜し、端部に至る。端部は再加工により円い側面を呈す。刃部は全体的に浅い内彎刃(深 4mm)。大型石庖丁の再加工品と考えられ、左孔上方の背面に以前の穿孔痕の痕跡が残存。(内 5mm、外 7mm) B面右孔下に未貫通穿孔痕あり。 ○ 両面とも研磨痕は浅くなっており、刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、刃線上細かな凹凸がある。刃先よりB面刃部に左上方へのびる面の磨滅あり。 ○ なし		鉄分付着 大型石包丁からの転用。 
	S-07-0381 MC59 溝 (SF 075)	(6.8) (3.8) 0.7 — (23)		緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃を呈し、(深約 1.5mm) 刃面には左右方向の研ぎ直しあり。 ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、刃線上凹凸あり。刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅があり、左肩部に至り、左肩部はうすくなる。 ○ なし		鉄分付着 
	S-07-0398 MD58  黒褐色礫混土層	(5.9) (3.3) 0.7 — (17)		緑色片岩	F 片刃。刃部は内彎刃を呈すが端部で切れ上がる。(深約 2.5mm) 端部は円くうすくつくれる。刃面には左右方向、右上-左下方向の研ぎ直しがみられ、中央部の傾斜は急角度を呈す。背面欠損。 ○ 両面とも磨滅して研磨痕は浅くなる。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、B面刃部には左上方へのびる面の磨滅もみられる。端部のエッジも同様にB面へのびる磨滅あり。 ○ なし		
	S-07-0447 MK63  黒褐色礫混土層	(8.9) (3.6) 0.7 2.2 (36)		緑色片岩	F 片刃。比較的短い。刃部はごく浅い内彎刃(深約 2mm)。刃面には左右方向の研ぎ直しが認められる。体部には研磨の及ばない片理面が残存する。紐孔は敲打後穿孔。(内 5.5mm、外10mm) ○ 両面とも研磨痕は尖われ、磨滅している。刃先には刃線に直交する磨滅痕あり、B面刃部には左上方へのびる面の磨滅もみられる。両面とも紐擦れ痕が顕著。 ○ 背面中央部にあり。平坦になっている。		

( )は残存部分の法量である。


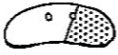
( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備考
						○使用痕跡 ○背潰れ痕	
	S-07-0454 MM61 溝 (SF 074) 腐混褐色砂層	(5.5) (3.4) 0.5 — (17)		緑色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃である(深約 1.5mm)。刃面には左右方向の研ぎ直しが有り、A 面体部には右上-左下方向、B 面刃部にも同じく研ぎ直しが有り。端部は直線的な側辺を呈す。 ○ B 面体部の研磨は失われる。刃先は研ぎ直しにより鋭くなっているが端部の刃先には刃線に直交する磨滅痕が残っており、また側辺のエッジも磨滅し、B 面へのびる磨滅もみられる。 ○ 背面は両面に剝離し、そのエッジにあり。		
	S-07-0471 MD61 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	(8.3) 3.9 0.7 1.8 (38)		緑色片岩	F 片刃。身幅は狭く、長さのある形態。長軸において B 面側へ彎曲。刃面 B 面下半部右上がりの研ぎ直しが有り。刃部は浅い内彎刃を呈す(深約 4mm)。紐孔は左下方へ傾いて、身幅の中央に位置する(内 5.5mm、外 9mm)。 ○ 両面とも研磨痕は失われる。刃先には刃線に直交する磨滅がわずかにあるが鋭さが残存。B 面刃部左上方へのびる磨滅あり。左肩部に至り、浅い凹面を呈す。 ○ なし		
	S-07-0472 ME60 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	(9.5) 3.9 0.6 2.6 (41)		黒色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃(深約 2mm)。再研磨され両面に細かな研磨があり。A 面体部下半は左右方向、上半は右上がりの方向、刃面にはやや右上がりの方向、B 面体部には右上-左下方向、下半は右上がり方向の研磨である。背面はいくつかの研磨面からなる。(内 6mm、外 8mm) ○ 刃先には刃線に直交する磨滅がみられ、丸くなる。B 面刃部中央の研磨は磨滅により消える。B 面背方向に紐擦れ痕あり。 ○ なし		
	S-07-0486 MG61 溝 (SF 075) 礫混褐色土層	(8.0) 5.2 0.7 2.1 (50)		緑色片岩	F 片刃。比較的身幅は広く大型になる。両面とも刃部周辺に右上-左下方向の研ぎ直しが有る。(内 5mm、外 8mm) 刃部はごく浅い内彎刃を呈す。 ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先は背潰れ痕により殆ど失われているが、B 面紐孔左側の体部から背部にかけて左上方へのびる面の磨滅があり、背面はうすくなる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面、刃先全体にあり。		
	S-07-0494 MF60 溝 (SF 075) 黒褐色礫混入土層	(7.0) (3.3) 0.7 — (28)		緑色片岩	F 片刃。刃部は全体的に浅く内彎(深 2mm)。刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しがみられる。 ○ 両面とも磨滅により光沢あり。刃先は磨滅し、刃先より B 面左上方へのびる面の磨滅もみられる。 ○ 背面に著しく、背面の原形は失われ、平坦になっている。刃先にもあり。		
	S-07-0508 MM61 溝 (SF 074) 第1間層下・褐色砂層	(5.7) (3.8) 0.7 3.0 (19)		緑色片岩	F 片刃。刃部は内彎刃を呈す(深約 3mm)。刃面には右上がりのあらい研ぎ直しが有り。 ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先は背潰れ痕によりつぶれており、刃先より B 面左上方へのびる面の磨滅があり、左肩部に至る。 ○ 背面剝離面のエッジ、刃部内彎部にあり。刃先より B 面へ刃線に直交する線条痕がみられる。		
	S-07-0517 不明	(7.5) 4.0 0.7 2.2 (40)		緑色片岩	F 片刃。B タイプの長方形態を呈す。刃部は浅い内彎刃(深 2.5mm)。A 面の背面には研磨以前の打ち欠きが残る。刃面には右上-左下方向の研ぎ直しが施される。左孔右に未貫穿孔痕あり。B 面右肩部に鋭い刃物で抉ったような痕跡あり。(内 5mm、外 9.5mm) ○ 両面とも磨滅により光沢をもつ。刃先は丸く磨滅し、著しい所は小さく凹み、刃線上凹凸をなす。刃先より B 面左上方へのびる面の磨滅もみられる。B 面右孔に背方向の紐擦れ痕顕著。 ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径;右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
	S-07-0546  不明	(4.0) 3.6 0.8 — (14)		緑色片岩	F 片刃。身幅は狭く、刃部は内彎刃を呈す。両面とも刃部周辺には右上一左下方向の研ぎ直しあり。刃部稜は不明瞭で丸く屈曲する。 ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなる。左肩部も左上方へのびる面の磨滅で丸くなる。 ○ 背面、A面側に傾斜してわずかにあり。		
	S-07-0549 MF61 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(7.5) (3.2) 0.6 — (23)		緑色片岩	F 片刃。平面形は身幅の狭い長方形。刃部は中央で浅く内彎するが、端部で切れ上がる。刃面には右上がりの研ぎ直しあり。B面刃部にも刃先に沿った方向の研ぎ直しあり。端部も両刃状に鋭くつくられる。右孔の右下方に敲打痕あり。B面では凹面を呈する。 ○ A面には研磨痕は浅く残存し、B面では消えている。研ぎ直しにより刃先の使用痕は消えている。 ○ 背面にあり。		
	S-07-0550 MQ56 溝 (SF 078) 黒色粘質土層	(6.5) 3.6 0.6 2.4 (23)		緑色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃(深約 1.5mm)。背部は弓状に彎曲。刃部稜に最大厚あり。両面とも体部は平らな面であり背面との境は角をなす。紐孔は左下方へ傾斜す。右孔は七角形を呈す。(内 6.5mm、外 8.5mm)。刃面の幅は広く、上方は左右方向。刃先には右上一左下方向の研ぎ直しあり。 ○ 両面とも体部は磨滅により研磨痕は失われ、刃先は磨滅し、B面左上方へのびる面の磨滅が刃部及び体部左側にみられ、左肩部は磨滅によりうすくなる。 ○ なし		
	S-07-0552 MP57 溝 (SF 078) 黒色粘質土層	(8.2) 3.7 0.8 2.2 (39)		緑色片岩	F 片刃。刃部は全体的に浅い内彎刃を呈すが、使用により中央で更に深く凹む(深約 6mm)。背面は中央が平らで肩部で屈折した形態である。刃面には右上一左下方向、上下方向の研ぎ直しがみられ刃面の幅は広い(幅12mm)。紐孔は右下方へ傾斜している。(内 5.5mm、外 9mm) ○ 両面とも磨滅により光沢あり。刃先には刃線に直交する方向の磨滅がみられ内彎部では、特に著しく、更に凹むとともに、刃線に凹凸を生ずる。また刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅がみられ、左肩部に至り、背面はうすくなる。A面右肩部にも左下一右上方向へのびる面の磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし		
	S-07-0560 MD60 溝 (SF 075) 黒色土層	(8.2) (3.8) 0.8 3.4 (42)		緑色片岩	F 片刃。刃部は浅く内彎する(深約 2.5mm)。背面は中央部は平坦で端部に至り屈曲して左下方へ下る。紐孔は身幅の刃部寄りに左下方へ傾いて位置する。(内5.5mm、外7.5mm) ○ A面は研磨痕は浅く残り、B面では光沢あり。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面にあり。左肩部では両面に剝離し、そのエッジにもあり。刃先全体にあり。中央部では刃先は失われている。		B面に鉄分付着。
	S-07-0564 MK63 溝 (SF 075) 黒色土層	(12.8) 4.3 0.9 3.3 (60)		緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃であり、中央が使用により更に凹む(深 3.5mm)。背面の形態は特殊で、中央部は浅く彎曲しており、両肩部で屈折して端部に至る。両肩部では浅く抉られた様に内彎している。大型石包丁の(4)と類似。紐孔の距離は他と比べて長く、紐孔は左下方に大きく傾いて位置する。右孔は内側は正円形を呈すが外側の稜はA面では五角形である。(内右 5mm、左 6mm、外 A 7mm、B 8mm) 刃面は体部と急角度で傾斜し、刃線に沿った方向性をもつ研ぎ直しあり。 ○ 両面は磨滅により、光沢あり。刃先は刃線に直交する方向の磨滅があり、丸くなる。刃線はその為、凹凸がある。中央部の磨滅は特に著しい。B面左孔には背方向の紐擦れ痕あり。 ○ なし		S-07-1525と接合。 鉄分付着

( )は残存部分の法量である。


( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備考
						○使用痕跡 ○背潰れ痕	
	S-07-0581 MZ 溝 (SF 075)	(9.0) 3.9 0.9 2.3 (48)	緑色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃である(深約 2.5mm)。端部で切れ上がる。刃面にはやや左上がりの研ぎ直しがみられるが、刃部後には不明瞭である。背部はうすく刃部後に最大厚あり。紐孔は左肩部に左下方に傾斜して位置する(内5mm、外A 7mm、B 9mm)。右孔左縁上に未貫通穿孔痕あり。左孔は両面に敲打後穿孔。 ○ 両面とも光沢をもち、刃先は丸く磨滅。刃先より、B面左上方へのびる面の磨滅がある。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし	火をうける。 		
	S-07-0582 MR63 褐色砂層	(12.2) (3.8) 0.6 2.3 (47)	緑色片岩	F 片刃。背潰れ痕や欠損により背面の原形は失われる。刃部は浅く内彎(深 2.5mm)。体部右側でB面側へわずかに彎曲。(内5mm、外7mm) 刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しがみられる。 ○ 両面とも磨滅して研磨痕は浅くなり、部分により消えている。刃先には磨滅がみられ、著しい所は凹んだ所もあり、刃線には凹凸がみられる。刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅があり、左肩部に至りうすくなっている。両面とも右孔に紐擦れ痕残存。 ○ 背面全体にあり。背潰れが著しく、原形を失い紐孔にまで至る。刃部左側にもあり、刃先は失われている。			
	S-07-0586 MR63 溝 (SF 074) 灰褐色砂層	(4.5) 3.9 0.8 — (18)	緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃(深 2mm)。A面右端部に敲打痕残存。紐孔はA面では右上方より、B面では体部に直角に二度穿孔する為くいちがいを生じ孔が大きく、不正円形を呈す。(内6mm×8mm、外9mm) ○ 両面とも右端部以外は研磨痕は失われている。右端部には共に、上下方向の細かな研磨がみられる。刃先は二次使用の為殆ど失われているが、刃線に直交する磨滅がみられB面左上方へのびる面の磨滅もみられ、左肩部に至り、背面はうすくなる。B面に背方向の紐擦れ痕が著しい。 ○ 刃先はB面側の細かな打ち欠きがみられ、そのエッジに背潰れ痕あり。			
	S-07-0589 不明	(10.1) 4.3 0.7 2.4 (53)	緑色片岩	F 片刃。刃部の右側に内彎部分あり(深約 5mm)。A面体部には右上-左下方向の研磨が残存。刃面には刃線に沿った方向性をもつ研ぎ直しがみられる。(内 7.5mm、外10mm) 背面A面角には鋭い刃物で抉った様な痕跡あり。 ○ 刃先には刃線に直交する磨滅痕が著しく、丸く磨滅している。刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅もみられ、左肩部に至る。紐擦れ痕は両面にみられる。刃先の磨滅の著しい所は凹面を呈し、刃線に凹凸がみられる。 ○ 中央部紐孔上方背面にあり。背潰れが著しく凹んでいる。			
	S-07-0599 JB63 黑色砂質土層	(8.1) (4.3) 1.0 — (50)	緑色片岩	F 片刃。刃部は中央で浅い内彎刃を呈し、(深約 1mm) 端部には剝離面あり、切れ上がる。背面より打ち欠き面残存。刃面には左右方向の研ぎ直しあり。(内 4mm、外 7mm) ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われる。刃先には刃線に直交する磨滅あり丸くなり、B面左上方へのびる面の磨滅もみられる。 ○ なし			
	S-07-0611 MY61	(6.0) (3.5) 0.8 2.6 (30)	緑色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃(深約 2mm)。刃面には右上がりの研ぎ直しがみられる。欠損、背潰れにより原形不明。(内 6mm、外 9mm) ○ 両面とも研磨痕は失われる。刃先は刃線に直交する磨滅痕があり、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面全体にあり。背面はやや平坦に変形。			
	S-07-0626 MC60 溝 (SF 075) 黑色砂質土層	(3.9) (3.8) 0.8 2.2 (18)	緑色片岩	F 片刃。刃部は内彎刃を呈す。B面では片面に沿って剝離しており不均一な厚さである。刃面には研ぎ直しがみられる。 ○ 両面とも磨滅して光沢あり。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面にあり。刃先にもあり。刃先の磨滅痕が刃面にものびている。			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-0628 MY61  黒褐色砂質土層	(12.1) 3.5 0.7 2.7 (48)	緑色片岩	F 片刃。身幅は狭く、平面形は彎曲した矩形を呈す。両端は欠損。長軸でB面側へ彎曲している。紐孔は身幅の略中央に位置する。(内6mm、外左10.5mm、右6.5mm) 刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり。B面と背面角に鋭い刃物で抉った様な凹みが6ヶ所ある。 ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われている。刃先には刃線に直交する磨滅がありB面左上方へのびる面の磨滅もみられ、左肩部に至る。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし			
	S-07-0664 IV66  黒褐色砂質土層	(7.9) 4.2 0.7 — (36)	緑色片岩	F 片刃。刃部は本来的には浅い外彎刃を呈していたが、中央で浅く内彎する(深約3mm)。刃面は幅が広くやや右上がり方向の研ぎ直しがみられ、端部より中央部の刃面の傾斜は急である。長軸に於いてS字状にわずかに屈曲する。 ○ 両面とも光沢あり。刃先は鋭く中央部でわずかに刃線に直交する磨滅がみられ、B面へのびている。B面左肩部は背面より剝離後、面の磨滅により浅い凹面を呈し、背面はうすくなる。B面背方向の紐擦れ痕顕著。 ○ 背面にあり。	鉄分付着 		
	S-07-0667 JA62  床土層	(9.0) (3.2) 0.6 2.7 (29)	緑色片岩	F 片刃。身幅は狭く、刃部・背部は平行して彎曲す。刃部は大きく内彎(深約6mm)。刃面には左右方向の研ぎ直しがみられる。 ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背部・刃部全体にあり。刃先は背潰れにより失われている。			
	S-07-0673 MH63 溝 (SF 075) 黒色土層	(7.6) 3.3 0.7 2.5 (26)	緑色片岩	F 両刃気味片刃。刃部は全体的に内彎刃を呈する(深6mm)。紐孔は身幅の中央にある。端部は剝離欠損するが再研磨再使用。(内6mm、外9mm) A面体部にひっかき傷の様なあらい研磨がみられる。 ○ 刃先は丸く磨滅し、中央部では刃線に直交する方向の磨滅があり、B面左上方へのびる面の磨滅があり、左肩部に呈る。 ○ 右肩部背面にあり。	鉄分付着 		
	S-07-0674 JA63  黒色砂質土層	(12.5) 3.1 0.8 2.4 (47)	緑色片岩	F 片刃。長さがあり、身幅のせまい形態。刃部は全体的に大きく内彎。刃面には刃線に沿った方向性をもつ研ぎ直しがみられる。背部には剝離面が残存しており、その面にも磨滅がみられる。紐孔は左よりに位置する。(内5mm、外7.5mm) 左孔右側に未貫通穿孔痕あり。左孔は三角形の不整形を呈す。 ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われている。刃先は丸く磨滅しており、中央部では磨滅により小さく凹んだ部分もある。B面刃部には刃先より、刃線に直交する磨滅痕。左側では左上方へのび、右側では右上方へのびる磨滅痕も混在する。又、B面の両肩部にはそれに対応する面の磨滅もみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面(右肩部)にあり。			
	S-07-0680 JA63 溝 (SF 079) 黒色砂質土層	(7.8) 4.3 0.6 2.1 (38)	緑色片岩	F 片刃。平面形は彎曲した矩形を呈す。刃部は浅い内彎刃(深約4mm)。紐孔は左下方へ傾斜して位置する。(内5mm、外8.5mm) A面体部に敲打痕が残存。 ○ 両面とも研磨痕は失われ、刃先は丸くなる。B面刃部は磨滅により光沢をもつ。B面紐孔には双孔とも背方向に(左上方にむかって)紐孔の外縁上に紐擦れ痕があり、A面右孔ではそれに対応して幅4mmの溝をきった様に明瞭な紐擦れ痕がある。 ○ 背面・刃部にあり。背面は背潰れ痕により凹凸あり。			
	S-07-0701 JB67  黒褐色砂質土層	(8.3) 4.1 1.0 2.5 (58)	緑色片岩	F 片刃。平面形は彎曲した矩形。長軸でB面へ彎曲す。刃部は浅く内彎(深約2.5mm)。刃面には左右方向の研ぎ直しがみられ、刃面幅は広い。端部は両面に剝離欠損し、エッジは磨滅。紐孔は両面に敲打後穿孔され、B面右孔は敲打面の中心と紐孔の中心はくいちがい、また両面からの穿孔の方向もくいちがっている。(内5.5mm、外10mm) ○ 両面とも光沢を有し、刃先は丸く磨滅し、B面左上方へのびる面の磨滅もみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面全体にあり。背面は平坦になる。	鉄分付着 B面左孔周辺円形に鉄分の付着のみられない部分あり。 		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-0717 JD69  黒色砂質土層	(9.2) (3.6) 0.8 2.5 (43)	緑色片岩	F 片刃。身幅は狭く、刃部は中央で浅く内彎する(深3mm)。刃面には刃線に沿った研ぎ直しがみられ、刃面の傾斜は急になっており、刃先は丸くつくりだされる。(内6.5mm、外9mm) ○ 両面とも研磨痕は失われる。刃先は背潰れ痕のため、使用痕は失われる。B面右肩部は左下-右上方向の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面・刃先にあり。背面は平らになっており、刃先全体に背潰れ痕あり。刃面にも部分的にみられ、凹みをなす。			
	S-07-0731 JD68  黒色砂質土層	(6.3) 3.7 0.8 2.3 (28)	緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃を呈す(深2mm)。紐孔は両面に敲打後穿孔される。B面に広く敲打痕は残るがA面には殆ど残らない。紐孔は身幅のほぼ中央に位置する(内7mm、外11mm)。 ○ 両面とも磨滅により光沢をもつ。刃先には磨滅がみられB面刃部にのびている。両面に紐擦れ痕が顕著。 ○ 背面にあり。			
	S-07-0732 JD68  黒色砂質土層	(7.3) 4.0 0.9 2.2 (40)	緑色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃(深約3mm)。刃面は傾斜が急で刃面に沿った研ぎ直しあり。両面に研磨の及ばない片理面残存し、厚さは均一ではない。紐孔は左下方へ傾斜する。B面左孔の左側に未貫通穿孔痕あり。(内6mm、外8.5mm) ○ 刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなっており、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅がみられ左肩部に至る。左肩部背面はうすくなる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面全体にあり。右肩部では著しく凹みを呈す。			
	S-07-0737 JC68  黒色砂質土層	(7.8) 3.5 0.5 — (23)	緑色片岩	F 片刃。身幅は狭く、刃部は内彎刃(深約4.5mm)。刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり。紐孔は身幅の略中央にあり。 ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われ、刃先は比較的鋭いが刃線に直交する磨滅があり、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅が紐孔左側に著しく左肩部では凹面を呈し、背面はうすくなる。それに対するA面右肩部にも左下-右上方向の磨滅あり。 ○ なし			
	S-07-0744 MJ57 溝 (SF 074) 褐色砂層	(8.6) (3.9) 0.7 3.1 (37)	緑色片岩	F 片刃。刃部は中央で、ごく浅く内彎するが、(深約1.5mm)端部は切れ上がる。刃面の傾斜は部分により異なり、中央部はかなり急である。端部には片理面がありうすくなる。 ○ 両面とも磨滅により光沢あり。紐孔稜も丸くなっている。刃先は刃線に直交する磨滅がみられ、B面左上方へのびる面の磨滅で、B面刃部は浅い凹面を呈す。B面背方向に紐擦れ痕が著しい。 ○ 背面にあり。A面に剝離しており、背潰れ面はB面側に傾く。			
	S-07-0763 IV54  整地面	(7.5) 3.8 0.7 2.8 (30)	緑色片岩	F 片刃。刃部は内彎しており、(深約3mm)刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり。B面左孔左に未貫通の穿孔痕あり。(内6.5mm、外10mm) ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われ、刃先は丸く磨滅しており、B面左上方へのびる面の磨滅あり。左肩部はうすくなる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし			
	S-07-0765 JA58  整地面	(9.2) 4.5 0.7 2.8 (50)	緑色片岩	F 片刃。比較的身幅は広い。刃部中央部では浅く内彎する(深1.5mm)。紐孔径は小さい方である。(内4.5mm、外6.5mm) ○ B面は磨滅して光沢をもつ。刃先は丸く磨滅し、B面左上方へのびる面の磨滅もみられる。B面背方向に紐擦れ痕あり。 ○ なし	A面やや風化。 B面に鉄分付着。 		
	S-07-0789 JE54  整地層	(8.2) 4.6 0.8 2.4 (41)	緑色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃を呈し、刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり。紐孔は右下方に傾いて位置する。左孔はA面では右上方より、B面では右下方より穿孔しにくいがいあり。(内5mm、外A6.5mm、B10mm) ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われる。刃先には刃線に直交する磨滅で丸くなり、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし	B面に鉄分付着。 A面風化している。 		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。


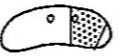







図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-0817 JI62  整地層	(7.6) 3.9 0.9 2.9 (37)	緑色片岩	F 片刃。刃部・背部が平行して彎曲する矩形状を呈す。刃部は浅い内彎刃を呈し、(深約 2.5mm) 刃面には右上-左下方向の研ぎ直しあり。A面は片理に沿って剝離し、厚さは不均一である。長軸においてB面へ彎曲する。端部は剝離後の磨滅があり変形。(内 4.5mm、外 8mm) ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先は刃線に直交する磨滅痕あり。B面刃部には刃先より左上方へのびる面の磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面中央部、B面に傾斜してあり。	鉄分付着 		
	S-07-0823 JU62  整地層	(11.6) (3.8) 0.9 3.1 (58)	緑色片岩	F 片刃。刃部は全体的に内彎(深 5.5mm)。長軸において、右側でB面側へやや屈折している。A面左側は片理面が残る、均一な厚みではない。刃面に左右方向、右上-左下方向の研ぎ直しあり。(内 5.5mm、外 A 9mm、B 7mm) ○ B面右側にのみあらい研磨痕が浅く残存。他は磨滅により光沢あり。刃先は刃線に直交する磨滅痕あり。中央では特に著しく、更に凹むと共に刃先は太い丸みを呈す。B面左上方へのびる面の磨滅もみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面及び刃部左端にわずかにあり。背面中央部では著しく平坦になる。			
	S-07-0841 MB50  黒褐色礫混土層	11.6 3.8 0.8 2.9 54	緑色片岩	F 片刃。完形。左端部欠損後再研磨再使用。刃部はごく浅い内彎(深 2mm)。刃面には左右方向の研ぎ直しがみられる。紐孔は両面より敲打後穿孔される。やや右下方へ傾いて位置する(内 6mm、外 11mm)。 ○ 両面とも磨滅により光沢がある。刃先には刃線に直交する磨滅がみられ、B面左上方へのびる面の磨滅がみられる。左肩部に至り、背面はうすくなる。両面に紐擦れ痕が著しい。 ○ なし	鉄分付着。A面に著しい。 		
	S-07-0870 KZ	(8.5) 4.3 0.7 2.5 (37)	緑色片岩	F 片刃。本来的には身幅の狭いDタイプだったものの刃部中央が内彎刃を呈する(深 3mm)。刃面には右上-左下方向の研ぎ直しがみられる。紐孔は左下方へ傾斜して位置する。紐孔はB面では敲打後穿孔。A面には敲打の痕跡残らず。B面左孔下に敲打後穿孔した未貫通穿孔痕あり。(内 6mm、外 11mm) 両面に細かな再研磨が施される。 ○ 刃先は丸く磨滅し、B面刃部及び左半分には刃先より左上方へのびる面の磨滅があり、研磨痕は失われている。刃部中央の刃先の磨滅が特に著しい。 ○ なし			
	S-07-0919 JC64  床土下・褐色礫混土層	(7.1) (4.6) 0.7 3.4 (35)	緑色片岩	F 片刃。刃部は内彎し、中央の刃面の傾斜は急である。A面体部には片理面残存。欠損が著しい為、平面形不明。(内 5.5mm、外 8mm) ○ 刃先には刃線に直交する磨滅があり。B面左上方へのびる面の磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし	鉄分付着 		
	S-07-0935 IV67・68  黒褐色砂質土層	(5.2) (3.5) 0.6 — (15)	緑色片岩	F 片刃。平面形は彎曲した矩形を呈す。刃部はごく浅い内彎刃(深 2.5mm)。長軸でB面側へ彎曲する。 ○ 両面とも磨滅により光沢をもつ。刃先よりB面へのびる面の磨滅あり。 ○ なし			
	S-07-0944 LX54  整地層	(5.6) 4.1 0.8 — (26)	緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃(深約 1mm)。刃面は傾斜が急であり、左右方向の研ぎ直しあり。長軸に於いて、A面へ彎曲す。(内 6mm、外 9mm) ○ 両面とも研磨痕は失われ、刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、B面左上方へのびる面の磨滅あり。右肩部は磨滅によりうすくなる。 ○ 背面にわずかにあり。			

( )は残存部分の法量である。


( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
	S-07-0951 JI54  床土・整地層	(11.7) 3.8 0.7 3.2 (66)		緑色片岩	F 片刃。略完形。刃部は中央よりやや左寄りの所で内彎し、右端部は浅く外彎する。左端部は両面に剝離欠損し、そのエッジは磨滅している。紐孔はやや左寄り、左下方に傾斜して位置す。(内 5.5mm、外 9.5mm) ○ 刃先は刃線に直交する磨滅が著しく、刃先は失われている。B面右孔に背方向に紐擦れ痕あり。B面の風化が著しく、表面の磨滅痕は不明。 ○背全体にあり。		A面に鉄分付着。 B面の風化著しい 
	S-07-0953 LW54  黒褐色礫混合土層	(6.9) 3.9 0.8 — (32)		緑色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃(深約 1.5mm)。長軸において、B面へ彎曲す。刃面、B面刃部には左右方向の研ぎ直しあり。(内 4.5mm、外 8mm) ○ 両面とも光沢あり。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、B面へのびている。B面体部には左上方へのびる面の磨滅あり。 ○ 背面中央部と刃先にあり。		鉄分付着 
	S-07-0976 ME55 溝 (SF 074) 黒色土層	(6.3) 4.4 0.6 2.3 (34)		緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃を呈す。紐孔は左下方に傾いて位置する。刃面には右上-左下方向の研ぎ直しあり。(内 5.5mm、外 6.5mm) ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われ、刃先には刃線に直交する磨滅で丸くなる。刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし		
	S-07-0980 MC55 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(10.2) (4.1) 0.7 2.8 (54)		緑色片岩 (点 紋)	F 片刃。刃部は中央部で浅く内彎する(深約 2mm)。B面に研磨の及ばない片理面残存。紐孔は両面に敲打後穿孔(内 6.5mm、外12mm) やや左下方に傾いて位置する。 ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先は全面、刃線に直交する磨滅がみられ、B面左上方へのびる面の磨滅が刃部、及び体部左側にみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面中央部にあり。著しい為、背面原形は失われる。左孔上方では剝離を伴い凹み、そのエッジに著しくB面へ傾きその右側では剝離を伴わずA面へ傾斜する。		
	S-07-0989 MJ53  整地面・切り込み	(5.7) (3.4) 0.5 — (14)		緑色片岩	F 片刃。刃部は内彎刃(深約 2.5mm) で刃面中央の傾斜は端部よりも急になる。刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり。(内 6.5mm、外 8mm) ○ 両面とも研磨痕は失われる。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、B面左上方へのびる面の磨滅あり。左肩部に至り、背面角は丸くうすくなる。B面背方向に紐擦れ痕顕著。 ○ なし		
	S-07-1001 KD54  茶褐色土層	(5.8) (3.0) 0.8 — (22)		緑色片岩 (点 紋)	F 片刃。身幅は狭く、刃部は内彎する(深約 2.5mm)。体部下半部には右上-左下方向の研ぎ直しがみられる。 ○ 両面とも光沢あり。下半部の研ぎ直しも浅くなっている。刃先は丸く磨滅。 ○ 背面中央部にあり。平坦になる。		端部破損部分、石錐として使用した回転痕あり。 
	S-07-1002  表採	(9.9) (3.4) 0.7 2.3 (41)		緑色片岩	F 片刃。身幅は狭い。(最も狭い所 3.0cm) 背面中央は略平らで肩部で屈曲してのびる。刃部は大きく内彎し、(深約 6mm) 端部で切れ上がる。刃面には右上がりの研ぎ直しがみられ、刃面中央の傾斜は急である。(内 6mm、外 9.5mm) ○ 両面の研磨痕は失われ、刃先は丸く磨滅し、中央部では刃線に直交する磨滅痕がみられる。刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅もB面刃部にみられる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 右孔右上方の背面に背潰れ痕あり、凹んでいる。B面側へ傾く。		鉄分付着 

( ) は残存部分の法量である。

( ) は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構番号 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
	S-07-1048 MR50  砂礫混黒褐色土層	(8.4) (3.8) 0.8 — (27)		緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃を呈す(深約 1.5mm)。刃面には研ぎ直しが有り、刃面幅が広い。また刃部後に最大厚あり。(内 6.5mm、外 8mm) ○ B 面磨滅により研磨痕失われる。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなっており、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅あり。B面右孔に紐擦れ痕あり。 ○ 刃先にわずかにあり。		
	S-07-1061 JY58  茶褐色土層	(4.7) (3.7) (0.7) (2.4) (12)		石英安山岩	F 片刃。背面は直線的で、刃部は彎曲(深約 2mm)。全体形不明。A面刃面の他は剥落。紐孔は身幅の略中央にあり(内 5mm、外 8mm)。刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり。 ○ 刃先は丸く磨滅し、B面左上方へのびる面の磨滅もみられる。 ○ なし		
	S-07-1094 JE54 溝 (SF 080) 上層	(11.0) (3.3) 0.8 1.9 (42)		緑色片岩	F 片刃。背面中央は背潰れにより平坦になり、刃部は直刃に近いが、ごくわずかに内彎する(深約 1mm)。刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり。 ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われる。 ○ 背部・刃部にあり。背面は背潰れが著しく、紐孔迄至る。刃部は刃先全体にあり、中央では凹面を呈す。		鉄分付着
	S-07-1129 JQ66  褐色土層				S-07-1094と同一個体。		
	S-07-1101 JM62・66  褐色土層	(7.6) 4.1 0.7 2.5 (40)		緑色片岩	F 片刃。Dタイプの中の身幅の狭い、浅い外彎刃形態が本来の形だったが端部欠損後再研磨を施して、片刃状につくりだしている。刃部中央部で浅く内彎(深 2.5mm)。A面は研磨の及ばない片理面が残存し、厚さが均一である。紐孔は右下方に傾いて位置する。(内 6mm、外 9.5mm) ○ 両面とも磨滅により研磨痕は失われる。刃先は磨滅して丸くなり、B面左上方へのびる面の磨滅もみられる。中央部は磨滅が著しく、更に内彎する。側辺にも同様の磨滅がB面側へかけてみられる。B面紐孔背方向に紐擦れ痕あり。 ○ なし		
	S-07-1118 JQ66  褐色土層	(6.0) 4.4 0.6 2.5 (30)		黒色片岩	F 片刃。刃部は浅く内彎。紐孔は身幅の略中央に位置する。(内 6mm、外 8.5mm) ○ 表面の風化が著しく、使用痕不明。 ○ 不明		火をうけて変色。
	S-07-1124 JQ66  褐色土層	(9.5) 4.1 0.8 2.8 (43)		緑色片岩	F 片刃。Dタイプの身幅の狭い形態が原形だが、使用により中央が内彎(深 2.5mm)。紐孔は両面に敲打後穿孔する。やや左下方に傾く(内 6.5mm、外 10mm)。刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しがみられる。 ○ 両面とも体部は磨滅により研磨痕は失われる。刃先は丸く磨滅。特に中央部では刃線に直交する磨滅が著しく内彎する程である。内彎部分では刃先よりB面刃部に磨滅痕がのびている。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし		鉄分付着
	S-07-1127 JQ66  褐色土層	(6.6) (3.1) 0.7 — (20)		緑色片岩	F 片刃。身幅は狭く、刃部は浅い内彎刃(深約 2mm)。刃面は幅が広く、中央部は左右方向、端部では右上一左下方向の研ぎ直しあり。刃先は研ぎ直しにより平坦になる。B面刃部にも右上一左下の方向の研ぎ直しあり。 ○ 両面とも磨滅して研磨は失われる。刃先は研ぎ直しにより、磨滅痕は失われているが、B面には左上方へのびる面の磨滅あり。左肩部に至り、磨滅により左肩部は丸くなる。 ○ 背面・刃先にわずかにあり。		

( )は残存部分の法量である。



( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-1132 JI66  褐色土層	(7.2) 3.5 0.7 2.3 (28)	緑色片岩	F 片刃。本来的には身幅の狭いDタイプである。中央で内彎刃を呈す(深約3mm)。刃面中央の幅は狭くなり、傾斜は急になる。A面には研磨の及ばない片理面あり。長軸でA面側に彎曲す。(内4.5mm、外8.5mm) ○ 両面とも研磨痕は浅くなり、刃先は丸くなり、B面左上方へのびる面の磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 左端部、背面、刃先にあり。剝離を伴う。		鉄分付着 	
	S-07-1151 MZ  黒色粘質土層	(7.6) (3.2) 0.6 2.5 (25)	緑色片岩	F 片刃。身幅は狭く、刃部は内彎刃を呈し(深約3mm)、端部で切れ上がる。刃面には刃先に沿った方向の研ぎ直しあり。紐孔は身幅の略中央に左下方へ傾いて位置する。(内6mm、外9mm) ○ 両面とも研磨痕は失われ、刃先は比較的鋭いが、刃線に直交する磨滅あり。B面右肩部は左下-右上方向の磨滅で丸くなる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面中央にあり。剝離面を伴う。			
	S-07-1184 MI53  整地層	(10.5) (3.6) 0.8 2.0 (48)	緑色片岩	F 片刃か。刃部は内彎刃を呈し、(深約2mm) A面下半部に徐々にうすくなり刃部稜はなさず。 ○ 表面の風化が著しく、使用痕不明。刃先は丸くなり、B面刃部先端部に左上方へのびる面の磨滅あり。 ○ 背面にあり。中央部は紐孔近くまでつぶれている。刃先にもあり。左側刃先は失われる。		風化が著しい。 	
	S-07-1186 MJ54  黒褐色土層	(5.8) (3.4) 0.7 2.1 (33)	緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃を呈す(深約3mm)。左端部は折れ欠損後再研磨再使用。刃面には右上-左下方の研ぎ直しあり。B面にも同様の研ぎ直しあり。 ○ 両面とも磨滅して研磨は失われる。背面角は丸くなる。 ○ 背部・刃部にあり。背部中央部は紐孔まで背潰れあり。原形を失う。刃部は刃先全体にあり、中央では特に著しい。		鉄分付着 	
	S-07-1205 KF67  第3層・黒色砂質土層	(6.3) 3.6 0.8 2.5 (33)	黒色片岩	F 片刃。身幅は比較的狭く、刃部は浅い内彎刃を呈す(深2mm)。刃面にはやや右上がりの研ぎ直しがみられる。紐孔は左下方へ傾き身幅の略中央に位置する(内5mm、外7mm)。 ○ 両面とも研磨痕は失われる。刃先には刃線に直交する方向の磨滅があり、丸くなっている。B面刃部には刃先より直交してのびる磨滅と左上方へのびる磨滅がみられる。B面左肩部にも対応した面の磨滅がみられうすくなる。B面では背方向の紐擦れ痕があり、A面でも同様に背方向にみられる。両面とも紐孔の外径の稜の周辺にのみ磨滅がみられ、背部迄は至っていない。 ○ 背面中央にあり。			
	S-07-1218 ML54 土器堆積 (SL 321)	(6.7) (3.8) 0.8 — (29)	緑色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃を呈し、(深約3mm) 刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり、刃面中央部の傾斜は急である。紐孔は身幅の中央にある。(内7mm、外11mm) ○ 両面とも磨滅により研磨痕は失われ、刃先は比較的鋭いが刃線に直交する磨滅痕あり。B面刃部には左上方へのびる面の磨滅あり。B面背方向に紐擦れ痕あり。 ○ 背面、刃部中央にあり。		鉄分付着 	
	S-07-1240 JS64  黒褐色土層	(5.3) 3.6 0.9 1.9 (32)	緑色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃。刃面は傾斜が急で左右方向の研ぎ直しあり。(内6.5mm、外8.5mm) ○ 両面とも磨滅により研磨痕は失われる。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなりB面左上方へのびる面の磨滅あり。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面にあり。B面側へ傾斜する。		鉄分付着 	

( )は残存部分の法量である。


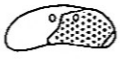
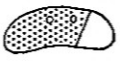


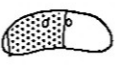
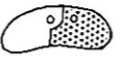
( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-1242 JU64 溝 (SF 081) 第1層・炭混黒色土層	(6.8) 4.5 0.8 (2.0) (41)	緑色片岩	F 片刃。身幅は広く、平面形は彎曲した矩形である。刃部は浅い内彎刃である(深約 2.5mm)。体部には両面とも右上-左下方向のあらい研磨が施され、刃面は左右方向にあらく研ぎ直される。左孔はA面では左下方より、B面では左上方より穿孔されくいちがいがいがあり不正円形を呈す。(内 5mm×4.5mm、外 9mm)。 ○ B面刃部には刃先から左上方にのびる面の磨滅あり。その部分の研磨は消えている。側辺からB面へかけても同様に磨滅する。 ○ なし			
	S-07-1260 MF54 溝 (SF 074) 黒褐色砂礫層	(9.5) 4.4 0.7 2.3 (46)	緑色片岩	F 片刃。刃部はごく浅い内彎刃(深約 2mm)。刃面は左右方向の研ぎ直しがあらい刃部後には直線状を呈す。端部(幅 7mm)より中央部(幅 4mm)の刃面幅は狭い。 ○ 両面とも研磨痕は失われる。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、B面刃部へのびる。また、刃先より左上方へのびる面の磨滅があり、左肩部に至る。 ○ なし			
	S-07-1268 ME53 溝 (SF 078) 黒色砂礫土層	15.0 (3.8) 0.8 2.6 (74)	緑色片岩	F 片刃。完形。身幅の狭い半月形直刃形態に近い。長軸でB面側へ彎曲する。刃部は浅い内彎刃(深 2mm)。紐孔はやや左寄りわずかに左下方へ傾く。刃面には研ぎ直しがみられる。右端部折れ欠損後再研磨再使用。紐孔の右側に一對の未貫通の穿孔痕あり。B面にも対応した穿孔痕あり。(内 6mm、外 10mm) ○ 両面は磨滅して研磨痕は消えている。刃先は丸く磨滅しており、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅がみられる。B面左肩部では凹面を呈し、背面はうすくなっている。両面に紐擦れ痕あり。B面では顕著。 ○ 背面中央部にあり。			
	S-07-1277 LW54 溝 (SF 077) 黒色土層	(7.7) 4.7 0.8 3.3 (38)	緑色片岩	F 片刃。身幅は広く、背面は丸い。刃部は浅い内彎刃(深約 2mm)。両面とも平らな面で、背面も平坦で両面との境は角をもつ。両面にあらい研磨が残る。刃面には右上がりの研ぎ直しあり。A面左孔左稜上に未貫通穿孔痕あり。左孔A面外径は五角形状を呈す。(内 6mm、外 8mm) 刃面の傾斜は部分により異なり中央部は急である。 ○ A面では研磨痕は浅くなり、B面では消えている。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなっており、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅がB面刃部にみられる。B面背方向に紐擦れ痕あり。 ○ なし			
	S-07-1280 MD54 溝 (SF 074) 褐色砂層	(11.8) (3.7) 0.8 3.0 (53)	緑色片岩	F 片刃。刃部左側で浅く内彎する(深 2.5mm)。刃面には刃先に沿った方向の研ぎ直しがみられる。紐孔は両面より敲打後穿孔される。左孔左側にも敲打面残存。紐孔は左下方へ傾く。 ○ 内彎部分の刃先には刃線に直交する方向の磨滅がみられ丸くなっている。また刃先より、B面左上方へのびる面の磨滅もみられる。両面共に紐擦れ痕あり。 ○ 背面に著しく、原形を失う。背面中央部平坦になっている。背潰れ部分の左側ではB面側へ、右側ではA面側へ傾いている。刃部内彎部分以外の刃先にもあり。			
	S-07-1288 JS66 黒褐色土層	(10.8) 4.3 0.7 1.8 (55)	緑色片岩	F 片刃。完形。紐孔左側欠損後再研磨を施して再使用。刃部は左側が内彎し、(深 3mm) 右側が外彎刃を呈す。端部は短い側辺を呈す。紐孔はやや左下方に傾斜し、身幅の略中央に位置する。(内 4mm、外 8mm) B面左孔左側に未貫通穿孔痕あり、A面にも対応して存する。 ○ 両面とも磨滅して光沢をもつ。刃先は丸く磨滅しており、B面左上方へのびる面の磨滅あり。B面紐孔背方向に紐擦れ痕あり。 ○ 背面紐孔上方から右側にかけてあり。肩部で凹みを成す。	B面に鉄分付着。 		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。






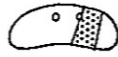

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構番号 (遺構番号)位	法 量 (cm) (g)	長 幅 厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備 考
						○使用痕跡 ○背潰れ痕	
	S-07-1703 IB58 溝 (SF 101) 上層	(7.1) (5.8) 0.8 2.9 (38)		緑色片岩	F 片刃。平面形は身幅が広く、背面が大きく彎曲する形態。刃部は浅い内彎刃(深約2.5mm)。比較的短い。刃面には右上がりの研ぎ直しが施される。側面には剥離面あり、うすくなる。B面下半部片理面より剥離しておりうすい。紐孔は右下方へ傾斜して位置する(内6mm、外7mm)。 ○ 刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなっており、中央部では特に著しく、刃線上更に凹みを呈す。刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅あり。 ○ なし	鉄分付着が著しい。 	
	S-07-1706 不明	(9.3) (3.8) 0.9 — (48)		緑色片岩	F 片刃。刃部は直刃に近いが、中央部のみ浅く内彎する(深約1.5mm)。刃面には左右方向の研ぎ直しがあり、中央部の傾斜は急である。端部欠損。B面左孔右側稜の上に未貫通穿孔痕あり。 ○ 両面とも研磨痕は失われ、刃先には刃線に直交する磨滅がみられB面左上方へのびる面の磨滅があり、肩部に至る。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面中央部に著しく、原形は失われ、平坦になる。剥離面は伴わず、刃部中央にあり、刃先と刃面にみられる。		
	S-07-1708 GL58 表土層	(10.0) 4.1 0.7 2.4 (49)		緑色片岩	F 片刃。背部は弓状に彎曲し、刃部は浅く内彎する(深3.5mm)。刃面の傾斜は急で、刃面には刃線に沿った方向の研ぎ直しあり。紐孔は両面に敲打後穿孔され、右寄りに右下方に傾斜して位置する(内5.5mm、外13mm)。 ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先には刃線に直交する磨滅あり丸くなる。刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅あり。B面の背面角は丸く磨滅する。 ○ なし		
	S-07-1711 GT58 第7溝 (SF 335)	11.7 3.7 0.8 2.2 (47)		緑色片岩	F 片刃。完形。刃部は両端部は浅い外彎刃を呈すが使用により中央部でわずかに内彎する(深2mm)。A面体部左側片理面より剥離欠損。刃面には右上-左下方向の研ぎ直しがある。B面左孔右上方に未貫通穿孔痕あり。両面共に研磨の及ばない片理面が残っており、厚みも不均一である。(内5mm、外8mm) ○ 両面とも磨滅により光沢あり。刃先は研ぎ直しにより鋭くなっているが中央部では刃先よりB面左上方へのびる磨滅が著しく、刃線に凹凸があると同時にB面左孔左側は凹面を呈す。B面左孔背方向に紐擦れ痕が著しい。 ○ なし		
	S-07-1719 GP58 整地層	(11.0) (3.5) 0.7 2.3 (43)		緑色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃を呈し、(深約2mm)背面は弓状に彎曲する。中央は背潰れの為平坦になる。紐孔は右寄りに左下方に傾斜して位置する。(内6mm、外8mm)長軸に於いて、B面へ彎曲する。 ○ 両面とも磨滅により研磨痕は失われる。B面左側は光沢を生じる。刃先は背潰れ痕の為、失われている。両面に紐擦れ痕顕著。 ○ 背部・刃部に著しい。刃先はつぶれ、背面も原形を失う。	鉄分付着 	
	S-07-1727 GP58 溝 (SF 083)	(7.5) (4.0) 0.9 2.6 (43)		緑色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃(深約3mm)。刃面の幅は広く、左上-右下方向の研ぎ直しあり。紐孔は両面に敲打後穿孔。三角形の不正円形を呈する。端部両面に剥離欠損後再使用。(内7mm、外A17mm、B14mm) ○ 両面とも磨滅により研磨痕は失われる。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、B面刃部へのびる。両面に紐擦れ痕顕著。 ○ 背面全体にあり。B面側へ傾く。		
	S-07-1748 不明	(7.4) (4.9) 0.6 — (36)		緑色片岩	F 片刃。本来は身幅の広い、浅い外彎刃形態だったが使用により浅く内彎する(深約2mm)。刃面には左上-右下方向の研ぎ直しがみられる。(内7mm、外10mm)背面は平坦で両面との境は角をなす。 ○ 両面とも磨滅して光沢あり。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、B面左上方へのびる面の磨滅あり。特にB面刃部には光沢がある。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-1772 GP58 溝 (SF 083)	(12.7) (3.5) 0.9 2.7 (69)	緑色片岩	F 片刃。背部・刃部共に背潰れが著しく、原形は殆ど失われているが、刃面のカーブより内彎刃と判る。右孔は両面より敲打後穿孔される。左孔に敲打痕残存せず。(内左 5.5mm、右 7mm、外右11mm、左12mm×14mm) ○ 両面とも磨滅により光沢をもつ。A面左孔に紐擦れ痕あり。 ○ 背面全体にあり。中央部に特に著しく、平坦になる。大部分はA面側に傾斜し、B面側へもわずかに傾いている。刃部にも著しく、刃先は失われている。刃先の背潰れ面はB面側へ傾く。			
	S-07-1776 IB66 黑色砂質土層	(6.0) 4.1 0.9 2.4 (33)	緑色片岩	F 片刃。刃部後において浅い内彎刃を呈す。使用により更に刃先に凹みがある。刃面には左右方向の研ぎ直しあり。右孔稜上、左に未貫通穿孔痕あり。(内 4.5mm、外 8mm) ○ 両面とも磨滅により、研磨痕は失われる。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、著しい部分は刃線上凹みがある。B面左上方へのびる面の磨滅あり。中央部では特に磨滅しており、刃先は失われ、B面刃部も凹面を呈す。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし	全面鉄分付着。 		
	S-07-1779 IB66 黑色粘質土層	(7.0) (4.3) 0.8 — (34)	緑色片岩	F 両刃。刃部は浅い内彎刃を呈す。背面は彎曲する。両面に背面からの剝離面残存し、その面も研磨される。 ○ 両面とも磨滅して光沢あり。B面左肩部右下-左上方向磨滅でうすくなる。 ○ 背面中央、刃先全体にあり。刃先は小剝離を伴い刃先は失われる。			
	S-07-1783 GZ 溝 (SF 083) 上部砂礫層	(10.2) (4.0) 0.9 2.7 (56)	緑色片岩	F 片刃。刃部は浅い内彎刃(深約2mm)を呈す。背面は弓状に彎曲するが、背潰れの為平坦になる。刃面の幅は広く(幅9mm)研ぎ直しあり。紐孔は両面に敲打後穿孔。紐孔は右下方に大きく傾いて位置する。(内8mm、外15mm)長軸に於いてA面側に彎曲する。 ○ 両面とも磨滅して研磨痕は失われる。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、B面刃部に刃先より左上方へのびる面の磨滅あり。 ○ 背面中央部紐孔部まで潰れており平坦になる。	鉄分のため褐色に変色。 		
	S-07-1787 GZ 溝・2溝 (SF 083)	11.6 (3.4) 0.6 1.9 (37)	緑色片岩	F 片刃。比較的短い形態。刃部は浅い内彎刃であり、両端部で切れ上がる(深1.5mm)。B面左孔の右稜上、右孔の稜上右下方に未貫通穿孔痕あり。(内5mm、外7mm) ○ 両面とも研磨痕は失われる。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなっており、刃先よりB面左上方へのびる面の磨滅もみられ、左肩部に至る。背面角は丸くなっている。 ○ 背面中央部は剝離面を伴い紐孔まで潰れている。			
	S-07-1869 GL58 CA・GB溝境部 (SF 082・083)	(2.5) 3.2 0.7 — (9)	緑色片岩	F 片刃。中央部破片。 ○ 刃先よりB面へのびる面の磨滅あり。 ○ 背部・刃部にあり。			
	S-07-1883 IZ 溝 (SF 101・102) 黒褐色土層	(8.8) 4.2 0.8 2.7 (41)	緑色片岩	F 片刃。背面は円く彎曲し、刃部は欠損が著しいが、刃面には研ぎ直しがみられ稜においても内彎を呈す。(内5.5mm、外9mm) ○ 両面とも光沢あり。刃先は右孔下方で特に磨滅しているため更に凹む。刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなっており、B面刃部には直交方向、左上方へのびる面の磨滅がみられる。両面に紐擦れ痕顕著。B面右肩部は両面とも丸くなる。 ○ 背面全体A面に傾斜してあり。	全面鉄分付着し、褐色になる。 		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 (遺構番号) 層位	法 量 (cm) (g)	長 さ 幅 厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
PL.41-11	S-07-1743 MB50  黒色砂質土層	10.6 4.2 0.9 — 44		安山岩	Z 完形。両刃か。A面は大剝離面、B面は主要剝離面よりなり背部中央に打点のある大きな剝片の周縁に細かな打ち欠きを施して成形。両平面、背面の突出部にわずかな研磨がみられる。刃先は両面から研ぎ出されている。紐孔は作られず。 ○ 刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、B面刃部にわずかだがのびている。 ○ 背面に背潰れ状痕跡あり。		
PL.42-14	S-07-1304 LO58  黒褐色土層	(12.2) 5.3 0.7 A 2.6 B 1.8 (70)		緑色片岩	Z (CかD) 両刃気味片刃。本来的には身幅の広い杏仁形態であったと思われるが変形が著しい。紐孔は右寄りに3孔あり、内右側の2孔は対になっており(内5.5mm、外9mm)左端の孔は内径が大きい(内6.5mm)A面左端孔の上方に未貫通の穿孔痕あり。 ○ 刃先はわずかに丸くなる。 ○ 背部・刃部にあり背部に著しく、左側は凹んでいる。		
PL.42-15	S-07-0412 MC58 溝 (SF 075) 黒色土層	(5.9) (3.1) 0.8 1.6 (33)		緑色片岩	Z (DかE) 片刃。背部は弓状に彎曲しており、刃部は背潰れ痕が著しく、失われている。紐孔は身幅のほぼ中央に位置し、A面では敲打後穿孔している。(内6.5mm、外8mm) ○ B面左肩部に刃部より左上方へのびた面の磨滅がみられ、左肩部はうすくなっている。B面に背方向の紐擦れ痕あり。 ○ 背部・刃部に著しい。背部中央は潰れて平らになり、刃部は刃面が失われる程である。		
	S-07-0002 MZ  表採	(5.1) 5.7 0.8 2.6 (36)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。刃部は一部残存し、刃部稜はややなだらかで刃面は狭い。紐孔は右下がり背寄りにあり、左孔は五角形を呈する(内6mm、外A 12mm、B 10mm) ○ 刃先は丸く磨滅し、B面刃部にも磨滅がみられる。両面の研磨痕は浅く、B面はやや光沢を帯びる。両面に、紐擦れ痕あり。両端の折れた先端のエッジは磨滅。刃部はA面へ剝離後磨滅。 ○ なし	B面に鉄分付着。	
	S-07-0008 KR・KS64・65  第3層・茶褐色砂質土層	(5.8) 5.4 0.9 2.6 (38)		緑色片岩	Z (B~D) 片刃。身幅は広く、刃部中央は直線的である。(内7mm、外A 9.5mm、B 10.5mm) ○ 刃部はB面側へ剝離している。 ○ なし	火をうけて変色し、表面は荒れている。B面に鉄分付着。	
	S-07-0009 MP64  床土層	(6.2) 5.4 0.8 — (39)		緑色片岩	Z (CかD) 片刃。身幅は広く、刃部および端部先端は剝離破損。刃部稜は不明瞭。(内5mm、外A 9mm、B不明) ○ 刃部はB面側へ剝離しており、その後磨滅。破損面および折れ口先端のエッジは磨滅。 ○ 刃先にあり	表面は風化している。A面に鉄分付着。	
	S-07-0019 MJ61  茶褐色砂質土層	(5.2) (4.5) 0.8 2.3 (26)		緑色片岩	Z 不明。身幅の広い形態。両平面共に剝離し研磨面を残さない。背は平坦で平面との境界に、角をもつとおもわれる。右孔の左に未貫通穿孔痕あり。右孔はA面下方向、B面上方向より穿孔され、くいちがいがあがる。(内5.5mm、外7.5mm) ○ 不明 ○ 刃先にあり、中央部が著しい。	火をうけて変色し、表面は荒れる	
	S-07-0020 MP63  茶褐色砂質土層	(4.4) (3.0) 9.5 — (9)		緑色片岩	Z 片刃。体部中央部破片。刃部稜は明確で刃面の傾斜は急である。(内6mm)。 ○ 刃先は丸く磨滅。 ○ なし	A面に鉄分付着。	
	S-07-0021 ML60  茶褐色砂質土層	(7.3) (4.8) 0.8 2.5 (43)		黒色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。刃部は剝離破損し、一部残存するのみ。刃部稜はなだらかである。背部は薄い。(内6mm、外8.5mm) ○ 刃部B面へ剝離後先端は磨滅。 ○ なし	表面は荒れている。B面に鉄分付着。	

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-0022 NJ57 溝 (SF 085) 黒色土層	(6.8) (3.6) 0.8 — (34)	緑色片岩 (点紋)	Z 片刃。左端部破片。 ○ 不明 ○ 肩部およびそれに対応する位置の刃部にあり。			
	S-07-0027 GL56 灰褐色粘土層	(3.6) 4.5 0.8 2.7 (22)	緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い形態。背面はやや平坦な面で平面との境界は丸味を帯びた角を持つ。刃面は体部に対して急角度をなす。B面左孔の右に未貫通穿孔痕あり。(内 5.5mm、外 7.5mm) ○ 刃先は、B面側に剝離する。 ○ なし	火をうけて変色、表面が荒れる。 		
	S-07-0029 NM58 第3層・茶褐色砂質土層	(5.5) (3.5) 0.7 — (19)	緑色片岩	Z(B~D) 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎。刃部稜は明確で刃面はやや狭い。端部先端欠損。B面の表面は剝離破損後再研磨。(内 6mm、外 8.5mm) ○ 折れ部分のエッジは磨滅。刃部はA面側へ剝離後先端は磨滅。 ○ 背面全体に著しく、原形は失われる。			
	S-07-0032 KH66 第3層・黒色砂質土層	(2.7) (2.2) 0.6 — (6)	緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部稜は明確で刃面の傾斜は急である。 ○ 両面とも光沢を帯びる ○ なし			
	S-07-0050 MJ56 黒色砂質土層	(4.5) (3.5) (0.3) — (9)	緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。片理面より剝落したB面側を再研磨再使用。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、A面(もとB面)左上方へのびる。 ○ 紐孔上背面にあり。			
	S-07-0055 MJ57 黒色土層	(8.4) (2.7) 0.5 — (14)	緑色片岩	Z(Dか) 両刃ぎみ片刃。刃部は浅く外彎する杏仁形態と思われる。端部は薄手で鋭い。A面端部の研磨面下に剝離痕残存。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、刃部中央寄りA面では刃部稜が不明瞭になり、面の磨滅が見られる。刃部中央寄りB面では左上方へのびる磨滅痕あり。 ○ なし			
	S-07-0060 MJ56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(2.6) (3.4) 0.7 — (8)	緑色片岩	Z 片刃。端部寄り体部破片。刃部稜は明確。刃先は欠損。 ○ 背部は磨滅。 ○ なし			
	S-07-0064 MH56 黒褐色礫層	(3.4) (2.7) 0.4 — (5)	緑色片岩	Z(Dか) 片刃。右端部破片。端部先端は破損しているが鋭く、薄手である。背部は薄い。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面刃部には右上方へのびる面の磨滅が見られる。 ○ 背部にあり、剝離を伴う。刃部にも僅かに見られる。			
	S-07-0074 KM68 第3層・黒色砂質土層	(5.3) (2.3) 0.6 — (13)	緑色片岩	Z(A~D) 片刃。刃部は研ぎ直されており、両面とも研磨面下に剝離面を多く残す。左方および上方の折れ面は一部再研磨されている。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。B面刃部は光沢を帯びる。両面共に研磨痕は浅い。 ○ なし			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0077 ML59  黒色土層	(5.8) 5.4 0.9 — (42)		緑色片岩	Z(A~D) 片刃。身幅は広く、やや厚手である。背部は直線的で、刃部は研ぎ直されており、稜はなだらかである。紐孔は身幅の中央よりやや背寄りにあり、両面より穿孔されている(内6mm、外不明) ○ 刃先および刃部B面は磨滅している。両面共に研磨痕は浅い。 ○ なし		火をうけて変色。 
	S-07-0078 ML58 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(6.0) (3.9) (0.5) A 1.8 B 2.1 (13)		黒色片岩	Z 片刃。身幅の狭い体部中央破片。刃部稜は一部残存し明確であるが、刃部先端は欠損。B面全体、A面中央の表面は剝離。紐孔は背寄り4孔を有し、一列に穿孔されている。(内4mm、右より2つめのみ5mm、外6.5mm右より2つめのみ7mm) ○ 両面の研磨痕は浅くなり、光沢を帯びる。A面右端は破損後、磨滅。B面左より2つめの紐孔には背方向にのびる紐擦れ痕あり。 ○ 右端の紐孔上方背~右方にあり。B面側への剝離を伴う。		
	S-07-0080 KM64  第3層・褐色砂質土層	(5.3) 3.6 0.7 2.1 (23)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の狭い体部中央破片。刃部稜は明確である。B面研磨面下に剝離痕残存。紐孔は身幅の中央よりやや背寄り両面より穿孔されている。(内5.5mm、外6.5mm) ○ 刃先は丸く磨滅。A面双孔間を結ぶ角およびB面左孔背寄り角は磨滅。 ○ 右孔上方背部にあり。		
	S-07-0081 KF69  第3層・黒色砂質土層	(2.7) (2.2) 0.4 — (3)		黒色片岩	Z 片刃。右端部破片。端部先端は鋭い。 ○ 刃先よりB面にかけて磨滅が見られる。 ○ 背部にあり。B面側に小剝離を伴う。		
	S-07-0087 KF69  第3層・黒色砂質土層	(7.8) 5.2 0.9 — (34)		緑色片岩	Z(Dか) 背面が円く彎曲する。B面紐孔直下で下半部が片理にしたがって大きく剝離欠損後、剝離面にわずかに研磨を施し、そのエッジを使用している。(内6mm、外13mm) 紐孔は両面に敲打後穿孔する。 ○ 刃先は刃線に直交する磨滅で丸くなり、B面には刃先から左上方へのびる面の磨滅がみられる。 ○ 肩部背面にあり。	再使用品 	
	S-07-0090 KR・KS 60・61  灰褐色粘質土層	(5.3) 4.4 0.8 3.1 (26)		石英安山岩か	Z(Aか) 片刃。背部は直線的。刃部もまた直線的だが、端部にむかい幅狭になる。端部は欠損。刃部稜は明確である。紐孔は間隔が広く、身幅の略中央に位置し、両面より穿孔されている(内5mm、外10mm) ○ 刃先には(A面を上にして刃先から見た際)右上-左下方向の磨滅痕があり、B面刃部では、やや左上方へのびる。双孔間下方の刃部には小剝離も見られる。B面、背面は研磨痕が浅くなり、光沢を帯びる。A面双孔間を結ぶ角およびB面双孔より背方向へのびる紐擦れ痕あり。 ○ 背面にあり。		
	S-07-0096 KG62  第3層・褐色砂質土層	(2.9) (4.2) 0.7 — (10)		緑色片岩	Z 片刃。体部破片。刃部稜は明確で刃面は狭い。紐孔は背寄りである(内7mm、外8mm)。穿孔状況はA面よりもB面側からの方が深い。 ○ 刃先からB面にかけて光沢を帯びる。 ○ なし		
	S-07-0098 HG62  第3層・褐色砂質土層	(3.2) (3.7) 0.5 — (11)		緑色片岩	Z 片刃。体部右方破片。B面に大きく剝離面残存し、一部に僅かに研磨が施されている。(内6mm、外不明) ○ 不明 ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-0104 KG63 第3層・褐色砂質土層	(4.4) 4.4 0.8 — (21)		緑色片岩	Z 片刃。右肩部を含む体部破片。端部破損後、先端は磨滅。刃部稜は明確で、刃面は狭い。(内7mm、外11mm) ○ 刃先は丸く磨滅しており、B面を上にして、刃先から見ると左下-右上の方向性をもち、B面では左上方へのびる。B面肩部には刃部から左上方へのびた面の磨滅あり。両面に光沢を帯び、特にB面側が著しい。B面紐孔より背方向の紐擦れ痕あり。 ○ 肩部にA面側へ傾斜してあり。		
	S-07-0106 KL66 第3層・黒色砂質土層	(6.2) (3.9) 1.0 3.2 (31)		緑色片岩	Z 不明。双孔を有する体部破片。刃部、背部は背潰れしており、身幅は狭い。A面体部は剝離後一部研磨が施されている。(内5mm、外9mm) ○ B面の研磨痕は浅い。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背部・刃部にあり。背部はB面側へ傾斜し、刃部はA面側へ傾斜をもつ。		
	S-07-0108 ML60 黒褐色礫混合土層	(4.0) (2.8) 0.5 — (7)		黒色片岩	Z 片刃。右端部破片。端部先端は鋭い。刃部稜は明確である。背面に一部、再研磨時に研き残した突出部分を残し、その先端は磨滅する。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり。B面左上方へのびる面の磨滅がみられる。 ○ なし		
	S-07-0110 KI62 第3層褐色砂質土層	(8.6) (2.5) 0.8 — (25)		黒色片岩	Z 不明。破損後下端破損部にわずかに再研磨を施すが刃部はつくり出さず。(内4mm、外8mm) 両面共に研磨面下に片理面残存。 ○ 不明 ○ なし		
	S-07-0111 KI68 第3層・黒色砂質土層	(3.6) (4.1) 0.7 2.2 (11)		黒色片岩	Z 不明。体部中央破片。(内8mm、外9.5mm) ○ 表面は光沢を帯びる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし C		
	S-07-0116 不明	(3.0) (4.6) 0.7 2.0 (14)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。刃部稜は明確である。紐孔は背寄りである(内6mm、外11mm) ○ 両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし		
	S-07-0118 KC66 第3層・灰褐色土層	(6.3) 4.7 0.9 — (36)		緑色片岩 (点紋)	Z 片刃。身幅の広い体部左方破片。刃部稜は明確で、直線的にのびる。肩部は剝離破損。 ○ 刃部はB面へ剝離。火をうけて刃先の磨滅部分が剝離したものであると思われる。 ○ なし	火をうけて変色。表面は荒れている。鉄分付着	
	S-07-0119 MQ62 黒褐色礫混合土層	(4.8) 4.2 0.8 1.7 (20)		緑色片岩	Z 片刃。身幅はやや狭い。(内5.5mm、外A8mm、B9mm) B面右側は片理面に沿って剝落し、うすくなる。 ○ 刃先は丸く磨滅。両面に紐擦れ痕あり、B面背方向の紐擦れ痕が特に著しい。 ○ なし	火をうけて変色。表面は荒れている。	

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-0120 LZ  揚土中	(5.3) (4.6) 0.7 — (24)	緑色片岩	Z (Dか) 片刃。端部先端は破損。刃部稜は明確。紐孔は身幅中央よりもやや背寄りで両面より穿孔されている (内6mm、外不明)。 ○ 刃先は丸く磨滅。端部寄り背部および端部先端は剝離破損後磨滅。折れ口の背寄り部分は磨滅。 ○ 端部寄り刃部に僅かにあり。			
	S-07-0122 MK57  黒褐色礫混合土層	(4.9) (2.9) 0.6 — (13)	緑色片岩	Z 片刃。右端部に近い破片。背部は薄い。刃部A面に新しい剝離あり。刃部稜は明確。 ○ 両面共に磨滅。刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。B面刃部より背部にかけて左右上方へのびる面の磨滅が見られる。 ○ なし	両面に鉄分付着。 		
	S-07-0124 MH56  黒色砂質土層	(3.4) (2.1) 7.4 — (4)	緑色片岩	Z 片刃。左端部破片。端部先端は破損後磨滅しており鋭い。刃部稜は明確である。 ○ 刃先は刃線と直交する磨滅痕がある。B面背部、刃部は磨滅し光沢を帯びる。 ○ なし			
	S-07-0125 MH56  黒色砂質土層	(9.6) (2.5) 0.6 — (25)	緑色片岩	Z (B~D) 片刃。中央部体部下半破片。左端部は破損後一部再研磨。A面左端寄りを除いて、表面剝離。紐孔は1孔のみ残存。(内5.5mm、外B7mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面刃部には刃先より左上方へのびる面の磨滅あり。 ○ 上端破損面および刃部右方に著しく、B面側へ傾斜する。			
	S-07-0129 KL68  第4層・黒色砂質土層	(3.9) (3.4) 0.5 — (10)	緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。刃部稜は明確で刃面の傾斜は急であり、研ぎ直されている。やや薄手である。背面は平坦。端部先端は鋭い。 ○ 刃先は鋭いが、B面側へ小さく刃こぼれしており、磨滅もみられる。B面背部、刃部は光沢を帯びる。 ○ なし			
	S-07-0130 ML56  褐色砂層	(2.6) (2.0) (0.5) — (3)	緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。 ○ 刃先は丸い。 ○ なし			
	S-07-0141 K066  第3層・褐色砂質土層	(5.4) (4.9) 0.5 — (19)	緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部右方破片。右端部剝離欠損。刃部稜はややなだらかである。 ○ 両面ともに研磨痕は浅い。 ○ なし			
	S-07-0143 KT60  第3層・黒色砂質土層	(3.0) (1.6) 0.5 — (3.4)	緑色片岩	Z 両刃か。右端部破片。端部先端は鋭い。 ○ A面よりもB面の方が光沢を帯びる。 ○ 刃部にあり、剝離を伴う。			
	S-07-0147 ML61  黒色砂質土層	(5.7) (3.4) 0.7 2.6 (24)	緑色片岩	Z (EかF) 片刃。背部は背潰れしており、原形を留めず。刃部稜は明確で、直線的である。(内6mm、外9mm) ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる。双孔間直下の刃線は浅く凹んでいる。両面の研磨痕は浅い。 ○ 背部にあり、双孔間上方背ではB面側へ傾きをもつ。	両面に鉄分付着。 		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0158 KF68  第3層・黒色砂質土層	(3.2) (5.5) 0.7 — (19)		黒色片岩	Z(Dか) 両刃。身幅は広い。刃部は薄く、稜は不明瞭。背部寄り体部で最大厚を測る。背面は中央に稜を有し、両面側へ傾斜する。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕が見られB面刃部は磨滅 背面はやや光沢を帯びる。 ○ なし		
	S-07-0159 KT67  第3層・黒色砂質土層	(3.0) (4.2) 0.6 — (9)		緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。 ○ B面は光沢を帯びる。 ○ なし		
	S-07-0160 KJ66  第3層・黒色砂質土層	(4.3) (3.7) (0.6) — (13)		緑色片岩	Z 両刃ぎみ片刃。刃部破片。刃部稜はなだらかである。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。B面は光沢を帯びる。 ○ なし		
	S-07-0164 MK59  黒色土層	(4.0) 4.8 0.9 — (26)		緑色片岩	Z(A~D)片刃。身幅は広い。厚手である。両面共に研磨面下に剝離痕を留め凸凹している。背面は平坦。刃部稜は明確で刃面はやや狭い。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕が見られ、B面刃部にも磨滅が見られる。両面共に研磨痕が浅くなっている。 ○ なし	A面に鉄分付着。	
	S-07-0166 MJ56  褐色砂層	(5.0) (4.0) 0.6 2.2 (17)		緑色片岩	Z(A~D) 片刃。残存する刃部稜は直線的で、背部は浅く彎曲する。端部は欠損。薄手である。背部は薄く、背面は平坦である。(内6.5mm、外A7.5mm、B8.5mm) ○ 刃先は丸く磨滅しB面左上方へのびる。刃部中央では磨滅が著しく、刃線が少し上に来ている。背部、刃部は磨滅してやや光沢を帯びる。A面左孔右角、B面背寄りの紐孔角は丸く磨滅。 ○ なし		
	S-07-0169 KJ63  第3層・褐色砂質土層	(4.9) (3.8) 0.9 2.0 (21)		緑色片岩	Z 片刃。体部中央の刃部破片。刃部稜は直線的で、刃面は広い。 ○ 刃先は丸く磨滅。B面は光沢を帯びる。 ○ なし		
	S-07-0173 KJ67  第3層・黒色砂質土層	(8.1) (4.2) 0.9 — (39)		緑色片岩	Z 片刃。やや厚手の刃部破片。左端は破損後、一部平坦に研磨している。両面共に研磨面下に片理面を残し特にB面に大きく残存。刃部稜はなだらかで刃面は広い。刃面研磨面下に剝離痕残存。 ○ 刃部剝離後、先端は丸く磨滅。B面は光沢を帯びる。両端の破損部のエッジは磨滅。 ○ なし		
	S-07-0192 ML65  黒褐色礫混合土層	(6.2) 4.5 0.7 2.7 (31)		黒色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。刃部稜は明確で、刃面は広い。紐孔は右下りで背寄りに位置する(内7mm、外A11mm、B10mm)。左孔A面は斜め左上方より、B面は下方より穿孔され、不正円形を呈す。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面刃部へのびる。B面は全体に光沢を帯びる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし	A面に僅かに鉄分付着。	

( )は残存部分の法量である。


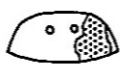






( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0200 ML60  黒色砂質土層	(2.5) (4.1) 0.8 — (9)	緑色片岩	Z 片刃。体部破片。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。B面左上方へのびる。 ○ なし			
	S-07-0208 KH70  第3層・黒色砂質土層	(4.8) (3.0) 0.6 — (8)	黒色片岩	Z 片刃。右端部破片。端部先端破損。両面体部表面は大平が剝離破損。 ○ 刃先は丸く磨滅。背部は磨滅し光沢を帯びる。 ○ なし			
	S-07-0227 KT62  黒色砂層	(4.5) (2.9) 0.6 — (12)	緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。端部先端破損。刃部破損後再研磨。左側の折れ口は両面より研ぎ出して鋭い。扁平片刃石斧に再加工しているものか。 ○ 両面に光沢が著しい。 ○ なし	扁平片刃石斧に再加工途上か。		
	S-07-0231 MM62 溝 (SF 074) 褐色砂層	(5.5) (3.2) 0.7 — (15)	緑色片岩	Z 片刃。身幅の狭い左側破片。端部先端は背側が円味をもつ。刃部稜は明確で、刃面の傾斜は急である。(内 5.5mm、外 8mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。B面、背面は磨滅し、光沢を帯びる。 ○ なし			
	S-07-0238 KF70・KG70  第3層・黒色砂質土層	(5.2) (4.0) 0.7 — (19)	緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。端部先端は破損。刃部は研ぎ直され3つの稜を有する。刃面は広い。刃先はA面へ剝離欠損。 ○ 刃先は丸く磨滅。 ○ なし	両面に鉄分付着。		
	S-07-0241 KY61  第3層・Pit内・黒色砂質土層	(4.4) (4.1) 0.8 — (16)	緑色片岩	Z 片刃。左側破片。刃先破損。刃部稜はなだらかで刃面は広い。紐孔は刃部寄りに位置する。(内 6.5mm、外A 8.5mm、B10.5mm)。 ○ 不明 ○ なし	火をうけて変色。		
	S-07-0247 ML60 溝 (SF 074) 褐色砂層	(4.5) (5.7) 0.7 — (25)	緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部破片。刃部稜は明確で、刃面は狭い。 ○ 刃部は小剝離しており、先端は丸く磨滅。B面刃部は磨滅。 ○ 背部にあり、背潰れ痕はB面側へ傾く。			
	S-07-0252 KY64  第3層・黒色砂質土層	(3.4) (3.0) 0.5 — (6)	緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。端部先端はA面へ剝離破損。刃部稜は明確で刃面は狭い。背面は薄い。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。B面刃部、背部は磨滅。両面の研磨痕は浅い。 ○ なし			
	S-07-0253 MN62 溝 (SF 074) 褐色砂層	(2.9) 3.8 0.9 2.4 (13)	緑色片岩	Z 片刃。身幅の狭い体部中央破片。刃部稜はややなだらかである。(内 7mm、外10mm) ○ 刃先は丸く磨滅。 ○ なし			

( )は残存部分の法量である。




( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法 量 (cm) (g)	長 さ 幅 厚 紐孔距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-0254 KH66  第3層・Pit22・黒色砂質土層	(2.9) (3.7) 0.6 — (10)		緑色片岩	Z 片刃。刃部中央破片。刃部稜は明確で刃面は狭い。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面左上方向へのびる。 ○ なし		
	S-07-0259 KL68・69・KM69  第3層Pit21a・黒色砂質土層	(4.4) (3.6) 0.8 — (15)		緑色片岩	Z (B~D) 片刃。身幅は狭く、刃部は浅く外彎し、刃部稜は直線的である。端部先端破損。B面は大きく剝離破損している。 ○ 刃先には刃線と直交する細かい磨滅痕があり、B面は磨滅し、光沢を帯びる。A面は研磨痕が浅く、肩部は磨滅。 ○ 背面にあり、剝離を伴う。		
	S-07-0267 MJ62  黒褐色礫混入土層	(2.9) (2.2) 0.6 — (5)		緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。端部先端はやや鋭い。刃部稜はなだらかである。 ○ 刃部B面へ剝離。 ○ 中央寄り背部にあり。		
	S-07-0269 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	(7.2) (3.4) 0.8 1.6 (33)		緑色片岩	Z (Eか) 片刃。身幅の狭い直刃か。端部先端破損。刃部中央寄りには背潰れの後、刃線に対し右上-左下方向に研ぎ直されている。背部は背潰れしており、もとの背面を留めず。両面とも端部研磨面下に敲打痕残存。(内5mm、外8.5mm) B面左孔右に未貫通穿孔痕あり。 ○ B面左肩部磨滅。A面よりもB面の方が研磨痕が浅く、光沢を帯びる。両面に縦擦れ痕あり。 ○ 背部にみられ両面側へ傾斜をもつ。刃部中央寄りおよび端部寄りにもありB面側へやや傾斜をもつ。		
	S-07-0273 KP60  第2層	(4.3) (3.7) 0.6 — (12)		緑色片岩 (点紋)	Z 両刃ぎみ片刃。端部の一部を含む刃部破片。 ○ 刃部は剝離している。 ○ なし		
	S-07-0279 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(5.2) (3.1) 0.7 — (17)		緑色片岩	Z 片刃。左端部のみ残存。身幅は狭い。端部先端に至り、幅狭くなり、円味をもつ。刃部稜は明確である。横軸はA面側へ彎曲。 ○ 刃先は丸く磨滅。A面端部寄り背部は磨滅。両面とも研磨痕は失われ光沢をもつ。 ○ なし		
	S-07-0289 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(2.0) (4.3) 0.8 — (10)		緑色片岩	Z 両刃。刃部破片。 ○ 不明 ○ なし		
	S-07-0291 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(3.3) (3.7) 0.8 — (9)		緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。 ○ 不明 ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0292 MJ58  腐混黒色砂質土層	(3.6) (3.0) 0.7 — (11)		緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部稜は明確 ○ 刃部は小剝離しており、刃先は丸く磨滅。B面は光沢をもつ。 ○ 上端縁にあり。		
	S-07-0296 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(3.0) (3.0) 0.7 — (6)		緑色片岩	Z 片刃。左端部破片。端部先端は鋭い。刃部稜は明確。 ○ 不明 ○ なし	火をうけて変色。	
	S-07-0297 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(3.7) (3.6) 0.6 — (10)		緑色片岩	Z 片刃。左端部破片。端部先端欠損。刃部稜は明確。背部は薄い。 ○ 刃先は丸く磨滅し、小剝離も見られる。B面は磨滅し、光沢を帯びる。 ○ なし		
	S-07-0300 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(4.9) (1.9) 0.5 — (9)		緑色片岩	Z 片刃。刃部左側破片。薄手である。刃部稜は明確で、刃面は傾斜が急である。 ○ 刃先は丸く磨滅。折れ口先端のエッジは磨滅。 ○ なし		
	S-07-0304 MI58 溝 (SF 074) 黒褐色礫混合土層	(7.9) (3.9) 0.8 2.7 (40)		緑色片岩 (点紋)	Z (Dか) 片刃。身幅の狭い杏仁形態か。刃部中央は背潰れ痕があり、形状不明。刃部稜は明確である。紐孔は左孔が不正円形を呈し、外径は三角形状を呈す(内6.5mm、外10mm)。 ○ 両面共に研磨痕は浅い。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背部、刃部にあり、ややA面側へ傾斜をもつ。		
	S-07-0306 MK58 溝 (SF 074) 褐色砂層	(2.9) (3.3) 0.7 — (9)		緑色片岩	Z 片刃。刃部中央破片。刃部稜は明確で、この部分で最大厚を測る。紐孔は刃部寄りである(内7mm、外10mm)。穿孔状況はA面斜め下方より、B面斜め上方より穿孔されている。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕が見られ丸い。B面は研磨痕が浅い。 ○ なし		
	S-07-0343 KX64  第3層	(6.2) (4.9) 0.8 2.8 (33)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。刃部稜はややなだらかで、刃面は広い。背面は平坦。B面右孔より右方体部の研磨面下に敲打痕残存。(内左6mm、右6.5mm、外8mm) ○ 刃部はB面側へ剝離。B面右肩部の背面と体部との角は磨滅。B面はやや光沢を帯びる。 ○ なし	火をうけて変色。	
	S-07-0344 LA64 土坑 (SK 270)	(4.1) (3.6) 0.4 — (8)		結晶片岩	Z 両刃。端部破片。薄手である。片面は表面が剝離。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。端部先端は磨滅。 ○ なし		
	S-07-0348 ML59 溝 (SF 074) 茶褐色砂質土層	(6.4) 4.9 7.6 2.1 (36)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。刃部稜はなだらかである。(内7mm、外A9mm、B8mm) B面は表面が荒れている。 ○ 刃部および両側の破損面のエッジは磨滅している。A面双孔を結ぶ紐孔角および、B面背寄りの紐孔角は紐擦れ痕あり。A面背部は研磨痕が薄れている。 ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備考
						○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	
	S-07-0351 MN60 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(5.2) (3.0) 0.8 — (18)	緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。身幅は狭い。刃部稜は明確で、直線的である。刃部稜で最大厚を測る。端部先端は両面より研ぎ出され薄い。紐孔は身幅の中央にある(内5.5mm、外不明) ○ 刃先は丸く磨滅。B面背部は磨滅し薄い。 ○ 背部および中央寄り刃部にあり。B面側への剝離を伴う。	両面に鉄分付着。 		
	S-07-0355 ML60 溝 (SF 074) 青褐色砂層	(8.4) (5.9) 0.7 — (33)	緑色片岩	Z(Dか) 両刃。身幅の広い体部破片。刃部稜はなく、体部より刃部にかけて、なだらかである。A面研磨面下に剝離痕残存。B面背部は片理に沿い表面は剝離。紐孔は背寄りである(内6.5mm、外8mm) ○ 刃先はB面側へ剝離しており、先端のエッジは丸く磨滅している。折れ口先端の鋭いエッジにも磨滅が見られる。 ○ なし			
	S-07-0357 KP66 第2層	(3.5) 4.8 0.8 2.8 (13)	石英安山岩	Z(A~D) 片刃。身幅は広い。両面共に表面は大きく剝離しており、その後一部研磨が施されている。紐孔は身幅の中央よりやや背寄りで両面より穿孔されている(内左4mm、右4.5mm、外7mm)。右紐孔の左に未貫通穿孔痕あり。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面刃部は磨滅により浅く凹んでいる。 ○ 背面に見られる。	A面に鉄分付着。 		
	S-07-0369 KP69 第2層	(3.1) (2.3) 0.6 — (5)	結晶片岩	Z 不明。1孔を有する背部破片。背は薄手である。 ○ 紐孔よりやや左上方背へのびる紐擦れ痕明確。紐擦れ痕を有する面は全体に磨滅し光沢を帯びる。 ○ なし			
	S-07-0391 MD59 黒褐色礫混入土層	(4.8) (3.9) 0.7 2.7 (22)	緑色片岩	Z 片刃。体部中央破片。残存する刃部稜はやや内彎する。紐孔は刃部寄り(内6mm、外8.5mm、敲打径14mm×11mm) ○ A面双孔を結ぶ紐孔角およびB面背寄り紐孔角は紐擦れ痕あり。 ○ 背部・刃部にあり。	両面に鉄分付着。 		
	S-07-0392 MI57 溝 (SF 074)	(7.5) (3.7) 0.7 2.6 (34)	緑色片岩	Z(Eか) 片刃。身幅は狭く、刃部は直線的である。刃部稜は明確で刃面の傾斜は急である。背部は背潰れにより原形を留めないが、残存部は外彎する。紐孔は身幅の中央よりやや背寄りにあり、両面より穿孔されている(内7.5mm、外10mm) ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面刃部には面の磨滅がみられる。体部の研磨痕はA面よりもB面の方が浅い。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背部にあり、A面側へ傾斜をもつ。端部寄り刃部にあり、B面側へ傾斜をもつ。両者ともに剝離を伴う。	両面に鉄分付着。 		
	S-07-0399 ME61 茶褐色礫混砂質土層	(4.5) 5.7 0.8 A2.3 B3.0 (31)	緑色片岩	Z 片刃。体部中央破片。4孔を有し、上方の一对は右下がり、背に接しており、左孔の上半分は欠損している(内5.5mm、外8mm)。下方の一对は体部中央より背寄りに位置し、上方の紐孔よりも間隔は広い(内左5mm、右4.5mm、外A7.5mm、B8.5mm)。刃部稜は不明瞭である。 ○ 刃部は剝離破損しており、刃先は光沢を帯びる。A面の研磨痕は浅い。背面はやや光沢を帯びる。 ○ なし			
	S-07-0417 ME61 黒色土層	(9.8) (1.9) (1.0) — (23)	緑色片岩	Z 背部破片。背部形態はゆるい円弧状である。背面は平坦な面で両平面との境界に角を持つ。打ち欠き面及び片理面が研磨面下に残存する。 ○ 不明 ○ なし			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備考
						○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	
	S-07-0420 MC58 溝 (SF 075) 黒色土層	(5.1) (3.5) 0.7 — (20)	緑色片岩	Z 片刃。背部は背潰れしており、身幅は狭い。刃部稜は明確で刃面の傾斜は急である。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕がある。両面は光沢を帯び特にB面刃部に著しい。 ○ 中央寄り背部にあり、剝離を伴う。			
	S-07-0421 ME61 溝 (SF 075) 黒色土層	(11.2) (4.3) 1.0 — (77)	緑色片岩	Z 片刃。厚手である。背部中央寄りおよび刃先全体に背潰れしており、原形を留めず。背部は肩部より端部に至り浅く外彎し、端部は幅狭くなる。刃部稜は直線的で、刃面は広い。B面中央の体部は剝離。 ○ A面よりもB面の方が研磨痕浅く、光沢を帯びる。 ○ 背部中央寄りにあり、A面側へ傾斜をもつ。刃先全体にもありB面側へ傾斜をもつ、両方共に剝離を伴う。			
	S-07-0422 ME60 溝 (SF075) 黒色粘質土層	(5.2) (4.0) 0.8 — (19)	緑色片岩	Z 片刃。左孔を含む体部破片。刃面が一部残存。背部は一部を除いて背潰れして不明。(内5mm、外不明) ○ 両面ともに研磨痕は浅い。 ○ 背部、刃部にあり。B面側へ傾斜をもつ。	両面に鉄分附着。 		
	S-07-0423 ME61 溝 (SF075) 黒色粘質土層	(9.8) (4.9) (0.5) — (28)	緑色片岩	Z 両刃。大型石庖丁の破片を再加工したものか。背部は肩部で内彎し、端部に至る。両面とも大きく片理面を残し、一部研磨が施されている。 ○ 不明 ○ 左方破損部の刃部寄りに一部見られる。	大型石庖丁の再加工品か。 		
	S-07-0425 MB58 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(11.1) (4.2) 0.7 2.9 (57)	緑色片岩	Z 片刃か。左孔より左半分欠損。刃部は剝離破損。背部は中央が略直線的で、肩部で屈曲し、端部へむかい直線的にのび、端部は円味をもつ。紐孔は背寄りにありB面側から深く穿孔されている(内6mm、外A8.5mm、B11mm)。背面、B面は光沢を帯びる。B面肩部に刃部より左上方にのびる磨滅痕あり。A面紐孔右方体部は研磨痕が浅い。両面に紐擦れ痕あり。 ○ A面肩部僅かに見られる。刃部は剝離しており先端のエッジに背潰れ痕が見られる。			
	S-07-0433 MD60 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(7.6) 4.4 0.6 2.0 (27)	緑色片岩	Z (Bか) 片刃。B面は片理に沿って全面剝離するが再使用されている。刃面幅は広く平面とゆるい角度をなす。紐孔はわずかに、右下がりに位置する。(内4.5mm、外6mm)。 ○ 体部の研磨痕は浅くなっている。刃先には刃線と直交する磨滅痕があり丸くなる。A面右孔の左角に紐擦れ痕あり。 ○ 刃先にわずかにみられる。			
	S-07-0434 LG60~66	(3.9) 4.8 0.8 — (26)	緑色片岩	Z 片刃。左肩部を含む体部破片。刃部稜は明確で、刃面の傾斜は急である。(内7mm、外A8mm、B11mm) ○ 刃先および両側の折れ口先端は磨滅。 ○ なし			
	S-07-0435 MD59 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(6.1) (3.9) 0.7 — (30)	緑色片岩	Z 片刃。右孔を含む体部破片。刃部稜は明確である。A面背部剝離後再研磨され、磨滅。(内5mm、外A12mm、B10mm) ○ 表面は光沢を帯びる。A面紐孔左角および背寄り角に紐擦れ痕あり。刃部はB面側へ剝離。 ○ なし			
	S-07-0436 LZ 表採	(4.5) 5.0 0.4 1.6 (11)	緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。A面は表面が剝離しており刃面の一部を残すのみ。(内6mm) ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面刃部へのびる。 ○ なし			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。



図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備 考
						○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	
	S-07-0438 M062  灰褐色砂礫層	(3.7) (2.7) 0.3 — (5)	緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。薄手である。刃部稜は明確で、刃面は狭い。A面の研磨面下に片理面残存。 ○ 研磨痕は浅い。背部の破損した先端のエッジは磨滅。 ○ 刃先に見られる。			
	S-07-0444 KK63  第3層・褐色砂層	(8.4) (3.8) 0.8 2.2 (39)	サヌカイト	Z 両刃。両端部欠損。刃部稜はなだらかである。紐孔は左下がり、身幅の略中央に位置し、両面より穿孔。孔径は小さい(内3.5mm、外7mm)。 ○ 背部はA面側へ剝離破損。刃部は両面側へ剝離破損後、先端のエッジは磨滅。A面双孔間を結ぶ紐孔角およびB面背寄り紐孔角に紐擦れ痕あり。両面とも研磨痕は浅く、やや光沢を帯びる。 ○ 背部中央の剝離破損した部分のエッジに有り。		B面に鉄分付着。	
	S-07-0453 MK63  黒褐色礫混合土層	(5.6) 4.9 0.8 2.4 (45)	緑色片岩	Z(B~D) 片刃。身幅は広く、背部および刃部は浅く外彎する。刃部稜は明確。端部は欠損しており、A面側の破損部は磨滅。B面右肩部は剝離後に磨滅している。紐孔は右下がり背寄りにあり、両面より穿孔されている(内左5.5mm、右6mm、外左9mm、右A10mm、B9mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面側への剝離も見られる。両面共に研磨痕は浅く、背面およびB面背部は著しく光沢を帯びる。A面双孔を結ぶ角および左孔の背寄り角、B面双孔ともに背寄りの角が丸く磨滅。 ○ なし		火をうけて変色。	
	S-07-0459 LC62  第2層	(5.8) (5.9) 0.6 — (26)	緑色片岩	Z(Dか) 両刃。身幅の広い杏仁形態の体部破片。 ○ 背部、左側破損面および刃先は磨滅。 ○ なし			
	S-07-0461 LY58 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(4.6) (3.4) 0.7 — (13)	サヌカイト	Z(B~D) 両刃。刃部は浅く外彎。背部破損。端部は剝離破損しているが、薄手である。(内5mm、外8mm)。 ○ 刃先は鋭いが、小さく刃こぼれしており、磨滅。A面側の刃面以外の表面の研磨痕は浅い。表面全体に光沢を帯びる。 ○ なし			
	S-07-0467  表探	(7.0) (4.8) 0.7 — (35)	緑色片岩	Z(CかD) 片刃。身幅は広い。背部はやや薄手で外彎し刃部は浅く外彎。端部は薄く、円味をもつ。両面ともに研磨面下に剝離痕残存。刃部稜はやや不明瞭。刃部稜附近で最大厚を測る。(内6mm、外A9.5mm、B8mm)。 ○ 両面ともに研磨痕は薄れ光沢を帯びる。 ○ 紐孔上方背および刃先全体にあり。			
	S-07-0474 MD59 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	(8.1) 6.0 0.8 2.8 (66)	安山岩	Z(B~D) 片刃。身幅は広い。刃部は研ぎ直され、浅く外彎。刃部稜は明確である。背部は浅く外彎。端部は欠損。紐孔は右下がり中央に位置する。(内5.5mm、外10mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、小剝離も見られる。両側の破損部のエッジは磨滅。特に左端に著しい。A面双孔共背寄りの角は磨滅。 ○ 紐孔上方の背面にあり、剝離を伴う。		A面に鉄分付着。	
	S-07-0481 MD59 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	(2.5) (3.0) 0.5 — (4)	緑色片岩	Z 片刃。左端部破片。先端は鋭い。刃部稜は明確である。両面とも研磨面下に剝離痕残存。 ○ 刃先は丸く磨滅。研磨痕は浅い。 ○ なし			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-0483 MZ	(2.6) (2.5) 0.6 — (5)	緑色片岩 (点紋)	Z 片刃。右端部破片。端部先端は鋭い。刃部後は不明瞭。 ○ 不明 ○ なし			
	S-07-0510 MM61 溝 (SF 074) 第1間層下・褐色砂層	(3.6) 5.2 0.7 — (21)	緑色片岩	Z (CかD) 片刃。身幅は広い。刃部は薄く両面より研ぎ出されておき、稜は不明瞭である。背部寄り体部で最大厚を測る。端部欠損後、破損部分のエッジは磨滅。 ○ 刃部はB面側へ小剝離しており、先端のエッジおよびB面刃部にかけては磨滅。B面刃部では磨滅が右上方へのびる。研磨痕はA面よりもB面の方が浅く、B面体部と背面との角は丸く磨滅し、光沢を帯びる。A面中央寄り背部にも磨滅あり。 ○ なし	両面に鉄分付着。		
	S-07-0512 MI64  礫混黒褐色土層	(6.5) (4.0) 0.7 — (21)	緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部稜はなだらかであり、刃面は広い。 ○ 不明 ○ なし			
	S-07-0525 LE66 土塊 (SJ 219)	(8.5) 4.6 0.9 A 3.6 B 2.5 (51)	緑色片岩	Z (BかD) 両刃ぎみ片刃。3孔を有し、身幅は広い。背部および両端部は破損後再研磨しているが右端部はB面側が大きく剝離破損。背部中央は浅く外彎し、肩部(左孔上方部)で強く彎曲して端部に至る。刃部は浅く外彎。A面刃部後はB面後よりも明瞭である。両面共に研磨面下に片理面が一部残存。紐孔は背寄りに3孔あり、左孔、中央孔、右孔と右下がりになっている(内左7mm×6mm、中央、右6mm、外左、中央A 9mm、中央B 10.5mm、右8mm)。B面左孔右上方、中央孔左下方、右下方、右孔上方、下方に未貫通穿孔痕あり ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面刃部へのびる。刃先の磨滅は右端部寄りに著しい。A面は研磨痕が浅く、背面、B面は磨滅して光沢を帯びる。B面中央孔、右孔より背方向へのびる紐擦れ痕あり。 ○ なし	再加工再使用品		
	S-07-0541 MO56  黒褐色礫混合土層	(7.7) (4.8) (0.7) — (25)	緑色片岩	Z 両刃。身幅の広い刃部破片。 ○ 表面は荒れており、不明。 ○ なし	火をうけて変色し、表面は荒れている。		
	S-07-0547  不明	(4.3) (4.0) 0.7 2.5 (19)	緑色片岩	Z 片刃。身幅の狭い体部中央破片。刃部後はややなだらかである。紐孔は右下がり、体部中央よりやや背寄りに位置する(内5mm、外9.5mm)。 ○ 両面とも研磨痕は浅く、やや光沢を帯びる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背面にA面へ傾斜して僅かに見られる。			
	S-07-0562 NQ58 溝 (SF 085)	(6.3) 5.8 0.6 — (29)	緑色片岩	Z 片刃。平面形は三角形状を呈す。破損後刃部を直刃につくりだす。両端欠損。B面体部に敲打痕あり。紐孔の痕跡なし。 ○ 不明 ○ なし	表面は風化している。		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0565 MF62 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(8.8) (3.7) 0.7 2.0 (34)	緑色片岩	Z 片刃。背部は背潰れにより原形を留めず。右端部欠損。刃部稜は直線的である。刃部は両面側へ打ち欠いた後、研ぎ直している。左孔下方体部の研磨面下に敲打痕残存。紐孔は右下がりであり両面より穿孔(内6mm、外8mm)。 ○ 両面共に研磨痕は浅い。刃先の一部に磨滅痕残存。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背部、刃部にあり、剝離を伴う。			
	S-07-0576 MK64 黒褐色土層	(4.4) (3.3) 0.7 — (13)	緑色片岩	Z 両刃。端部破片。端部先端は鋭い。 ○ 刃部はB面へ剝離しており、B面刃部は光沢を帯びる。 ○ なし			
	S-07-0579 MZ 溝 (SF 075)	(3.5) (3.8) 0.5 — (11)	緑色片岩	Z 片刃。身幅の狭い体部中央破片。刃部稜は明確で、刃面は狭い。縦軸に於てB面へ彎曲。紐孔は背寄りであり三角形状を呈する(内5.5mm、外8mm)。 ○ B面に刃先から左上方にのびる磨滅痕が著しい。B面紐孔より背方向へのびる紐擦れ痕あり。両面ともに研磨痕は浅い。 ○ なし			
	S-07-0584 MR63 溝 (SF 074) 灰褐色砂層	(6.1) 6.4 0.7 2.5 (29)	緑色片岩	Z(A~D) 片刃。身幅は広い。両面とも研磨面下に片理面残存。刃面には研ぎ直しあり、刃先も研磨され平坦になる。右破損部は再研磨され、一部平坦な面をなす。破損面他のエッジは磨滅。右孔に当る部分は少し抉りを入れ研磨されている。刃部右方破損面も一部研ぎ直し。紐孔は背寄りであり、両面より敲打後穿孔されている(内6mm、敲打面径A11mm、×14mm、B11mm)。 ○ 両面の研磨痕は浅い。 ○ なし	再加工品 		
	S-07-0600 MF62 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(5.5) 5.5 0.7 — (29)	緑色片岩	Z(CかD) 片刃。身幅は広い。刃部は薄く稜はなだらかであり、刃先に近づいてから屈曲し、鋭い刃部をつくる。端部は破損。紐孔は背寄りであり、B面側からやや深く穿孔されている(内5.5mm、外A9mm、B10mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり、B面刃部左上方へのびる面の磨滅がみられる。 ○ なし	火をうけて変色。 		
	S-07-0605 MR 62	(7.2) (2.5) 0.8 — (17)	緑色片岩	Z(A~D) 両刃ぎみ片刃。刃部のみ残存し、A面は再研磨され、刃部稜が明確であるが、B面は不明瞭である。背側折れ口先端のエッジ右端では一部研磨されている。 ○ 不明 ○ 上方の折れ口および刃部左方の破損部にあり。	表面は風化している。 		
	S-07-0608 MT59 溝 (SF 078) 黒褐色礫混合土層	(6.3) 4.4 0.8 2.3 (33)	緑色片岩	Z(Dか) 片刃。刃部は浅く外彎し、刃部稜はなだらかである。B面研磨面下に片理面残存。紐孔は右下がりであり背寄りにあり、両面より穿孔されている(内6mm、外A9mm、B8.5mm)。 ○ 刃先は丸い。A面双孔間を結ぶ方向の紐孔角は丸い。 ○ なし	火をうけて変色、表面は荒れている。 		
	S-07-0618 MU62 表採	(5.6) (4.9) (0.5) — (14)	緑色片岩	Z 片刃。体部破片。身幅は広い。B面は刃部の一部を除いて表面剝離。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕が僅かにあり、B面刃部は磨滅。A面は研磨痕が浅い。 ○ なし			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (cm) (g)	長 さ 幅 厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備 考
						○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	
	S-07-0620 MQ52・53 溝 (SF 074) 青灰色砂層	(5.8) (3.4) 0.7 — (18)		緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部稜はなだらかである。端部は円味をもつ。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。両面の研磨痕は浅い。 ○ なし		両面に鉄分付着。 
	S-07-0629 KB63  第3層・灰黒色砂質土層	(3.2) 4.3 0.7 2.1 (14)		緑色片岩	Z 両刃。体部中央破片。刃部稜は不明瞭であり、紐孔下部で最大厚を測る。(内6.5mm、外11mm、左B13mm)。 ○ 刃先からB面左上方にかけて磨滅痕がみられる。A面双孔間を結ぶ方向、B面左上方背方向へのびる紐擦れ痕あり。 ○ なし		
	S-07-0632 JS63  灰黒色砂質土層	(3.5) 4.7 (0.5) — (10)		石英安山岩	Z (A~D) 片刃。身幅は広い。背部は剝離破損して原形を留めず。A面の表面は剝離。B面背寄り体部に研磨の及ばない剝離痕残存。紐孔は残存する身幅の略中央に位置し、孔径は小さい(内4.5mm、外B7.5mm)。 ○ 刃先は鋭いが、刃線と直交する磨滅痕があり。B面刃部では右上方へのびる面の磨滅が、見られる。刃部B面には刃先からの剝離もある。刃面、B面の研磨痕は浅く、光沢を帯びる。B面背寄り紐孔角は磨滅。 ○ なし		
	S-07-0635 JW63  黒色砂質土層・Pit	(4.6) (4.7) 0.5 — (19)		紅簾片岩	Z 片刃。薄手で身幅の広い体部右側破片。背部・刃部は剝離破損。両面の研磨面下には片理面が残存し、B面研磨面下には敲打痕残存。 ○ 不明 ○ 刃部先端中央寄りにあり。		
	S-07-0650 IV62  第3層・整地面	(3.1) (3.0) 0.7 — (6)		緑色片岩	Z 不明。背部中央破片。(内8mm、外A9.5mm、B12mm)。 ○ B面に紐擦れ痕あり。B面は光沢を帯びる。 ○ 紐孔上方背面にA面側へ傾きをもって見られる。		
	S-07-0652 JG63  第3層・褐色砂質土層	(3.8) (3.2) 0.7 1.8 (14)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の狭い体部中央破片。紐孔は右下がりの背寄りである(内4.5mm、外8mm)。 ○ 両面に紐擦れ痕あり。 ○ 背部・刃部にあり、B面側に剝離を伴う。		火をうけて変色。 両面に鉄分付着。 
	S-07-0661 MG63 溝 (SF 075) 黒褐色礫混合土層	(5.4) (4.6) 0.7 4.2 (22)		緑色片岩	Z 片刃。体部中央破片。刃部稜はなだらかである。(内6.5mm、外9.5mm)。 ○ 不明 ○ なし		火をうけて変色。 表面は荒れている。 
	S-07-0685 JB64  黒色砂質土層	(4.6) (3.1) 0.9 2.1 (20)		緑色片岩	Z 片刃。体部中央の刃部破片。刃部は研ぎ直され刃面は傾斜が急である。紐孔はA面からは斜め下方より、B面からは垂直に穿孔されている(内6mm、外10mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、小剝離もみられる。B面の研磨痕は浅い。A面双孔間破損部は磨滅。 ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-0688 IV68 黑色砂質土層	(8.0) (3.7) 0.7 2.2 (32)	緑色片岩	Z 片刃。背部・刃部ともに背潰れしており、原形を留めず。端部破損。身幅は狭い。(内7mm、外11mm) ○ 刃部使用痕は背潰れ痕により不明。B面体部の研磨痕は浅い。A面紐擦れ痕あり。 ○ 背部・刃部にあり、剝離を伴ない先端のエッジは丸く磨滅している。	B面に鉄分付着		
	S-07-0689 IV68 溝 (SF 079) 黑色砂質土層	(5.5) (5.5) 0.7 — (30)	緑色片岩	Z (CかD) 片刃。身幅は広い。刃部稜はなだらかである。紐孔は身幅の中央よりやや背寄りで両面より穿孔されている(内5mm、外8mm)。 ○ 刃先はB面側へ剝離。B面肩部は磨滅しており、背面と体部との角はなだらかになっている。両面ともに研磨痕は浅くやや光沢を帯びる。 ○ なし			
	S-07-0691 JA66 黑色砂質土層	(3.7) (3.6) 0.8 2.9 (17)	緑色片岩	Z 片刃。体部中央破片。刃部稜は明確である。紐孔は左下がり、身幅の略中央に位置する(内5.5mm、外8mm)。 ○ 不明 ○ 背側に剝離が見られそのエッジに背潰れ痕あり。	火をうけて変色。表面は荒れている		
	S-07-0695 MU59 溝 (SF 078) 黑色砂粘質土層	(5.3) (3.5) 0.7 — (16)	緑色片岩	Z 片刃。左端部破片。背部は折れ、端部は円味をもつ。刃部稜は明確で、刃面は狭い。 ○ 刃部はB面側へ剝離欠損、B面刃部の研磨痕は浅い。 ○ なし			
	S-07-0696 MJ64 溝 (SF 077) 黒色土層	(9.9) (5.2) 0.8 — (54)	緑色片岩	Z (Dか) 片刃。身幅の広い杏仁形態か。端部先端および背部は剝離破損。(内6mm、外不明) ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕が僅かにあり、周囲の破損部エッジは磨滅。 ○ 背部中央および刃先にある。	両面ともに僅かに鉄分付着。		
	S-07-0707 IR64・65 井戸 (SG 332)	(7.3) (4.7) 0.7 3.5 (39)	黒色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。刃部は一部を残し、大きく剝離破損。紐孔は背寄り、両面より敲打後穿孔しており、不正円形を呈す(内8mm×7mm、外15mm)。両面共に研磨面下に片理面残存。 ○ 両面の研磨痕は浅く、背部はやや光沢を帯びる。刃部破損面のエッジおよび右側折れ口のエッジは磨滅。 ○ なし	A面に鉄分付着。		
	S-07-0712 JD66・67 黒褐色砂質土層	(5.1) 4.4 0.7 — (25)	緑色片岩	Z 片刃。左端部寄り体部破片。端部欠損。刃部稜は明確である。紐孔は身幅の中央やや背寄りである(内7mm、外9mm)。 ○ 刃先は丸く磨滅。 ○ なし	火をうけて変色。		
	S-07-0718 JD69 黒色砂質土層	(8.3) (5.9) 0.9 — (51)	緑色片岩	Z (Cか) 片刃。紐孔を含む右側体部破片。 ○ 両面とも光沢をもち、刃先は丸く磨滅し、刃先よりB面へのびる面の磨滅もみられる。 ○ なし			
	S-07-0733 JD68 黒色砂質土層	(6.4) (3.2) 0.7 — (28)	緑色片岩 (点紋)	Z 片刃。背部・刃部ともに背潰れしており原形を留めず。端部先端は破損。刃部稜はややなだらかである。紐孔は背潰れにより上半分は欠損(内5.5mm、外8mm)。 ○ B面は研磨痕が浅い。B面端部中央に孔の一部が残存し、光沢を帯びる。 ○ 背部・刃部にあり両面に剝離を伴う。			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

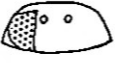

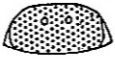


石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	
						○使用痕跡 ○背潰れ痕	
	S-07-0755 MF54  床土層	(3.9) (4.5) (0.5) — (13)		緑色片岩	Z 片刃。薄手の右端部寄り体部破片。 ○ 刃部は剝離しており、先端は磨滅。B面の研磨痕は浅い。 ○ なし		
	S-07-0758 JE66  床土・整地層	(5.7) (3.7) 0.9 — (29)		緑色片岩	Z 片刃。右端部寄り刃部破片。刃部稜は明確であり、刃面は研ぎ直しあり。 ○ 刃先は丸く磨滅しており、B面の中央寄り刃部に刃先から左上方向の磨滅痕が見られ、浅い凹みをなす。破損部のエッジは磨滅。 ○ なし		
	S-07-0768 JE54  整地面	(4.1) (4.0) (0.7) — (16)		緑色片岩	Z (C~D) 片刃。端部破片。端部先端破損後磨滅。A面側は表面剝離しており、背部は薄く刃部稜上方の体部で最大厚を測る。 ○ 刃先は丸く磨滅。研磨痕は浅い。 ○ なし	A面に鉄分付着。	
	S-07-0778 JE66  整地層	(7.9) 4.5 0.7 — (27)		緑色片岩	Z 両刃。やや小型のもの。完形に近い薄手であるが、紐孔をもたない。体部中央研磨された部分で、最大厚を測る。 ○ 不明 ○ なし	火をうけて変色。表面は風化している。	
	S-07-0783 MC50  整地層	(3.6) (4.1) 0.7 — (13)		黒色片岩	Z (Dか) 片刃。左端部破片。端部先端は破損。刃部稜は明確で刃面は研ぎ直しあり。 ○ 刃先は僅かに磨滅。端部先端は破損後磨滅。残存背部中央はB面側へ剝離後、磨滅している。端部先端、背面、B面背部は光沢を帯びる。 ○ なし		
	S-07-0791 JE66  整地層	(6.7) (4.6) 0.8 2.4 (44)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。残存する刃部の稜は直線的。紐孔は右下がり、背寄りにあり両面より穿孔(内左6mm、右7mm、外左10mm、右11.5mm)。B面は縦軸方向に浅く彎曲する。 ○ 背部・B面は光沢を帯びる。A面双孔を結ぶ方向、B面左上方背方向へのびる紐擦れ痕あり。 ○ 刃部にあり、B面側へ傾斜をもつ。	B面鉄分付着。	
	S-07-0807 MB50  黒褐色礫混土層	(5.9) (4.0) 0.8 — (23)		緑色片岩	Z (A~D) 片刃。端部先端欠損。両面共に研磨痕はあらく、B面研磨面下に片理面残存。 ○ 刃先は磨滅して丸く、B面刃部にも磨滅が見られる。刃部側破損部のエッジは磨滅して丸い。 ○ なし		
	S-07-0814 JE58  整地層	(5.5) (3.8) 0.6 — (14)		緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部稜はややなだらかである。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる。両面ともに光沢を帯びる。 ○ なし	A面に鉄分付着。	
	S-07-0816 JI66  整地層	(5.1) 3.7 0.7 2.8 (21)		黒色片岩	Z 片刃。身幅の狭い体部中央破片。刃部稜は明確で刃面は狭く、傾斜は急である。 ○ 刃先は丸く磨滅。 ○ なし	火をうけて変色。表面は荒れている。	

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-0821 MG53  礫混黒色土層	(4.6) (4.2) 0.5 — (13)		緑色片岩	Z 両刃。薄手の端部破片。端部先端は破損。刃部稜はなだらかである。両面とも研磨面下に剥離面残存。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。 ○ 左側辺に僅かに見られる。		
	S-07-0829 JU66  整地層	(6.0) (3.4) 0.7 — (18)		緑色片岩	Z 片刃。左側体部破片。端部先端は破損後、磨滅。背部は凹味をもつ。刃部は端部先端寄りの一部を除いて剥離破損。横軸はA面側へ彎曲。 ○ 研磨痕は浅い。背の破損部先端は磨滅。 ○ 刃部にあり、剥離を伴う。		B面に鉄分付着。 
	S-07-0830 JU66  整地層	(3.5) (3.0) 0.7 — (10)		緑色片岩	Z (D~F) 片刃。左端部破片。刃部稜は明確である。 ○ 不明 ○ なし		火をうけて変色。 表面は荒れている。 A面は鉄分付着。 
	S-07-0835 JY58  整地層	(5.1) (3.1) 0.8 — (19)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の狭い端部寄り体部破片。刃部稜は明確である。 ○ 両面とも研磨痕は浅い。 ○ 背部・刃部にあり、刃部はB面側へ傾きをもつ。		
	S-07-0836 JY58  整地層	(4.7) (4.2) 0.5 — (18)		緑色片岩 (点紋)	Z 片刃。右端部破片。薄手である。背部は肩部で屈折して右下方の端部へ至る。刃部は剥離破損後研ぎ直し。両面共に研磨面下に剥離面残存。 ○ 刃先は丸い。両面の研磨痕は浅い。 ○ なし		B面に鉄分付着。 
	S-07-0842 MB50  黒褐色礫混土層	(11.2) 5.3 0.8 2.7 (87)		緑色片岩	Z 片刃か。右端部破損。身幅は広い。背部は再研磨されており、左孔上方背より右端部へ向けて、右下方へ直線的にのびる。刃部は左端に刃面を残すのみで、先端を平坦に研ぎ直している(幅3~6mm)。B面右孔の右下方に接して、未貫通穿孔痕あり(径4.5mm)。B面は表面が荒れている。 ○ 左肩部はやや磨滅している。B面右端部破損後、表面は磨滅。 ○ 刃部先端および背部右半分に両面へ傾きをもって、一部見られる。左端部破損面のエッジにも僅かに見られる。		両面に鉄分付着し、 A面に著しい。 
	S-07-0854 LX51  礫混黒褐色土層	(3.6) (2.6) 0.6 2.3 (8)		緑色片岩	Z 不明。背部中央破片。 ○ B面に紐擦れ痕あり。 ○ 背部にあり。		火をうけて変色し、 表面は荒れている。 
	S-07-0860 MF62 溝 (SF 075) 黒褐色礫混合土層	(6.2) (4.0) 0.6 A 2.5 B 1.9+α (18)		緑色片岩	Z 片刃。体部中央破片。左孔部分で破損後再加工しており、刃部を作っている。刃部稜は明確である。紐孔は3孔を有し、右孔は破損している。左孔、中央孔で一対になると思われる(内左・中央 7.5mm、右不明、外 9.5mm)。両面とも研磨面下に片理面残存。 ○ 刃部は剥離後磨滅。両面の研磨痕は浅い。 ○ なし		再加工、再使用品。 

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背渋れ痕	備考
	S-07-0862 KH54  整地層	(4.9) (4.8) 0.8 — (24)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い刃部破片。刃部稜はなだらかである。 ○ 不明 ○ なし		火をうけて変色し、表面は荒れている。 
	S-07-0863 KH58  整地層	(2.9) (2.9) 0.6 — (11)		緑色片岩	Z 片刃。端部破片。先端は鋭い。刃部稜はややなだらかである。背面は平坦。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕がある。研磨痕は浅い。 ○ なし		両面に鉄分付着。 
	S-07-0864 KH58  整地層	(3.9) (3.1) 0.7 — (12)		緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。端部先端は鋭い。刃部稜は明確で、刃面は狭い。破損面のエッジは磨滅。 ○ 刃先は丸く磨滅。 ○ 上端破損面に著しく、刃部にもみられる。		
	S-07-0871 KQ61・62  第4層・灰褐色砂質土層	(4.2) 4.0 0.6 — (16)		石英安山岩か	Z (B~D) 片刃。身幅は狭く、体部の厚さは均一でない。紐孔上方背部はやや薄く、背面は平坦。刃部稜はなだらかである。A面体部に研磨の及ばない剥離面残存。紐孔は略中央に位置し、両面より穿孔されている(内5mm、外A7mm、B8mm)。 ○ 刃先は刃こぼれしている。 ○ なし		A面に鉄分付着。 
	S-07-0878 MH56  黒色砂質土層	(9.7) (5.2) 1.0 1.9 (50)		緑色片岩	Z (Dか) 紐孔を含む刃部破片。背面は丸い面を呈す。身幅中央に最大厚あり。紐孔はB面では敲打後穿孔(内5mm、外8mm)。 ○ 両面とも光沢あり。 ○ なし		
	S-07-0933 MNZ	(5.6) (3.0) 0.7 — (17)		緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部稜は明確である。A面は片理に沿った剥離破損。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。小剥離も見られる。両側の破損部先端は磨滅。 ○ なし		
	S-07-0938 MC54  整地層	(5.8) (3.0) 0.7 — (16)		緑色片岩	Z 片刃。1孔を含む体部右側破片。身幅は狭い。端部先端は鋭い。紐孔は背寄りである。 ○ 不明 ○ 背部・刃部にあり。		表面は風化。 
	S-07-0969 MI62 溝 (SF 077) 黒褐色土層	(4.5) (3.9) 0.5 1.8 (13)		黒色片岩	Z 片刃。体部中央破片。薄手である。刃部稜は明確で、刃面はやや広い。紐孔は背寄り、孔径は小さい(内5mm、外A7mm、B8mm)。B面右孔下方に未貫通穿孔痕あり。 ○ 刃先はB面側へ剥離。両面の研磨痕は失われている。 ○ なし		
	S-07-0979 KH54  茶褐色土層	(2.8) (2.6) 0.6 — (5)		緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。先端は鋭い。刃部稜はややなだらかである。 ○ 刃先は丸く磨滅。B面は磨滅し、やや光沢を帯びる。 ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法長 量幅 (cm)厚 紐孔距離 (g)重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-0982 MM64 溝 (SF 077) 黒褐色土層	(6.2) (3.5) 0.8 — (24)	緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。端部先端破損。刃部稜は明確で刃面はやや広い。刃面の研ぎ直しあり。 ○ 刃先の一部は丸く磨滅。両面とも研磨痕が薄れ、やや光沢を帯びる。 ○ 背部・刃部にあり、B面側へ傾きをもち剥離を伴う。		A面に鉄分付着。 
	S-07-0983 MD56 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(6.0) 4.9 0.7 2.4 (38)	緑色片岩	Z(B~D) 片刃。身幅は広い。背部は彎曲し、刃部は浅く外彎。刃部稜は明確で刃面には研ぎ直しあり。背面は丸味をもつ。紐孔は背寄りで両面より穿孔されているがA面では外孔径が逆三角形状を呈する(内5.5mm、外A9mm、B8mm)。 ○ 刃先には刃線に直交する磨滅痕があり、B面刃部左上方へのびる。両面共に研磨痕は失われ、光沢を帯びる、両面に紐擦れ痕あり、B面は左上方へのびる。 ○ なし		一部火をうけている。両面に鉄分が僅かに付着。 
	S-07-0985 KT58 茶褐色土層	(2.8) 4.2 0.7 — (8)	安山岩	Z(A~D) 片刃。両面共に大きく剥離破損。背部は薄い。紐孔は身幅の中央よりやや上方にあり、両面より穿孔されている(内5mm、外不明)。刃面に研ぎ直しあり。 ○ B面刃先に極く小さい刃こぼれがみられる。A面体部、B面全体に磨滅して光沢をもつ。 ○ なし		
	S-07-0986 MG56 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(4.4) (3.6) (0.4) 2.1 (8)	緑色片岩	Z 片刃。体部中央破片。A面側の表面片理に沿った剥離後、下半部に再研磨再使用。(内6mm、外8mm) ○ 刃先よりB面左上方へのびる磨滅痕あり。B面双孔より背方向へのびる紐擦れ痕あり。これらは剥離以前の使用痕跡であり、その後のものとして刃先に磨滅痕がみられる。 ○ 背部の右半分にあり。		
	S-07-0990 KH58 落ち込み	(6.7) 4.6 0.8 2.4 (38)	緑色片岩	Z 片刃。左半分残存。3孔を有す。端部は破損。肩部に1孔あり。(内6mm、外7mm)。紐孔は体部中央より背寄りである(内左6mm、右5.5mm、外9mm)。 ○ 刃部B面へ剥離後磨滅。両面ともに研磨痕は薄れ、光沢を帯びる。A面双孔間を結ぶ紐孔角およびB面背寄りの紐孔角は磨滅。 ○ なし		
	S-07-0996 MB52 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(6.2) (3.1) 0.7 — (12)	緑色片岩 (点紋)	Z(A-D) 片刃。刃部破片。刃部稜は明確で刃面に研ぎ直しあり。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。 ○ なし		
	S-07-1495 JD68 黒色砂質土層			S-07-0996と同一個体		
	S-07-1003 KL54 黒褐色土層	(7.0) (6.0) 0.7 2.0 (35)	緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部破片。刃部稜はなだらかである。(内6mm、外8mm) ○ 刃先には刃線に直交する方向、右上方へのびる磨滅痕があり、B面刃部右上方へのびる。刃先には小剥離もみられ、そのエッジも磨滅して丸くなる。 ○ 背部にあり。端部寄りではA面へ傾きをもち、中央寄りではB面へ傾きをもつ。		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1008 JU58  茶褐色土層	(3.8) (4.1) 0.5 — (9)		緑色片岩	Z 片刃。右肩部破片。薄手である。刃部稜はややなだらかであり、刃面は広い。紐孔は背寄りで不正円形を呈す(内7mm、外11mm)。 ○ 刃先は丸く磨滅しており、刃先からB面左上方に磨滅痕はのびる。 ○ なし		
	S-07-1019 JM66  褐色土層	(5.2) (2.9) 0.6 — (14)		緑色片岩	Z 片刃。左端部破片。A面の表面は剝離。 ○ 刃部は背潰れの為不明。表面の研磨痕は浅い。 ○ 背部・刃部にあり、B面側へ傾きをもつ。		
	S-07-1022 JM66  褐色土層	(2.2) 4.1 0.8 2.6 (18)		緑色片岩	Z 片刃。体部中央破片。右孔上方背に紐孔の痕跡を留める。(内6mm、外9mm) ○ 刃先には刃線に直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる。両面に紐擦れ痕あり。B面全体に磨滅。 ○ なし		
	S-07-1031 MQ62  黒色砂質土層	(7.2) 5.9 0.8 2.2 (52)		緑色片岩	Z (CかD) 片刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎する。B面体部の研磨面下に剝離が見られる。(内7mm、外9.5mm) ○ 刃部はB面へ剝離破損。 ○ なし	火をうけて変色し、表面は荒れている。	
	S-07-1035 MD60  黒色土層	(3.2) (3.1) (0.3) — (4)		緑色片岩	Z 片刃。左端部破片。端部先端は破損。刃部稜は明確で、刃面はわずかに残存。背面は再研磨され、薄い。A面は表面が片理に沿って剝落。 ○ 刃部は小剝離しており、先端は少し磨滅している。 ○ なし		
	S-07-1036 MB59  黒色粘質土層	(4.5) (2.9) (0.6) — (11)		緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部稜はややなだらかで、研ぎ直しがあり、刃面は広い。 ○ 刃先は丸く磨滅。 ○ なし		
	S-07-1041  不明	(4.0) (3.0) (0.5) — (6)		黒色片岩	Z 片刃。端部破片。端部先端欠損。 ○ 不明 ○ なし		
	S-07-1046 JB58  床土層	(6.6) (5.7) 1.0 — (58)		緑色片岩	Z (A~D) 両刃。身幅は広く、刃部は浅く外彎する厚手である。背部は欠ち欠きおよび背潰れにより原形を留めず。端部は欠損。 ○ 刃先は丸く、小剝離もみられる。 ○ 上端打ち欠き面のエッジにあり。	火をうけて変色し、表面は荒れている。B面に鉄分付着。	

( )は残存部分の法量である。








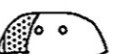
( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	
	S-07-1050 MR50 溝 (SF 085) 褐色礫層	(6.5) 4.3 0.9 2.9 (39)		細粒砂岩	Z (BかC) 片刃。厚手で、身幅はやや狭く背は直線的である。刃部稜付近で最大厚を測り、稜は明確である。紐孔は背寄り、A面よりもB面側から深く穿孔されており孔径は小さい(内5mm、外A 6mm、B 8mm)。 ○ 刃先は丸く磨滅しており、刃こぼれも見られる。B面は光沢を帯びA面は研磨痕が浅い。A面双孔を結ぶ方向の角およびB面背寄りの紐孔角は磨滅。 ○ 背面全体にA面側へ傾斜して見られる。右孔下方の刃部にもあり、B面側へ傾斜している。		
	S-07-1052 MF50 黑色砂礫土層	(7.0) 4.3 0.6 A (1.9) B 2.2 (29)		緑色片岩	Z (B~D) 片刃。薄手で3孔を有する。刃部稜は不明瞭。左孔はやや背寄り、A面よりもB面側がやや上方から穿孔されているため、小さい不正楕円形を呈する(内4mm×3mm、外A 8.5mm、B 7mm)。中央孔と右孔は対になると思われ、左孔よりやや斜め下方に位置する(内6.5mm、外8mm) B面右端体部の研磨面下に敲打痕残存。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる。両側の折れ口先端は磨滅。中央孔上方背は剝離後磨滅。 ○ 右孔上方の背に僅かに認められる。		A面に鉄分付着。 
	S-07-1057 MJ54 黑色土層	(6.4) 3.7 0.8 1.6 (32)		緑色片岩	Z (B~D) 片刃。身幅は狭く、背部・刃部ともに浅く外彎する。刃部は刃線に沿った方向に研ぎ直されている。両面共に研磨面下に剝離痕残存。横軸はB面側へ彎曲。紐孔は刃部寄り、A面下方より、B面上方より穿孔されている(内4mm×4.5mm、外8mm)。 ○ 刃部は研ぎ直されており、使用痕は認められず。背部は剝離後磨滅。折れ口先端のエッジは磨滅。A面の紐孔右角およびB面の背寄り角は磨滅。 ○ 背部に剝離があるが所謂背潰れ痕とは異なると思われる。		両面に鉄分付着。 
	S-07-1062 JY58 茶褐色土層	(4.2) (3.6) 0.7 — (19)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の狭い体部右方破片。右端部欠損。(内4mm、外7mm) ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり、B面左上方へのびる。両面ともに光沢を帯びる。 ○ なし		
	S-07-1064 JY58 黑色土層下部	(7.2) (3.3) 0.8 A 2.6 B 2.1 (28)		緑色片岩	Z 不明。背部・刃部ともに背潰れしており、原形を留めず。両端は欠損しており、体部中央に4孔を有す(内左、中央右4mm、中央左・右5mm、外7mm、右Bのみ8mm)。 ○ 両面共に体部の研磨痕は浅い。A面左と中央右、中央左と右の紐孔を結ぶ孔の角は磨滅。B面右孔は背寄り角が磨滅。 ○ 背部・刃部にあり。刃部中央は大きく剝離し、背潰れしている。左端破損部にも見られる。		B面に鉄分付着。 
	S-07-1076 JQ58 茶褐色土層	(6.0) (4.9) 0.8 — (34)		黒色片岩	Z (B~D) 片刃。身幅は広い。刃部は研ぎ直されており刃部稜はなだらかである。背部は剝離破損。端部は剝離破損後磨滅。B面研磨面下に片理面残存。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり、B面は研磨痕が薄れ、やや光沢を帯びる。 ○ なし		
	S-07-1113 JI66 褐色土層	(4.4) (3.6) 0.5 — (11)		緑色片岩	Z 片刃。左端部破片。先端は破損後磨滅しているがやや鋭い。薄手である。刃部稜は明確である。 ○ 刃先は丸く磨滅しており、刃線は浅く凹んでいる。B面刃部には、左上方へのびる面の磨滅が見られる。両面共に研磨痕は浅い。 ○ なし		両面に鉄分付着 

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1114 JI66  褐色土層	(4.2) 4.3 (0.5) — (10)		スレート	Z (Dか) 両刃。薄手の杏仁形態か。端部は薄く、先端は破損後磨滅。背部は薄く、背面は一部平坦な面をなす。刃部はA面側の稜はなだらかで、B面側の稜は明確である。両面共に研磨の及ばない剥離面を大きく残す。紐孔の孔径は小さい(内3.6mm、外6mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる。刃部にはB面側への小剥離もあり。研磨痕は浅い。 ○ なし		
	S-07-1115 JI66  褐色土層	(3.8) (3.1) 0.7 — (11)		緑色片岩	Z 片刃。左端部破片。刃部稜は明確で、刃面は広い。端部は直線的に下る。 ○ B面はやや光沢を帯びる。 ○ なし		火をうけて変色、表面は荒れている。 
	S-07-1120 JQ66  褐色土層	(2.5) 5.1 0.6 1.9 (11)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い薄手の体部中央破片。刃部稜はややなだらかで、刃面はやや広い。紐孔は左下がりで、背寄りに位置する(内4mm、外6.5mm)。右孔左に未貫通穿孔痕あり。 ○ 刃部はB面側へ小剥離後再研磨されており、剥離面のエッジは少し磨滅している。 ○ 背部にあり、B面側へ傾きをもつ。		
	S-07-1121 JQ66  褐色土層	(2.6) (4.8) 0.5 — (10)		緑色片岩	S-07-1120と同一個体		
	S-07-1143 JQ66  褐色土層	(5.8) 3.6 0.6 2.4 (18)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の狭い体部中央破片。刃部稜はなだらかである。B面刃部は研ぎ直しがみられ、稜の明確な狭い刃面を呈する。紐孔は右下がり、身幅の略中央に位置する(内6mm、外8mm)。 ○ 両面は磨滅しており、やや光沢を帯びる。A面双孔間を結ぶ方向、B面右孔左上方角および紐孔より背方向へのびる紐擦れ痕あり。 ○ なし		
	S-07-1147 NC50 溝 (SF 084) 腐植土層	(5.7) 4.4 0.6 — (23)		緑色片岩	Z (CかD) 片刃。薄手である。端部は破損後磨滅。B面肩部に研磨時のものか、右上-左下方向の浅い凹みあり。B面刃部寄り体部の研磨面下に剥離痕あり。 ○ 刃先は丸く磨滅し、剥離痕も見られる。両面の研磨痕は浅い。 ○ なし		B面に鉄分付着。 
	S-07-1154  不明	(5.3) (3.9) 0.6 2.1 (17)		緑色片岩	Z (B~D) 片刃。端部剥離欠損後、再研磨され、長方形態を呈する。背部は破損の為、不明。刃部稜は明確である。紐孔はA面側からより深く穿孔。(内7mm、外A11mm、B 9.5mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面左上方へのびる磨滅も見られる。B面全体に磨滅して光沢を帯びる。A面は研磨痕が浅い。両面に紐擦れ痕あり。 ○ 端部背にあり。		両面に鉄分付着、B面に著しい。 
	S-07-1155 JZ	(6.3) (3.4) 0.6 — (19)		緑色片岩	Z 片刃。左端部を含む破片。端部先端は破損。 ○ 刃部はB面へ剥離。A面よりもB面側の方が研磨痕が浅い。 ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。




図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
	S-07-1171 KD54  黒色砂質土層	(4.0) (3.4) 0.6 2.9 (14)		緑色片岩	Z 両刃ぎみ片刃。身幅の狭い体部中央破片。刃部は両面より研ぎ出されている。紐孔は左下がり、身幅の中央よりやや背寄りである。(内7mm、外9.5mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、光沢を帯びる。両面に紐擦れ痕あり。B面は研磨痕が浅く、背部は光沢を帯びる。 ○ 背部にあり、A面へ傾きをもつ。		
	S-07-1175 KD58  茶褐色土層	(3.3) (3.5) 0.6 — (12)		緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。端部先端は直線的である。刃部稜は明確で刃面は狭い。背部は背潰れにより、左半分は原形を留めず。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。両面共に研磨痕は浅い。A面肩部は磨滅。 ○ 肩部にあり、A面側へ剥離を伴う。		
	S-07-1181 JY54  茶褐色土層	(4.7) (4.9) 0.8 — (20)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。刃部稜はややなだらかである。紐孔は身幅の中央よりやや背寄りである(内6.5mm、外9mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面全体に光沢を帯びる。 ○ なし	B面に鉄分付着。	
	S-07-1211 JY58  茶褐色土層	(5.8) 4.0 0.7 — (17)		緑色片岩	Z (B-D) 片刃。身幅は狭く、背部・刃部は浅く外彎する。端部は剥離破損。刃部稜は明確で、中央寄りでは使用による磨滅で刃面は狭い。B面研磨面下に剥離痕残存。(内5mm、外7mm) ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、刃先は丸く、刃部中央寄りでは特に著しく、刃線は直線的になる。B面刃部に左上方へのびる磨滅痕あり。 ○ なし	A面に鉄分付着。	
	S-07-1212 LC58 第10号住居址 (SA 010) Pit 4	(3.8) (3.5) 0.8 — (15)		緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部は研ぎ直されており、刃部稜は明確である。刃先は剥離欠損。 ○ B面は光沢を帯びる。 ○ なし		
	S-07-1217 ML54 土器堆積 (SL 321)	(5.9) (5.2) 0.8 2.9 (45)		緑色片岩 (点紋)	Z 不明。身幅は広い。刃先は背潰れにより破損しており、片刃か両刃かは不明。 ○ 体部の研磨痕は浅くなる。 ○ 背部および刃部にあり。		
	S-07-1221 JU64  黒褐色土層	(7.5) 5.1 0.7 3.2 (49)		緑色片岩	Z (B~D) 片刃。身幅は広く、刃部中央は直線的である。背部は背潰れにより原形を留めず。紐孔は身幅の中央よりやや背寄りに位置し、左孔のA面側のみ敲打して両面より穿孔(内6mm、外左7.5mm、右8mm、敲打径28mm)。B面左孔右側と右下方に未貫通穿孔痕あり。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕が見られ、B面左上方へのびる。磨滅痕の下には剥離もみられる。A面双孔間を結ぶ角および、B面背寄りの紐孔角は磨滅。A面紐孔より下方の体部およびB面全体に研磨痕が浅い。 ○ 背面にあり、B面側へ傾斜しており、剥離も見られる。刃部にも背部程著しくはないが有り。		
	S-07-1243 JS64  黒褐色土層	(6.1) (4.7) 0.9 — (30)		緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部稜は明確で刃面は広い。 ○ 両面ともに研磨痕は浅くなる。 ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1244 JS64 黒褐色土層	(6.0) (4.5) 0.6 — (25)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部右側破片。端部欠損。刃部稜は明確である。紐孔は背寄りである。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面側へのびる。 ○ 両面ともに研磨痕は浅くなる。 ○ なし		火をうけて変色。 
	S-07-1246 KB66 黒褐色土層	(9.3) (4.6) 0.7 2.1 (42)		緑色片岩	Z (Cか) 片刃。身幅は広い。背は左紐孔上方部が再研磨により内彎している。両端部は破損。刃部は中央では浅く外彎し、端部に至り切れ上がる。(内7mm、外9mm) 右肩部に打ち欠きにより半円形を成す抉りが入られ、そのエッジは磨滅している。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。右孔の右方破損部は先端のエッジが磨滅。両面共に研磨痕は浅く、B面刃部は光沢を帯びる。 ○ なし		
	S-07-1252 MN55 土器堆積 (SL 321) 黒色土層	(6.7) (4.5) 0.7 — (30)		緑色片岩	Z 片刃。身幅は広い。背部・刃部は背潰れが著しいが肩部は円味をもつ。刃部は両面より研ぎ出されており、刃部稜は直線的である。 ○ A面よりもB面の方が研磨痕が浅くなっている。 ○ 背部にあり、A面側へ傾斜する。刃部右半分にもあり、B面側にやや傾斜している。		
	S-07-1256 MF52 溝 (SF 078) 黒色砂層	(5.5) (4.4) 0.7 — (23)		緑色片岩	Z (B~D) 両刃。刃部は浅く外彎し、稜はなだらかである。端部は剝離破損後磨滅。背部は浅く外彎すると思われる。紐孔は身幅の略中央にあり。 ○ 刃先はB面に小剝離がみられるが、そのエッジも含めて丸く磨滅している。端部には両面へ小剝離しており、そのエッジは潰れて丸くなる。 ○ なし		
	S-07-1257 MN54 土器堆積 (SL 321) 黒色土層	(6.6) 4.4 0.8 2.8 (39)		緑色片岩	Z 片刃。体部中央破片。刃部稜はなだらかで、刃面は広く研ぎ直しにより上下二面あり。刃部稜付近で最大厚を測る。背部はやや薄い。紐孔は身幅の略中央にあり、両面より穿孔(内左6mm、右5mm、外A 8mm、B 9mm)。A面双孔上方に重なって未貫通穿孔痕あり。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、刃部A面側への小剝離もみられる。両面の研磨痕は浅い。 ○ なし		
	S-07-1259 MB54 溝 (SF 074) 黒褐色砂礫層	(4.5) (4.3) 0.6 — (14)		緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部は研ぎ直されており、刃面は狭い。 ○ 刃先は丸い。 ○ なし		火を受けて変色。 
	S-07-1270 LC58 黒褐色土層	(5.5) (2.8) 0.7 — (15)		緑色片岩	Z 両刃ぎみ片刃。右端部破片。刃部稜はなだらかで、刃面は広い。A面研磨面下に敲打痕残存。 ○ 刃先からB面左上方へのびる磨滅痕あり。B面全体に光沢を帯びる。 ○ なし		
	S-07-1273 ML54 溝 (SF 078) 褐色砂層	(6.9) (6.4) 0.6 — (42)		緑色片岩 (点紋)	Z (CかD) 両刃ぎみ片刃。身幅の広い体部右方破片。右端部剝離欠損。刃部稜は明確で刃面は狭い。B面背部から体部にかけて研磨前の剝離面残存。 ○ 両面ともに研磨痕は浅い。 ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1299 LO58  黒褐色土層	(7.1) (5.4) 0.9 — (40)	緑色片岩	Z (Dか) 片刃。身幅は広い。端部折れ面に僅かに研磨が施されている。両面共に研磨面に剥離面残存。 ○ 刃先には細かい刃こぼれおよび小剥離が見られるが、エッジはともに丸く磨滅。B面は研磨痕が浅い。 ○ なし			
	S-07-1306  不明	(3.9) 6.6 0.9 2.9 (33)	緑色片岩 (点紋)	Z (A~D) 両刃。身幅は広く、薄手である。背面は平坦。刃部稜は不明瞭である。A面研磨面に剥離面残存。紐孔は身幅の中央よりやや背寄り、両面より穿孔されている(内7mm、外A10mm、B11mm)。 ○ 刃先は丸く磨滅。両面共に研磨痕は浅い。 ○ なし			A面に鉄分付着。
	S-07-1310  不明	(4.8) (6.2) 0.9 — (40)	緑色片岩	Z (A-D) 片刃。身幅は広く、残存する背部は直線的である。刃部は薄く、刃部稜はなだらかである。B面背部は研磨以前の打ち欠き面残存。 ○ 刃先は剥離している。両面共に研磨痕は浅い。 ○ なし			一部火をうけて変色。
	S-07-1314 JQ64 溝 (SF 081) 黒色土層	(2.9) (2.5) 0.6 — (5)	緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部稜はなだらかである。刃先は剥離破損後磨滅。 ○ B面はやや光沢を帯びる。 ○ なし			
	S-07-1326 IS62  黒褐色土層	(6.7) 4.5 1.0 3.0 (45)	緑色片岩	Z 両刃。身幅の広い体部中央破片。左側に行くに従い幅広くなる。刃部は両面とも研ぎ直されており、先端は平坦な面をなす。(内5.5mm、外左A8.5mm、B7mm、右A9mm、B7mm) 両面背部には打ち欠き面、体部には研磨の及ばない片理面残存。 ○ 両面とも体部上半の研磨痕は殆ど失われ、光沢を帯びる。 ○ なし			
	S-07-1328 JI54  整地層	(5.0) (4.3) 0.9 — (26)	緑色片岩 (点紋)	Z (Dか) 片刃。右端部破片。厚手であり、端部先端は破損。刃部稜は明確。 ○ B面全体に光沢を帯びる。肩部は磨滅。 ○ なし			
	S-07-1329 MJ54  黒色土層	(8.4) (4.2) 0.7 — (37)	緑色片岩	Z (B~D) 片刃。刃部は浅く外彎。刃部稜はややなだらかで、刃面は広い。研ぎ直しがみられる。背部は剥離破損しており、そのエッジは磨滅。 ○ 刃先は丸く磨滅。両面共に研磨痕は浅くなり、やや光沢を帯びる。 ○ なし			火をうけて変色。 A面に鉄分付着。
	S-07-1332 KB52  黒褐色土層	(6.8) (4.9) 0.8 — (62)	緑色片岩 (点紋)	Z (CかD) 片刃。紐孔を含む右側体部破片。刃部は打ち欠きにより殆ど失われており、そのエッジにわずかに研磨が施され、再加工している。 ○ 両面にわずかに光沢がみられる。 ○ 肩部にあり。			再加工品

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-1343 IX66 溝 (SF 079) 第2層・黒褐色粘質土層	(10.9) (3.4) 0.8 2.3 (46)	緑色片岩	Z(D~F) 片刃。再加工品。身幅は狭い。刃部は背潰れの為、刃先は不明。刃部稜はやや内彎する。刃面には研ぎ直された痕跡あり。端部先端は破損後磨滅。紐孔はやや左寄りと思われ、身幅の中央よりやや背寄りに位置する(内6mm、外A10mm、B9mm)。双孔よりやや右上方背に上半分のない双孔あり(内5.5mm、外7.5mm)。 ○ B面左肩部は刃先より左上方へのびてきた磨滅痕あり。両面に紐擦れ痕あり。背面、B面は研磨痕が薄れ光沢を帯びる。 ○ 刃部全体にあり。B面側へ傾斜して剝離を伴う。右肩部背面にあり。A面側へ傾斜をもつ。	再加工再使用品。両面に鉄分付着。		
	S-07-1355 LO58 溝 (SF 430) 黒褐色土層	(8.7) (3.2) 0.6 — (19)	緑色片岩	Z 片刃。薄手の刃部破片。刃部は研ぎ直されており、もとの刃線を留めない。背部寄りおよび左端は剝離破損後再研磨。両面の研磨面下に剝離痕残存。 ○ 刃部以外の周縁は磨滅。両面の研磨痕は浅い。 ○ 上端破損面中央にあり。			
	S-07-1356 IR66 溝・第3溝 (SF 080) 砂礫混黒色土層	(5.0) (3.7) (0.6) — (13)	緑色片岩	Z 不明。端部破片。背部は薄い、刃部欠損。片面の研磨面下に敲打痕残存。下端破損面のエッジは潰れて丸く磨滅。 ○ 不明 ○ なし			
	S-07-1359 MZ 表採	(6.1) (3.2) 0.9 — (27)	緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部稜はなだらかであり、稜付近で最大厚を測る。刃面は広い。B面紐孔より左下方に約2cm程離れて、未貫穿孔痕あり(径4.5mm)。 ○ 刃先は丸く磨滅。B面刃部は光沢を帯びる。両面とも研磨痕は浅い、右端の折れ口先端は一部磨滅。 ○ なし			
	S-07-1360 MZ 表採	(8.6) (3.7) 0.8 — (32)	緑色片岩	Z(B~D) 片刃。刃部は研ぎ直され、B面左半分は稜をもつ。両面共に研磨面下に剝離面残存。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり、B面右半分では左上方へのびる。両面ともに研磨痕は浅く、A面端部およびB面は光沢を帯びる。破損部先端のエッジは磨滅。 ○ なし	B面に鉄分付着。		
	S-07-1361 MZ 表採	(4.2) (2.5) 0.7 — (8)	緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。端部先端は鋭い。刃部稜は明確である。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、小剝離もみられる。B面背部は磨滅している。B面は光沢を帯びる。 ○ なし			
	S-07-1383 KJ66 Pit22	(5.4) (5.4) 0.6 — (23)	緑色片岩	Z(Eか) 片刃。身幅の広い左端部破片。背は肩部でやや屈曲して直線的になり、端部に至る。肩部から端部にかけて両面より研磨されており、薄い。刃部は背潰れ痕により刃面の一部のみ残存。 ○ 背面に光沢をもつ。 ○ 肩部よりやや端部寄り背部と、刃部に見られ刃部はA面側に傾きをもち、著しい。	B面に鉄分付着。		
	S-07-1398 不明	(6.4) (5.7) 0.7 2.5 (39)	緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。刃部稜は明確である。A面研磨面下に片理面残存。(内6mm、外B9mm) 右孔はA面からは垂直に、B面からは斜め右下方から穿孔されている。 ○ 刃部はB面側へ剝離破損。そのエッジは潰れている。 ○ 背部の一部にあり、剝離を伴い、先端は磨滅している。			

( )は残存部分の法量である。



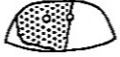
( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1464 MB50  茶褐色砂礫土層・整地面	(5.8) (3.6) 0.8 — (20)		黒色片岩	Z (B-D) 片刃。背部は剝離破損していて原形を留めていない。端部先端は欠損。刃部稜は明瞭で、この部分で最大厚を測る。刃面は広い、両面ともに研磨面下に片理面残存し、B面は浅く凹んでいる。(内6mm、外不明)。 ○ 刃先は丸く磨滅。両面共に研磨は浅い。 ○ なし		火をうけて変色。 
	S-07-1475 JY58  茶褐色土層	(5.5) (3.2) 0.7 — (21)		緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部稜はなだらかである。 ○ B面の研磨痕は浅い。刃部右端は磨滅。 ○ 上端破損面、刃部にあり。上端破損面はA面側へ、刃部はB面側へ傾斜をもつ。		
	S-07-1487 JV62 第5号井戸 (SG 108) 黒色粘質土層	(2.8) (3.3) (0.4) — (4)		緑色片岩	Z 片刃。左端部破片。端部先端は鋭い。背部の研磨面下に剝離痕残存。 ○ 刃先は丸く磨滅。 ○ なし		
	S-07-1492 IU68 第4号土器堆積 (SL 303) 黒色砂質土層	(5.0) (5.1) 0.6 — (21)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。刃部稜は明確だが、刃先は失われる。A面紐孔右下方および、B面紐孔左下方研磨面下に敲打痕あり。(内6mm、外A 8.5mm、B 7.5mm)。 ○ 刃部はB面側へ剝離破損。両面の研磨痕は浅い。B面背寄り紐孔角は丸く磨滅。B面体部と背面との角は磨滅。 ○ なし		
	S-07-1493 JC62 溝 (SF 079) 褐色粘質土層	(8.0) 3.6 0.7 — (32)		緑色片岩	Z (Cか) 刃部破片。両端部は薄く、左端は円味をもつ。刃部は浅く外彎し、刃部稜は明確である。両面に、再研磨が施され、右端部は特にうすく、刃を研ぎ出す途上にある。 ○ 顕著な使用痕は認められず。 ○ 上端破損面、刃先にあり、剝離を伴う。特に上方に著しい。		扁平片刃石斧に再加工途上品。 
	S-07-1496 KZ  表探	(3.7) (4.8) 0.5 — (11)		緑色片岩	Z 片刃。紐孔を含む刃部破片。薄手である。刃部稜はなだらかである。 ○ B面は研磨痕が浅い。破損部先端のエッジは一部磨滅。 ○ なし		B面に鉄分付着。 
	S-07-1528 ML62 溝 (SF 075) 黒色土層	(4.6) 5.2 0.8 1.5 (29)		緑色片岩	Z (B~D) 両刃。身幅は広い。端部先端は破損しており、内彎する。両面ともに刃面は広く、右上がりに研ぎ直されており、刃先は研ぎ出されていず、狭くて平坦な面をなす。A面左上がり、B面急な左上-右下方向の研磨が施されている。(内6mm、外A 8mm、B 9mm) 右孔はB面側からのみ深く穿孔されており、未貫通である。B面双孔間の左寄り小さい未貫通穿孔痕あり。 ○ 端部破損後、先端のエッジは磨滅。 ○ なし		両面に鉄分付着。再加工途上品 
	S-07-1555 ML54 土器堆積 (SL 321)	(7.4) (6.4) (0.4) — (20)		結晶片岩か	Z (A~D) 両刃。身幅は広く、薄手である。背部は残存せず、刃部は外彎する。両面に片理面残存。刃部稜は不明瞭。横軸はややB面側へ彎曲。 ○ 刃先には磨滅痕および刃こぼれが見られる。両面ともに刃部は光沢を帯びる。 ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-1568 LK54 黒褐色土層	(11.0) (4.6) 0.7 1.8 (51)		結晶片岩	Z 不明。身幅は広い。刃部は剝離破損して不明。両端部は破損。残存する背部は薄い。紐孔は左寄り、背寄りに位置している(内左6mm、右5mm、外B左9mm、右9.5mm)。両面の研磨面下に剝離面残存。 ○ B面紐孔の左側は研磨痕は消え、光沢を帯びる。 ○ 背部・刃部とも両面に剝離しておりそのエッジに背潰れ痕あり。		
	S-07-1588 LO54 黒褐色土層	(7.4) (4.6) 0.8 — (30)		緑色片岩	Z (Dか) 片刃。身幅は広く、刃部、背部の彎曲ぐあいから杏仁形態かと思われる。刃部稜はなだらかで、この付近で最大厚を測る。B面背部は片理に沿って剝離しており、背部は薄い。両面とも、研磨面下に剝離面が残存し、厚さは均一でない。 ○ 刃先は丸く磨滅し、B面にも刃部から体部にかけての磨滅が見られる。両面ともに研磨痕は浅く、やや光沢を帯びる。 ○ なし	両面に鉄分付着。	
	S-07-1591 IF60 礫混黒褐色土層	(2.4) 4.7 0.6 1.6 (11)		緑色片岩	Z 片刃。体部中央破片。刃部稜はなだらかである。(内6mm、外8mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。 ○ なし		
	S-07-1630 LO54 黒色土層	(6.3) (4.9) 0.6 2.5 (31)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。刃部稜は明確である。刃面には研ぎ直しが見られ上下二面あり。左端部破損後、先端のエッジは丸く磨滅。紐孔は左下がり背寄りである(内6mm、外9.5mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕がありB面刃部は磨滅し光沢を帯びる。背部も同様に光沢を帯びる。両面に紐擦れ痕あり。 ○ なし		
	S-07-1632 LO54 黒色土層	(5.4) (6.0) 0.9 — (39)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い端部破片。厚手である。端部先端破損。刃部稜はなだらかであり、刃面は広い。体部中央で最大厚を測る。(内5mm、外A 8.5mm、B10mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。B面刃部は磨滅。 ○ なし		
	S-07-1633 不明	(8.3) 6.1 0.7 A2.8 B2.6 (52)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い、体部中央破片。3孔を有し、右孔は半分欠損。残存背部は直線的である。刃部稜はなだらかである。(内7mm、外8mm)。 ○ 刃先には刃こぼれが見られる。 ○ なし	B面に鉄分付着。	
	S-07-1639 MB54	(4.6) (4.8) 0.8 — (23)		緑色片岩 (点紋)	Z 片刃。紐孔を含む体部左側破片。刃部は一部残存し、その稜は明確である。(内7mm、外11mm)。 ○ 不明 ○ 背部にあり		
	S-07-1653 MX62 茶褐色砂礫層	(5.6) (4.2) 0.5 — (19)		黒色片岩	Z (Dか) 片刃。体部左側破片。厚手である。 ○ 刃部はB面側へ剝離。 ○ なし	表面は風化。	

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。






図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-1656 IW56  黒褐色土層	(3.5) 5.0 0.6 2.6 (18)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。薄手である。刃面は狭い。(内7mm、外A8mm、B9mm)。 ○ 刃先にB面側への小剥離あり。 ○ なし		火をうけて変色し、表面は荒れている。 
	S-07-1669 JZ	(4.9) (5.5) 0.7 — (30)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い左端部を含む破片。刃部稜は明確である。 ○ 刃部はB面へ剥離。両面の研磨痕は浅い。 ○ 背部に僅かに認められ、B面へ傾きをもつ。		火をうけて変色。A面に鉄分付着。 
	S-07-1673 LO54  黒褐色粘質土層	(6.9) (4.1) 0.8 2.3 (39)		緑色片岩	Z 片刃。体部中央破片。刃部は剥離後、研ぎ直しを施して、刃面をつくる。刃部稜はなだらかであり刃面は広い。紐孔は身幅の中央よりやや背寄り、右下がりに位置する。A面側からの穿孔が深い(内4.5mm、外左8.5mm、右A10mm、B8mm)。 ○ 両面ともに研磨痕は浅く、表面は磨滅。B面双孔間を結ぶ方向、A面背方向へのびる紐擦れ痕あり。刃面を研ぎ出す以前の痕跡であろうと思われる。 ○ なし		
	S-07-1692 ML54 溝 (SF 078) 黒色砂層	(4.6) (3.5) (0.5) — (9)		緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。端部先端は鋭い。背部A面は破損後再研磨され薄く、片刃状になる。刃部稜はややなだらかで、刃面は広い。 ○ 刃先は僅かに磨滅。両面ともに研磨痕は薄れ、B面では光沢を帯びる。B面肩部寄り背部に、刃先より左上方へのびてきた磨滅痕あり。背面のエッジ全体に磨滅痕があり、丸くなっている。刃先と同様の磨滅痕とも考えられる。 ○ なし		
	S-07-1693 ML54 溝 (SF 078) 粗粒褐色砂層	(7.1) (5.1) 0.9 — (41)		緑色片岩	Z(A~D) 両刃。やや厚手で、身幅は広い。背は薄く、直線的である。刃面はA面よりB面の方が上方より傾斜し、刃部稜はなだらかである。(内6mm、外A10mm、B不明)。 ○ 刃先は小剥離しており、先端は磨滅して丸い。両側の折れ口のエッジは磨滅。B面肩部は磨滅。B面および背面は研磨痕が消えており、A面では研磨痕は浅い。B面紐孔上方付近および、端部寄り体部の剥離面も磨滅あり。 ○ なし		
	S-07-1707  不明	(5.6) (3.5) 0.7 — (23)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の狭い体部右側破片。端部欠損。背部は背潰れしており原形を留めず。刃部は研ぎ直されており、稜はややなだらかで、刃面は広い。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり。B面肩部に刃先より左上方へのびてきた磨滅がある。両面ともに光沢を帯びる。 ○ 一部を除いて、背部全体および、刃部の中央にあり、剥離を伴う。		
	S-07-1712 GP58  表土	(5.3) (4.1) 0.8 2.4 (25)		緑色片岩	Z 不明。体部中央破片。刃部欠損。(内6mm、外左10mm、右11mm)。 ○ 両面に紐擦れ痕あり。表面の研磨痕は失われている。背面はやや光沢を帯びる。 ○ なし		火をうけて変色。両面に鉄分付着。 
	S-07-1718 GP58  整地層	(4.1) 4.2 0.7 2.9 (16)		緑色片岩	Z 片刃。体部中央破片。刃部稜はややなだらかである。双孔間上方に1小孔あり(内1mm、外7mm)。A面小孔の左に重複して未貫通穿孔痕あり(径4.5mm)。紐孔は身幅の略中央に位置する(内6mm、外9.5mm)。 ○ 刃先は丸く磨滅し、刃線は浅く凹んでいる。A面右孔左角およびB面双孔より背方向に紐擦れ痕あり。 ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1732 LW50 溝 (SF 074) 上部褐色砂層	(6.4) (3.0) 0.6 — (18)		緑色片岩	Z (Eカ) 片刃。身幅は狭い。右端部破片。端部先端寄り背部剝離破損。刃部稜は明確である。背部は背潰れのため原形を留めず。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、丸くなる。刃先には小剝離もあるが、そのエッジにも磨滅痕あり。B面肩部は磨滅し浅い凹面を呈する。A面上半部、B面全体に光沢を帯びる。 ○ 背部にあり。		
	S-07-1744 MB50 第9号土器堆積 (SL 308) 上方部	(5.1) (3.7) 0.8 — (17)		スレート	Z 身幅の狭い中央破片。背部と刃線は略平行する。背面の研磨面下に剝離痕残存。刃面には左右方向の研磨痕あり。B面全体に表面は剝離破損。 ○ 刃部はB面側へ剝離後、先端のエッジは磨滅。A面背寄り体部の研磨痕は浅い。 ○ なし		
	S-07-1754 GZ  SF 082の廃土	(5.3) (2.7) 0.7 — (17)		緑色片岩	Z 片刃。右側破片。背部は背潰れのため、原形を留めず。刃部稜はなだらかで、刃面は広い。紐孔は刃部後寄りにある。 ○ 刃部は剝離破損しており、使用痕不明。 ○ 背部に著しい。刃部にもあり。	B面は風化により表面が荒れている。	
	S-07-1775 GP58 溝 (SF 083) 南斜面・黒色土層	(3.1) (3.4) 0.6 — (8)		緑色片岩	Z 片刃。右端部寄り体部破片。刃部稜はなだらかである。 ○ 刃部剝離後、先端は磨滅。 ○ なし		
	S-07-1785 GZ 溝 (SF 083) 上部砂礫層	(6.5) 4.6 0.7 2.1 (26)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い体部中央破片。刃部稜は明確で、刃面は広い。刃部は研ぎ直しを行っている。紐孔はやや背寄りである(内7mm、外9mm)。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。両面ともに研磨痕は浅くなる。	B面に鉄分付着。	
	S-07-1790 GZ 溝・2溝 (SF 083) 灰色砂礫層	(4.0) (3.5) 0.6 — (9)		緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。薄手である。刃部稜は明確。端部先端はB面側から研磨され薄い。背部はB面側へ剝離後一部再研磨し、薄い。 ○ 刃先は丸く磨滅。B面刃先から左上方背にかけて磨滅が著しく、浅く凹んでおり、光沢を有す。A面も研磨痕は浅い。端部先端、背面は磨滅。 ○ なし	両面に鉄分付着。	
	S-07-1793 GZ	(7.8) (6.1) 0.6 — (43)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い右側破片。薄手である。刃部稜はなだらかである。 ○ 刃先は小剝離している。B面肩部に刃先より左上方へ向けてきた磨滅痕があり、その部分は浅く凹んでいる。 ○ なし	両面に鉄分付着。 B面の表面は荒れている。	
	S-07-1794 GZ	(5.3) (3.7) 0.6 — (19)		緑色片岩	Z 片刃。左側破片。端部先端破損。B面研磨面下に剝離痕残存。紐孔は刃部寄りである。 ○ 刃先はB面側へ剝離しており、先端のエッジは磨滅。研磨痕は浅く、B面は光沢をもつ。 ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 紐孔間距離 重量	石材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴		備 考
						○ 使用痕跡	○ 背潰れ痕	
	S-07-1797 KD66  第3層・黒色砂質土層下部	(4.3) (3.6) 0.6 — (16)		黒色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部は研ぎ直されており、稜は明確である。(内6mm、外8mm)。 ○ 刃先はB面側へ小剥離もあるがエッジは丸く磨滅。A面およびB面体部は研磨痕が浅い。 ○ 背側にあり、両面に剥離を伴う。			
	S-07-1799 ML60 溝 (SF 074) 褐色砂層	(8.3) (4.1) 0.9 — (39)		緑色片岩 (点紋)	Z 片刃。体部左側破片か。厚さは不均一で両面ともに片理面よりなる。周縁のエッジも含めて全面磨滅が著しい。 ○ 刃先からB面体部にかけて磨滅。刃先には刃線に直交する方向の磨滅があり丸くなる。 ○ 背側の破損部にあり。			
	S-07-1808  不明	(3.0) (3.6) (0.4) — (5)		緑色片岩	Z 片刃。端部寄り体部破片。B面側表面は剥離破損。刃部稜はなだらかである。 ○ 表面は光沢を帯びる。 ○ なし			
	S-07-1812 LW50  黒褐色礫泥土層	(6.5) 5.6 0.7 3.0 (44)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い中央破片。刃部稜はなだらかである。紐孔はやや左下がり、背寄りにある(内6mm、外8.5mm)。 ○ 刃先にはB面を上にして見た場合、右下-左上方向の磨滅痕が見られ、B面左上方へのびる。A面双孔を結ぶ紐孔角は紐擦れしている。両面ともに、紐孔付近以外の表面の研磨痕は浅くなる。 ○ なし		火をうけて変色。B面背部は表面が荒れている。	
	S-07-1828  不明	(5.8) (5.5) 0.7 — (34)		緑色片岩	Z (A-D) 両刃。身幅は広い。背部は中央寄りでは直線的で、肩部で浅く彎曲する。刃部は薄く稜は不明瞭である。A面肩部付近の体部は浅く凹んでおり、横軸に直交する方向の研磨痕を有す。B面体部中央に横軸と平行する幅1mmの線条痕があり、細目の線条痕も見られるが、研磨痕が不明。紐孔はやや背寄りである。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕がある。両面ともに体部中央を除いては、研磨痕が浅くやや光沢を帯びる。端部破損により出来た鋭いエッジは細かな剥離を伴い磨滅。 ○ 背面と両面体部との角にわずかにあり。		両面に鉄分付着。	
	S-07-1846 LZ	(7.6) (3.7) 1.0 2.3 (42)		緑色片岩	Z 片刃。身幅は狭い。背部・刃部は背潰れしており、浅く外彎する。端部は破損後磨滅し丸味をもつ、A面体部左側に右上-左下方向の浅い面の凹みがある。刃部稜は明確である。B面研磨面下に敲打痕残存。紐孔はやや右下がり背寄りにあり、両面より敲打後穿孔されている(内5mm、外A7mm、B8mm)。 ○ A面では研磨痕は浅く、B面では研磨痕は失われ、光沢を帯びる。下半部には左上方へのびる磨滅あり。 ○ 背部・刃部に著しく、ややB面側へ傾斜をもち剥離を伴う。			
	S-07-1847  不明	(7.1) 4.9 0.6 2.7 (34)		緑色片岩	Z (CかD) 片刃。薄手である。身幅は広く、背部は大きく外彎。両端部は剥離破損。刃部稜は明確で刃面は狭い。紐孔の孔径は小さい(内左5mm、右4mm、外左A8mm、B7mm、右A7mm、B8mm)。 ○ 刃先にはB面を上にして左上-右下方向の磨滅痕がありB面刃部に右上がりにのびる。両面共に研磨痕は浅い。左方破損部および刃部破損部のエッジ磨滅。 ○ なし			
	S-07-1858 IB66  黒色粘質土層	(5.3) (3.8) 0.6 — (14)		緑色片岩	Z 片刃。体部左側破片。紐孔は身幅の中央よりやや背寄りである(内5mm、外7mm)。 ○ 刃部はB面へ剥離後磨滅。折れ面のエッジは磨滅。 ○ なし			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1859 IF60 溝 (SF 299)	(4.0) (4.3) 0.6 — (11)		緑色片岩	Z 片刃。刃部破片。刃部稜はややなだらかである。右側の折れ面のエッジは再研磨されている。左側剝離面のエッジは磨滅(内7mm)。 ○ 不明 ○ なし		両面に鉄分付着。 
	S-07-1861 JC64・65  黒褐色砂質土層	(3.3) (4.7) 1.0 — (17)		緑色片岩	Z 片刃。身幅の広い中央破片。刃部稜は明確である。(内5mm、外15mm)。 ○ 刃部B面へ剝離後、刃先には刃線と直交する磨滅痕あり、丸くなっている。両面とも研磨痕は失われ、光沢を帯びる。 ○ なし		両面に鉄分が付着しておりA面側に多い。 
	S-07-1862 IH58 溝 (SF 297) 灰褐色土層	(6.0) (4.2) 0.7 — (28)		緑色片岩	Z(Bか) 片刃。体部左側破片。端部破損後、再研磨。背部は剝離破損。刃部稜はなだらかであり、刃面は広い。紐孔は両面敲打後、両面より穿孔(内7mm、外不明)。両面研磨面下に片理面残存。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。 ○ 上端破損面にあり。		両面に鉄分付着。 
	S-07-1864 KV・KW62・63  第3層	(4.3) (3.6) 0.8 — (20)		緑色片岩 (点紋)	Z 片刃。身幅の狭い端部破片。刃部稜は明確。 ○ 不明 ○ 背部・刃部にあり、ややB面側へ傾きをもち剝離を伴う。		
	S-07-1865 MF60  茶褐色砂質土層	(2.8) (3.2) 0.6 — (5)		緑色片岩	Z 片刃。右端部破片。端部先端は鋭い。刃部稜は明確。 ○ 刃先は丸く磨滅し、B面は光沢を帯びる。 ○ なし		
	S-07-1871 GT50 溝 (SF 334)	(3.6) (3.0) 0.8 — (14)		緑色片岩	Z 不明。左肩部破片。 ○ 背面は光沢を帯びる。 ○ なし		火をうけて変色し、表面は荒れている。 
	S-07-1887 KZ  表探	(3.3) (2.9) 0.5 — (7)		黒色片岩	Z 片刃。身幅の狭い右端部破片。薄手である。端部先端は剝離破損後、磨滅。刃部稜はなだらか。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕があり、B面左上方への磨滅あり。両面共に光沢を帯びる。 ○ 背部にあり、剝離を伴う。		
	S-07-1890 MX60  Pit31	(4.6) (3.7) 0.7 — (16)		緑色片岩	Z 片刃。左端部破片。端部は円味をもつ。刃面は研ぎ直されている。B面研磨面下に剝離痕残存。 ○ 刃先には刃線と直交する磨滅痕あり。肩部はA面側へ剝離破損。B面肩部は磨滅が著しく、そのため、背面は狭くなっている。両面共に研磨痕は浅い。 ○ なし		火を受けて変色。 
PL.40-1 PL.58-1	S-07-1408 MV61 第14号井戸 (SG 117) 灰黒色混粘質土層	15.1 8.1 1.2 — 180		緑色片岩	未製品(D) 完形。片刃。第1工程。B面は刃先まで一面の片理面よりなり、A面は刃面をなすであろう。打ち欠きによる傾斜面をもつ。周縁には細かな打ち欠きを施し整形している。 ○ なし ○ 背面中央は背潰れにより丸くなる。		

( )は残存部分の法量である。

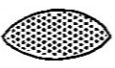


( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備 考
						○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	
PL.40-2	S-07-0592 KL70  第3層上部・黒色砂質土層	14.5 6.7 0.8 — 96	緑色片岩	未製品(D) 完形。第1工程。比較的うすい。背面は大きく彎曲し、刃部は浅い外彎刃である。打ち欠き成形後、エッジに細かな打ち欠きを施し整形。 ○ なし ○ 背面全体に少しづつあり。			
PL.40-3	S-07-1760 GP54 溝 (SF 083)	13.5 6.5 1.6 — 205	緑色岩類	未製品(D) 完形。第2工程、比較的厚味あり。両面共背面の一部に研磨が施されるが、打ち欠き面が大きく残る。エッジには更に細かな打ち欠き整形が施される。刃面はまだつくられず。 ○ なし ○ なし			
PL.40-4	S-07-1377 MI57  黒色砂質土層	13.9 7.0 1.0 — 153	緑色片岩	未製品(Dか) 完形。片刃か。第2工程。背部は深く彎曲し、中央は平らに近く、肩部で屈折して傾斜する。刃部は直刃で、端部で切れ上がる。両平面背面、刃先に研磨が施され、両面、背部にわずかに片理面、打ち欠き面が残存。刃面は研磨により傾斜をなすが刃先は背面同様平坦面を呈す。A面体部、B面はやや右上がりの左右方向、刃面は左右方向、刃部先端、背面は長軸方向の研磨が施される。 ○ なし ○ なし			
PL.40-5 PL.58-2	S-07-0866 MB55 溝 (SF 074) 黒色土層	14.2 6.4 1.5 — 185	緑色片岩	未製品(CかD) 完形。第2工程。両平面とも大きな剝離面よりなり、周縁に打ち欠きを施して成形。刃先には更に細かな打ち欠きを施して整形。その後両平面、背面に研磨を施すが剝離面、打ち欠き面が大きく残存。長軸方向でB面へ彎曲。A面では右上-左下方向、左右方向、傾斜の急な右上-左下方向等、B面では右上-左下方向であり、背面では長軸方向のいくつかの研磨面よりなる。 ○ なし ○ なし			
PL.40-6	S-07-1827 GZ 溝 (SF 083) 下層・黒色粘質土層	(8.9) 6.2 1.2 — (74)	緑色片岩	未製品(D) 第2工程初段階。両面は片理面よりなり周縁に打ち欠きを施して成形後、エッジに細かな打ち欠きを施して整形。B面にのみ上下方向の研磨が施される。 ○ なし ○ 背面のエッジにわずかにあり。			
PL.40-7	S-07-1430 JY58  黒色土層	(9.2) 7.5 1.2 — (100)	緑色片岩	未製品(D) 第1工程。両平面はいくつかの剝離面よりなり、周縁には打ち欠きを施し成形。背面中央にのみわずかに研磨が施される。 ○ なし ○ なし			
PL.41-1 PL.59-1	S-07-0741 MR59  褐色混砂粘質土層	(9.0) (4.1) 0.8 — (37)	緑色片岩	未製品(Eか) 第2工程。両平面、背面に研磨が施され平面と背面の境は角をなす。下端縁は両平面より擦り切りによりうすくし、折りとっている。 ○ なし ○ なし			
PL.41-2	S-07-1350 JS58 Pit1	(8.7) 6.2 0.9 — (70)	緑色片岩	未製品(D) 片刃。第3工程。全面に丁寧な研磨を施す。紐孔はA面では左孔のみ、B面では双孔に敲打による凹面をつくり、B面右孔はその後、穿孔している。背部にわずかに打ち欠き面残存。A面体部では左右方向、右上-左下方向、傾斜の急な右上-左下方向等刃面には右上-左下方向、左右方向の研磨。B面では左上-右下方向のいくつかの研磨が施される。 ○ なし ○ なし			

( ) は残存部分の法量である。

( ) は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

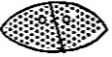

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
PL.41-3	S-07-1412 MS60 溝 (SF 078) 灰黒色粘質土層	16.3	7.2 1.5 — 257	緑色片岩	未製品(CかD) 完形。第2工程。両平面、背面に研磨が施されるが周縁からの打ち欠き面が残存。右端には平坦な自然面残存。下端部は両面へ2度の打ち欠きが施され、エッジには細かな打ち欠きが施され整形されたままで、刃部は、 ○ なし ○ 背面のエッジにわずかに背潰れ状痕跡あり。		
PL.41-4 PL.59-2	S-07-1214 MR50 砂礫混黒褐色土層	(9.8)	6.1 1.0 — (96)	黒色片岩	未製品(D) 片刃。第3工程。全面研磨が施されており、刃面も作りだされる。背部に研ぎ残しの打ち欠き面がわずかに残存。両面とも紐孔部に敲打により凹面をつくり、B面ではその中心に穿孔痕残存。A面体部、B面には右上-左下方向のいくつかの研磨面あり、刃面は刃先に沿った方向、背面は長軸方向、斜め方向のいくつかの研磨が施されている。 ○ なし ○ 刃先に背潰れ痕状の痕跡あり、中央部は刃面を失う程である。	鉄分付着 一部火をうけて変色。	
PL.41-5 PL.59-3	S-07-1530 MK63 溝 (SF 077) 褐色土層	(8.3)	5.5 0.8 1.8 (59)	緑色片岩	未製品(CかD) 片刃。第3工程。全面に丁寧な研磨が施され、刃部もつくられている。A面では左孔、B面では双孔の浅い穿孔痕あり。両面とも背部に研磨の及ばない打ち欠き残存。A面体部は右上-左下方向、刃面は左右方向、B面紐孔上方では左右方向、他は右上-左下方向の研磨が施されている。背面は長軸の方向のいくつかの研磨面よりなる。 ○ なし ○ なし		
PL.41-6	S-07-0792 JE66 整地層	11.2	5.6 1.2 — 107	緑色片岩	未製品(D) 完形。片刃か。第2工程。未製品にしては、小型である。両面とも研磨の及ばない打ち欠き面が大きく残る。刃面もわずかながら研磨が施されて傾斜面をなす。背面は研磨が施されず。 ○ 中央部刃先は丸く磨滅しており、刃線に直交する方向性をもつ磨滅痕と思われる。 ○ 背面全体に背潰れ痕あり。	B面に鉄分付着。	
PL.41-7 PL.59-4	S-07-1438 MZ 表採	(10.0)	(6.8) 0.8 A2.3 B1.9 (65)	緑色片岩	未製品(D) 片刃。第3工程。うすく、身幅は広い。両面とも研ぎ残しの片理面及び背面には打ち欠き面がわずかに残存。中央背面寄りに、A面では敲打により凹面をつくり、左孔はその中心に穿孔痕あり、B面では直接穿孔した痕跡あり。A面体部は右上-左下方向、刃面は刃先に沿った方向、B面はやや右上がりの方向の研磨、背面は長軸方向の研磨である。刃部は作り上げられておらず、中央刃先は幅1mmの平坦面をなす。 ○ なし ○ なし	鉄分付着	
PL.41-8 PL.59-5	S-07-1158 JU58	(9.1)	5.6 1.0 2.0 (78)	緑色片岩	未製品(C) 両刃。第3工程。両面とも丁寧な研磨が施されているが背部・刃部は打ち欠き面がわずかに残る。紐孔は両面とも背寄りに敲打による凹面をつくり、B面では更に穿孔した痕跡あり。A面体部、刃部とも右上-左下方向、中央部のみ上下方向。B面体部刃部とも右上-左下方向、右端部のみ上下方向の研磨である。背面は斜め(右上-左下)方向のいくつかの研磨面よりなる。 ○ なし ○ なし		
PL.41-9 PL.58-3	S-07-1691 IP60 礫混黒色土層・Pit1	11.9	4.8 0.7 — 61	緑色片岩	未製品(D) 完形。片刃。第2工程。略完成のもの。両面とも丁寧な研磨が施されているがA面に研ぎ残しの打ち欠き面残存。B面は平坦、A面は丸味をもつ面であり、刃部稜をもたない。刃先は幅0.5mmの平坦面をなす。A面は右上-左下方向のいくつかの研磨面よりなり、B面もまた右上-左下方向の研磨であり、背面は長軸方向のいくつかの研磨面よりなる。 ○ なし ○ なし	鉄分付着	

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
PL.41-10	S-07-1557 JW64  黒褐色土層	(9.2) 6.0 0.6 約2.1 (52)		緑色片岩	未製品(BかD) 片刃。第3工程。端部折れ欠損。両面とも片理面よりなるうすい板材を使用しており、両面に片理面、刃部B面背部には打ち欠き面が残存。中央部やや背寄りにA面右孔、B面双孔とも、敲打により凹面をつくり、A面左孔は直接穿孔し、B面では凹面上に小さく穿孔している。(内2.5mm、外A10mm)。A面にはそれ以前の穿孔痕が左孔の左右に1対あり。A面は右上-左下方向、刃部周辺は右上がりのあらい研磨、B面は細かな右上-左下方向の研磨、刃部は左右方向のあらい研磨である。背面は長軸方向、斜め(右上-左下)方向の研磨である。 ○ なし ○ なし		
PL.41-11	S-07-1743				タイプ不明(Z) 参照		
PL.41-12 PL.58-4	S-07-0518 MU59 溝 (SF 078) 黒色粘質土層・下面	13.1 5.9 0.8 約1.6 90		緑色片岩	未製品(D) 完形。片刃。第3工程。全面丁寧な研磨が施され、B面背部にわずかに打ち欠き面残存。中央部背寄りに両面とも敲打による凹みをつくる。(径約10mm×10mm) A面体部は右上-左下のいくつかの研磨面より成り、B面体部も同じく右上-左下方向、孔部上方左右方向、刃面は上下2つの研磨面よりなり上方は上下方向、刃先側は右上がりの方向の研磨である。B面刃部は左右方向の研磨である。背面は斜め(右上-左下)方向のいくつかの研磨面よりなる。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0558 MQ56 溝 (SF 078) 黒色粘質土層				S-07-0518と同一個体		鉄分付着
PL.42-9	S-07-1435 JI66  褐色土層	(9.2) 6.1 1.0 — (81)		緑色片岩	未製品(Dか) 片刃。第3工程。背部に研き残しの打ち欠き面が残存。紐孔は1孔のみ背寄りに、A面では敲打後穿孔、B面では直接穿孔してわずかに貫通している(内1.5mm、外12mm)。刃部は浅い外彎刃を呈するが、背潰れにより刃先は殆ど失われる。 ○ なし ○ 背面にわずかにあり、刃部には著しく、刃面は殆ど失われる。		A面に鉄分付着。 
	S-07-0005 JW65  第2層・黄色土層	(3.3) 5.4 0.8 2.5 (21)		緑色片岩	未製品 片刃。第3工程。表面研磨後A面に双孔穿孔。右孔に対応してB面にも敲打後の穿孔痕あり、未貫通。背部に研磨前の剝離面あり。 ○ なし ○ 背面にあり。		鉄分付着 
	S-07-0007 KR・KSZ  第4層・灰褐色粘質土層	(3.6) (4.7) 0.9 — (23)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-0356 MZ	(5.2) (4.3) 0.8 — (19)		緑色片岩	未製品 第2工程。端部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0382 MD60  黒褐色礫混土層	(4.0) (4.5) 0.9 — (20)		緑色片岩	未製品(Cか) 第2工程。端部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0386 MA58  黒色土層	(7.0) (4.1) 1.0 — (31)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。両面、刃先に研磨が施される。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0396 KL66 土壇 (SK 414)	(8.0) (4.4) 1.0 — (41)		緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ なし		火をうけて赤変。
	S-07-0407 MB61  黒色土層	(9.4) (4.4) 0.6 3.2 (38)		緑色片岩	未製品(D) 両刃。第3工程。杏仁形態で端部先端は鋭い。背面は、長軸方向に複数の面に研磨され全体に丸い面を作る。紐孔の左孔は貫通孔で、右孔は両面に未貫通穿孔痕あり(A 8mm、B 3mm)。刃先は1mm以下の幅で平坦な面に研磨している。両平面共に右上-左下方向に研磨痕あり。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0419 MA59 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(6.4) (4.0) 0.7 — (22)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。片面が研磨されるが、片理面を残す。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0440 MR57 第3遺構 (SZ 508) 第3層上面	(6.1) (3.5) 0.6 — (23)		緑色片岩 (点紋)	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ なし		片面に鉄分付着。
	S-07-0449 KX66  第2層	(8.0) (6.4) 1.2 — (70)		緑色片岩	未製品 第2工程。上端縁は直線的にのび、端部は円い。下端縁は内彎しており、中央部の身幅は狭く、端部で幅広くなり、鎌形を呈す。両平面共に片理面よりなる板材で、周縁より打ち欠きを施す。一方の平面がわずかに研磨されている。 ○ なし ○ 周縁に背潰れ状痕跡が顕著で、打ち欠き面のエッジは失われる。		

( )は残存部分の法量である。

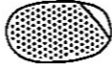







( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-0455 KQ65 第3層・黒褐色土層	(6.8) (6.1) 0.9 — (43)		緑色片岩	未製品(D) 第2工程。A面は、片理面が残存するが、ほとんど研磨されており、B面は剥離したためか、背面近くに若干、研磨面が残る。背面は、平坦に研磨されている。 ○ なし ○ なし		B面の一部に鉄分付着。 
	S-07-0456 KQ65 第3層・黒褐色土層	(9.2) (6.0) 1.0 — (76)		緑色片岩	未製品(D) 片刃。第3工程。周縁より打ち欠きにより成形後、背面・両面に研磨が施されている。しかし両平面とも背部・刃部に研磨面があり体部中央は片理面残存。B面背部に未貫通の穿孔痕があり、その右側に1対のより小さな穿孔痕あり。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0458 LY58 黒褐色礫混合土層	(5.9) (6.0) 1.0 — (44)		緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0476 不明	(5.6) 3.8 1.1 — (33)		緑色片岩	未製品 第1工程。身幅の狭い直刃形態をなす。 ○ なし ○ 背面と刃先全体に背潰れ状の痕跡あり。		
	S-07-0498 MN56 黒褐色礫混粘質土層	(6.1) 5.4 1.2 — (54)		緑色片岩 (点紋)	未製品(D) 第2工程。周縁に打ち欠きを施して成形後両平面、周縁に研磨を施す。研磨の及ばない剥離面残存。周縁は平坦な面を残す。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0509 ML60 溝 (SF 074) 褐色砂質土層	(5.3) 3.9 1.2 — (30)		緑色片岩	未製品(D) 第1工程。端部破片。 ○ なし ○ 周縁のエッジに背潰れ状の痕跡あり。		
	S-07-0522 MF61 溝 (SF 075) 黒色土層	(9.8) (5.1) 0.8 — (65)		緑色片岩	未製品(D) 片刃。第3工程。両面に研磨が施されるが、両面に剥離面あり。紐孔部は背寄り左寄りにあり、右孔は両面より穿孔され、左孔はB面にのみ浅い穿孔痕あり。 ○ なし ○ 背部・刃部に著しく、背面中央部は平坦面になり、刃部は刃面が失われる。		
	S-07-0566 MH62 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(8.6) 3.6 0.8 — (52)		緑色片岩	未製品 第2工程。A面は敲打により断面形は円みをもつ面につくられており、B面は剥離面のまま、両端部は剥離欠損面よりなり、右端部を除く全面に研磨が施される。上下両端も研磨により丸くなり、平面中央部には研磨は及ばない。 ○ なし ○ なし		大型蛤刃石斧が片理面より剥離欠損後の再加工作品か。 
	S-07-0572 MT63 溝 (SF 074) 褐色砂混粘質土層	12.8 (5.1) 1.2 — (102)		緑色片岩	未製品(D) 完形。第2工程初段階。全体的に身幅の狭い杏仁形態を呈す。A面は自然面であり、B面は剥離面よりなる。A面の周縁には打ち欠きにより成形されてから、A面にわずかな研磨がみられる。B面は研磨されず。 ○ なし ○ 背面全体にあり。この背潰れにより、背面は丸く彎曲する。		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備考
						○使用痕跡 ○背潰れ痕	
	S-07-0574 Z  第3層・黒色砂質土層	(9.7) 5.5 1.3 — (99)	緑色片岩 (点紋)	未製品 第1工程。両面とも剝離面よりなり周縁に打ち欠きが施される。 ○ なし ○ 上端・下端面のエッジは背潰れ痕状の痕跡で丸くなる。			
	S-07-0578 MK64 溝 (SF 075) 黒色土層	(8.1) (4.3) 0.9 2.3 (29)	緑色片岩	未製品(D) 片刃。第3工程。全体に丁寧な研磨を施す。紐孔はA面側より敲打し、B面側より穿孔している(内3mm、外8mm)。 ○ なし ○ 背面のエッジに僅かにあり。			
	S-07-0585 MR63 溝 (SF 074) 褐色砂層	(8.5) 6.1 0.9 — (57)	緑色片岩	未製品(C) 第1工程。両面とも片理面よりなるうすい板材の周縁に打ち欠きを施して成形。 ○ なし ○ 上端面・下端面の打ち欠き面のエッジにあり。			
	S-07-0590 KM70  第4層・黒色砂質土層	(11.5) (7.1) 1.0 — (136)	黒色片岩 (長石)	未製品(CかD) 第2工程。背面は平坦な自然面で若干、研磨されている。両平面共に片理面よりなる板材。刃部のみに打ち欠きを施している。 ○ なし ○ 刃部の打ち欠きのエッジに背潰れ状の痕跡あり。			
	S-07-0591 MO60 溝 (SF 074) 青灰色砂層	(6.2) 6.8 0.5 — (27)	緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0593 KL57  第4層	12.9 5.4 2.0 — 181	緑色片岩	未製品(D) 完形。両刃か。第2工程。周縁より両平面へ打ち欠きを施して杏仁形態に成形し、両平面中央部の厚い部分にのみ研磨を施している。上下方向の研磨が大部分で、一部のみ右上-左下方向の研磨もある。周縁のエッジは鋭い。両面とも二度の打ち欠きで厚みを取り、成形し、周縁には更に細かな打ち欠きがみられる。 ○ なし ○ 背面中央より右寄りに、長さ約2cmの部分にあり。			
	S-07-0598 JB63  黒色砂質土層	(7.8) 5.7 0.9 2.7 (57)	緑色片岩	未製品(D) 片刃。第3工程。ほぼ完成時に近い。端部が放物線状の曲線をなす。B面は平坦でA面は身幅の上半では厚みあり、下半部では次第にうすくなる。刃部は稜をなさない。両面に丁寧な研磨が施される。B面紐孔は背寄りに左下方へ傾斜して位置する。左孔は貫通しており、右孔はA面には、磨って凹めたような痕跡。B面には敲打による凹みあり。B面は紐孔を敲打後研磨している。左孔A面では背面からの打ち欠きによりうすくなっているが、両面に敲打後穿孔する(内7mm)。刃先は研磨により幅0.5mmの平坦面をなす。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0602 MO56 溝 (SF 078) 黒色粘質土層	(9.1) 5.4 1.0 — (65)	緑色片岩	未製品(D) 片刃。第2工程。両面に研磨を施したもの。両平面とも片理面から剝落しており、A面刃部では特に著しい。両面とも右上-左下方向のあらい研磨が施される。刃先は丸いが厚みが残る。 ○ なし ○ なし			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0633 MY61  黑色砂質土層	12.9 7.8 1.1 — (183)	綠色片岩	未製品(CかD) 完形。第1工程。周縁より2度の打ち欠き成形後そのエッジに細かな打撃を施し整形している。一平面は自然面よりなる。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0637 JP63  第2層・褐色砂質土層	(5.4) (6.5) 0.8 — (31)	綠色片岩	未製品 第1工程。両平面共に片理面よりなる板材で上辺・下辺は、折れ面よりなり、端部は平坦な自然面である。 ○ なし ○ 上・下周縁に、背潰れ状の痕跡あり。		片面に鉄分付着。 他面は風化する。 	
	S-07-0638 JP68  第2層・褐色砂質土層	(7.5) 5.8 1.0 — (59)	綠色片岩	未製品(D) 第2工程。両平面・背面に研磨が施されたもの。両面とも周縁からの打ち欠きが残存する。刃部は稜をなさない。 ○ なし ○ なし		鉄分付着 	
	S-07-0655 MI64 溝 (SF 075) 黑色粘質土層	(8.2) (5.6) 0.7 — (42)	綠色片岩	未製品(D) 第2工程。両平面共に研磨されるが、片理面が下に残る。周縁も研磨されているが、刃部は作り出していない。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0666 MF65  整地面	(4.0) (5.5) 1.0 — (27)	綠色片岩	未製品 第2工程。端部破片。一平面にのみ研磨が施されており、刃部は両面に打ち欠きが残存し、背面も同様だが、そのエッジは丸く磨滅している。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0676 JB62  黑色砂質土層	(8.2) 4.8 0.7 — (33)	綠色片岩	未製品(A) 片刃。第2工程。背面と刃先に研磨あり。背面は平坦で、両平面との境に角を持つ。刃先の研磨は部分的で、体部に対して、急角度となっている。 ○ なし ○ なし		両面に鉄分付着。 	
	S-07-0702 IV68 溝 (SF 079) 暗褐色砂質土層	(6.7) (5.8) 1.0 — (48)	綠色片岩	未製品(D) 第2工程。両平面共に研磨される。背面の一部も研磨されている。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0703 JD65  褐色礫混土層	(9.5) 6.4 0.9 — (80)	綠色片岩	未製品(D) 片刃。第2工程初段階。両平面・背面にわずかに研磨が施される。が、両平面とも片理面が大きく残存。刃部はA面側に大きな2度の打ち欠きが見られる。 ○ なし ○ 背面全体にあり、背面の成形のための打ち欠きが残存。		鉄分付着 	
	S-07-0738 MF54  黑色土層	(12.3) 7.7 1.3 — (165)	黑色片岩	未製品(Dか) 片刃。第2工程。両平面、周縁に研磨を施しており、全周縁は丸みをもつ面を呈す。両面に打ち欠き面残存。 ○ なし ○ なし		鉄分付着 	

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0739  不明	(5.3) 7.8 0.6 — (31)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。一平面にのみわずかに研磨痕あり。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0743 IY66・67  床土下部	(8.6) 5.5 1.8 — (89)		緑色片岩	未製品 第2工程。平面形は楕円形態を呈す。両面とも周縁に打ち欠きが施され、その後両面に研磨が施されるが、剝離面が大きく残る。周縁も研磨によるものか磨滅によるものか不明だが丸くなっている。刃部・背部の区別は不明である。 ○ なし ○ なし	鉄分付着 	
	S-07-0780 JE66  整地層	(6.5) (4.0) (0.5) — (16)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0798 JI66  整地層	(4.9) 7.1 1.1 — (57)		緑色片岩 (点紋)	未製品(Dか) 片刃。第2工程。身幅は広く、背部は大きく彎曲し、刃部は浅い外彎刃を呈する。A面体部のみ研磨が施され刃面は打ち欠き面のままである。刃先も含めて、周縁には浅い打ち欠きがありエッジは丸くなる。B面も剝離面のままである。 ○ なし ○ なし	鉄分付着 	
	S-07-0806 JM62  整地層	(4.5) (6.3) 0.9 — (36)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。背面、一平面に研磨が施される。背部・刃部には研ぎ残しの打ち欠き面残存。 ○ なし ○ なし	鉄分付着 	
	S-07-0813 JQ58  整地層	(6.8) (7.3) 1.1 — (62)		緑色片岩	未製品(D) 第2工程。両平面とも大剝離面よりなり周縁には小さな打ち欠きを施して身幅の広い杏仁形態に成形。背部に厚みがあり、刃部へうすくなっていく。A面にのみ、わずかに研磨を施している。 ○ なし ○ 背面の打ち欠きによる小剝離面のエッジには、長軸に直交する方向の痕跡がみられ、背潰れ痕と思われる。		
	S-07-0822 JU62  整地層	(8.3) 6.1 1.1 — (72)		緑色片岩	未製品(D) 第1工程。 ○ なし ○ なし	火にかかって赤変し、周縁は風化磨滅する。 	
	S-07-0826 JU62  整地層	(9.3) 6.3 1.8 — (92)		緑色片岩	未製品(D) 片刃。第1工程。A面は自然面、B面は剝離面である。B面背部端部に1度の打ち欠きが施されるが、A面では2~3度の打ち欠きにより成形。そのエッジには更に小さな打撃を加え整形している。 ○ なし ○ 折れ面と刃先との角にわずかに背潰れ痕状の痕跡あり。		
	S-07-0831 JU66  整地層	(7.2) 4.7 1.4 — (60)		緑色片岩	未製品(Cか) 第2工程初段階。身幅の狭い楕円形態。両平面とも剝離面よりなり、刃部は両面に打ち欠きを施す。背面は研磨により丸くなり、体部は両面ともその一部に研磨が施されるが大部分は剝離面のままである。刃面はまだつぐられず。 ○ なし ○ なし	鉄分付着 	

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 縦孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備 考
						○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	
	S-07-0832 JU66  整地層	(5.0) (3.5) 0.8 — (22)	緑色片岩	未製品 第2工程初段階。破片。両面にわずかに研磨あり。 ○ なし ○ 一辺にあり。		鉄分付着	
	S-07-0833 JU66  整地層	(6.6) (6.1) 1.1 — (67)	緑色片岩	未製品 片刃。第2工程。両面・背面にあらい研磨が施される。刃面は研磨により片刃につくられる。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0840 MB54  黒褐色礫混土層	11.0 4.6 0.8 — 52	緑色片岩	未製品(D) 完形。第1工程。両面とも片理面よりなるうすい板材の周縁に打ち欠きを施したものの。全体として小型である。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0846 MI63 溝 (SF 075) 黒褐色土層	(10.4) 6.0 1.4 — (111)	緑色片岩	未製品(C) 第1工程。周縁のエッジに磨滅して丸くなった部分がある。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0852 JI54  整地層	(6.4) (4.3) 1.0 — (35)	緑色片岩	未製品(D) 片刃。第2工程。B面背部、A面刃部に打ち欠き面があり、刃先は両面に小剝離している。A面は剝離面よりなり、両面体部、刃面に研磨が施される。刃先も研磨により平坦面をなす。 ○ なし ○ 背部の平坦面に小剝離を伴う背潰れ状の痕跡あり。		B面に鉄分付着。	
	S-07-0855 KD54  整地層	(7.0) 5.7 1.4 — (73)	緑色片岩	未製品(CかD) 片刃。第2工程。周縁は細かな打ち欠きにより整形され、両平面に研磨が施されており、刃面がつくられている。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0880 MI57  腐植土層	(8.1) (1.9) (1.1) — (18)	緑色片岩	未製品 刃部破片。第2工程。A面にのみ研磨が施されている。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0884 MN62  黒色砂質土層	(6.4) (4.0) 0.9 — (26)	緑色片岩	未製品 第2工程。破片。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0890 MQ64 溝 (SF 074)	(5.7) (6.3) (0.6) — (31)	緑色片岩 (点紋)	未製品 第2工程。一方の面は片理面のままで、他方の面は、折れ以外の周縁に打ち欠きを施した後、研磨している。 ○ なし ○ なし			

( )は残存部分の法量である。

( )は縦孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0943 JM58  整地層	(4.7) (7.7) 1.4 — (70)	緑色片岩	未製品 第2工程。破片。一方の平面に部分的に研磨あり。 ○ なし ○ 周縁の一辺に背潰れ状痕跡あり。	全面に鉄分付着。		
	S-07-0961 JN66  整地層	(8.1) (5.3) 1.0 — (64)	緑色片岩 (点紋)	未製品 第1工程。破片。片理に沿って両面剝落した板材。 周縁の二辺のエッジが丸く磨滅している。 ○ なし ○ なし	片面に鉄分付着。		
	S-07-0962 JU62  整地層	(5.6) (4.5) 0.7 — (22)	緑色片岩	未製品 第2工程。破片。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0963 MB54  黒褐色礫混土層	(5.3) (3.5) 0.8 — (21)	緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ 周縁の一辺に背潰れ状の痕跡あり。	片面に鉄分付着。		
	S-07-0966 MI62 溝 (SF 077) 黒褐色土層	(9.5) 5.7 1.5 — (91)	緑色片岩	未製品(D) 略完形。第2工程。周縁に打ち欠きを施し成形。 A面にのみ研磨を施す。右端部には平坦な自然面残存。 ○ なし ○ 周縁の打ち欠き面のエッジに背潰れ状の痕跡あり。			
	S-07-0968 MI62 溝 (SF 077) 黒褐色土層	(12.4) (6.4) 0.7 — (66)	緑色片岩	未製品 略完形。第1工程。両面とも片理面よりなるうすい 板材である。右側の上端縁下端縁のエッジに小さな打撃が 加えられ成形している様である。 ○ なし ○ 右半分の上端・下端縁のエッジにわずかに背潰れ状痕跡 あり。	鉄分付着 		
	S-07-0970 LX51  黒褐色礫混土層	(9.3) (6.1) 1.4 — (80)	緑色片岩	未製品 第2工程。破片。一方の平面の中央には片理面がみ られ、他方の平面は、大きく剝離しており、端部に研磨が、 僅かに施される。周縁の一部分にも、研磨面がある。 ○ なし ○ 周縁全体に背潰れ状の痕跡がある。			
	S-07-0971 MF62 溝 (SF 075) 黒褐色礫混土層	(10.0) (4.5) (0.8) — (34)	緑色片岩	未製品(D) 第1工程。破片。両平面共に剝離面が残る。上 端縁に厚く、下端縁は剝片の末端にあたりうすくなる。打 ち欠きはほとんど施されていない。 ○ なし ○ なし			
	S-07-0978 KP58  茶褐色土層	(7.5) 5.7 0.8 — (49)	緑色片岩	未製品(D) 片刃。第2工程。両平面・背面に研磨が施され ている。しかし、それはあらく、研磨の及ばない片理面が 所々に残存。体部は両面とも平行し、刃部は稜をなさず。 ○ なし ○ なし			

( )は残存部分の法量である。

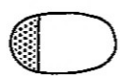
( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0988 MF56 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(12.0) (2.9) 0.9 — (44)		黒色片岩 (点紋)	未製品 第1工程。両面とも片理面よりなる板材に打ち欠きを施した成形途上で、長軸方向に破損後その面に打ち欠きを施す。 ○ なし ○ 背面全体に背潰れ状痕跡があり、背面は丸くなる。又下端の打ち欠き面のエッジにもあり。		
	S-07-0997 MB52 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(5.5) 7.1 0.6 — (30)		緑色片岩	未製品(C) 第2工程初段階。片理面より剥落してうすくなる。一面のみわずかに研磨される。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1004 KL54 黒褐色土層	(7.8) (5.6) 1.1 2.6(敲) (75)		緑色片岩	未製品(D) 片刃。第3工程。周縁は打ち欠きにより成形後、両平面・背面に研磨を施す。刃部は稜をもたない。端部欠損。背部に打ち欠き面、両平面には剥離面が残存。厚さは均一ではない。紐孔は背寄りに両面から敲打により凹みをつくる。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1012 JM66 褐色土層	(11.3) (2.5) 0.9 — (31)		緑色片岩	未製品 片刃。第2工程初段階。刃部は外彎刃を呈す。両平面とも1つの片理面よりなりわずかに研磨が施される。A面刃部にわずかに打ち欠きが残存。 ○ なし ○ なし	鉄分付着	
	S-07-1020 JM66 褐色土層	(5.8) 7.1 1.1 — (66)		緑色片岩	未製品 第2工程。打ち欠き整形後に、片面に若干 研磨を施している。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1032 ML60 溝 (SF 074) 腐混青褐色砂層	(3.0) (5.1) 1.0 — (18)		緑色片岩	未製品(Dか) 第1工程。 ○ なし ○ なし	火をうけて赤変し、全体に風化が著しい。	
	S-07-1037 MZ	(4.4) (3.9) 0.6 — (12)		緑色片岩	未製品 第1工程。端部破片。周縁から一面にのみに打ち欠きを施している。 ○ なし ○ 周囲のエッジに背潰れ状の痕跡あり。		
	S-07-1040 不明	(5.5) (3.4) 0.9 — (23)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。刃先が平坦に研磨されている。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1044 不明	(6.8) (4.2) 0.8 — (29)		緑色片岩	未製品 第2工程。背部破片。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

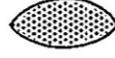
( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1056 MZ  表採	(5.2) (4.5) 0.6 — (16)		緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1063 JY58  茶褐色土層	(8.6) (5.7) 1.2 — (62)		緑色片岩	未製品 第3工程。紐孔を含む体部均残存。両面とも殆ど片理面が残存するが、一部に研磨面あり、厚さは不均一である。背面も一部研磨されている。一面に穿孔痕あり。 ○ なし ○ 端部背面、下端打ち欠き面のエッジにあり。	石材の片理に直交して刃部をつくっている。	
	S-07-1082 JI54 溝 (SF 079) 上層	(5.3) (5.2) 0.7 — (24)		緑色片岩	未製品(CかD) 第1工程。 ○ なし ○ なし	鉄分付着 	
	S-07-1083 JI54 溝 (SF 079) 上層	(4.5) (4.9) 0.7 — (20)		緑色片岩	未製品 第1工程。破片。一平面は自然面よりなる。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1087 JI54  茶褐色土層	(5.2) (7.0) 0.7 — (38)		緑色片岩	未製品 第2工程。片面の周縁近くに研磨が施されている。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1088 JI54  茶褐色土層	(10.2) (5.3) 0.9 — (65)		緑色片岩	未製品(Dの変形) 完形。第1工程。両平面とも片理面よりなり、周縁に打ち欠きを施して成形。右端部には平坦な自然面残存。 ○ なし ○ 自然面を除く周縁のエッジに背潰れ痕状痕跡あり。	鉄分付着 	
	S-07-1092 JE62  茶褐色土層	(7.5) (5.8) 0.9 — (49)		緑色片岩	未製品(D) 片刃。第2工程。両平面とも剝離面よりなり、周縁より打ち欠きによる成形後、A面、背面にのみ研磨を施す。研磨により刃面を研ぎ出している。 ○ なし ○ 刃部先端に小剝離を伴う背潰れ状の痕跡あり。	鉄分付着 	
	S-07-1096 JE54 溝 (SF 080) 上層	(8.3) 6.0 1.1 — (82)		黒色片岩	未製品か(C) 第2工程初段階か。両面とも自然面よりなり、周縁には、背潰れ状の長軸に直交する磨滅痕と、わずかな研磨痕があり、刃部端部寄りには打ち欠きがある。 ○ なし ○ 欠損部を除く周縁に背潰れ状の痕跡あり。		

( )は残存部分の法量である。


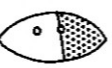
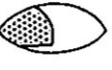
( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-1100 JM62・66  褐色土層	(9.5) 6.2 0.6 2.4 (54)	緑色片岩	未製品(D) 片刃。第3工程。身幅の広い杏仁形態。厚さはうすく、両面ともほぼ片理面のままで研磨痕はわずかである。背部・刃部は研磨により成形される。中央部背寄りに紐孔は両面から穿孔されており左孔のみ貫通しているが、完成はしていない。右孔左側に未貫通の穿孔痕が両面にみられる。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1116 JI66  褐色土層	(7.9) 6.4 1.0 — (77)	緑色片岩	未製品(D) 片刃か。第2工程のもの。背部にのみ研磨が施されており、背面は平坦になる。両面共に片理面よりなる。下端部は折れのままで、刃先より一方の面に打ち欠きあり、しかし刃部はまだ作られず。 ○ なし ○ なし	A面に鉄分付着。 		
	S-07-1119 JQ66  褐色土層	(7.1) (4.5) 0.9 — (30)	緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1122 JQ66  褐色土層	(9.0) 5.7 0.8 — (71)	緑色片岩	未製品(D) 片刃。第2工程。両平面・背面に研磨が施され、背部にわずかに剝離面残存。A面体部は風化により研磨の方向は不明だが刃面には左上-右下方向、B面体部では右上-左下方向、刃部では左右方向の研磨が施される。折れ面もわずかながら研磨されている。 ○ なし ○ 左肩部の背面に小剝離を伴う背潰れ状の痕跡あり。刃先にもわずかにあり。			
	S-07-1126 JQ66  褐色土層	(5.5) (4.8) 0.5 — (17)	緑色片岩	未製品(D) 第3工程。薄手である。両平面・背面に研磨が施されるが、研磨面下に剝離面残存。刃先は平坦な面をなす。紐孔は背寄りの一面側に穿孔痕がみられる。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1130 JQ66  褐色土層	(7.6) (6.4) 0.7 — (45)	緑色片岩	未製品 第1工程。破片。一方の面は自然面、他方は片理面よりなるうすい板材使用。 ○ なし ○ 上端縁に背潰れ状の痕跡あり。			
	S-07-1144 JY64  黒色土層	(4.6) 5.1 0.7 — (27)	緑色片岩	未製品か 両刃。第3工程か。紐孔を含む体部中央破片。両面に未貫通の穿孔痕あり。一平面剝離欠損後再研磨しているものか。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1168 KD54  黒色砂質土層	(11.9) (5.6) 1.2 — (117)	緑色片岩	未製品 第2工程。両平面は片理に沿った大剝離面よりなり、周縁より打ち欠きによる成形後、両平面の凸部にわずかに研磨が施されている。背部に厚みがあり、刃部へ下るにつれてうすくなる。 ○ なし ○ なし			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

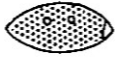
石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1173 KL54・58 東西溝4	(13.6) 5.9 1.2 — (145)	緑色片岩	未製品 背面はほぼまっすぐにのび一方の端部は円くつくられ他方は折れている。下端は打ち欠きによりうすくなる。両面とも中央部に敲打による凹みが2ヶ所あり対応している。両平面とも研磨は施されておらず石材の自然面のままである。 ○ なし ○ 背面、下端縁にあり。	鉄分付着 		
	S-07-1180 JY54 茶褐色土層	(4.5) (4.8) 0.8 — (23)	緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ 一辺に背潰れ痕あり。			
	S-07-1187 MH50 溝 (SF 513) 砂礫混黒色土層	(10.8) 7.4 1.6 — (112)	緑色片岩	未製品(Cか) 第1工程。片理面より剥落している。成形後周縁に細かな打ち欠きにより整形。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1196 KB62 黒褐色土層	(3.6) (3.9) 0.7 — (31)	緑色片岩	未製品 第1工程。破片。自然面が一部に残存する。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1207 不明	(8.1) 6.2 0.8 — (61)	緑色片岩	未製品(D) 片刃。第3工程。両面に研磨を施している。刃部は片辺につくられるが刃部は稜をなまず、刃先は丸く、研ぎだされていない。背面は平らな面であり両平面との境は角をなす。紐孔は両面に敲打を施して凹面をつくる。その敲打面にも研磨が施された様ななめらかな凹面を呈す。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1219 JW64 黒褐色土層	(8.9) 6.2 0.8 — (66)	緑色片岩	未製品(BかC) 第2工程。両平面とも剝離面よりなり背面・両平面に研磨が施される。両平面とも右上-左下方向の研磨、背面は長軸方向の研磨である。刃先も平坦な研磨面よりなり、刃部はつくられてない。A面背部・刃部側辺、B面側辺に研ぎ残しの打ち欠き面残存。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1222 JW62 黒褐色土層	(6.1) (4.3) 0.8 — (24)	緑色片岩	未製品 第2工程。破片。一面にのみ研磨あり。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1223 JU62 黒褐色土層	(6.4) (4.2) 0.9 — (30)	緑色片岩	未製品(Aか) 第1工程。破片。 ○ なし ○ 背面全体に背潰れ状痕跡あり。			
	S-07-1225 JU62 黒褐色土層	(6.5) (5.1) (1.0) — (33)	緑色片岩	未製品 第2工程。一方の面は自然面をそのまま残すが、他方の面は研磨されている。周縁には小さな打ち欠きが、施されている。 ○ なし ○ 周縁エッジに背潰れ状の痕跡あり。			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

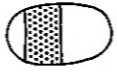
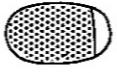
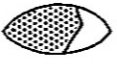
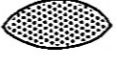




図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-1226 JU64  黒褐色土層	(8.0) (4.7) 1.0 — (47)		石英安山岩 (無斑品)	未製品 第2工程のもの。平面形は長方形態か身幅の狭い楕円形態を呈すものか。周縁より、両平面に打ち欠きを施した後両平面に研磨を施したものの。中央で折れ欠損。上下両端縁のエッジは磨滅して丸くなる。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1232 MR50 溝 (SF 084) 灰褐色砂礫層	(9.7) 5.1 0.9 2.0 (61)		緑色片岩	未製品(D) 両刃か。第3工程。背面は中央に最大幅をもって彎曲し、刃部は浅い外彎刃を呈する。両平面・背面に研磨が施されているが周縁の打ち欠き面残存。一方の面背寄りに糸貫通の穿孔痕あり。その面に研磨の及ばない深い片理の接合面残存。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1234 JU64 溝 (SF 081) 第1層・黒色土層	(9.4) 6.1 0.8 — (69)		緑色片岩	未製品 第2工程。平面形は身幅の広い長方形態を呈す。両平面とも1つの片理面よりなり、側辺より大きく剝離後周縁に小さな打ち欠きを施す。背面の一部、一平面の刃部にわずかに研磨が施される。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1239 JW64 溝 (SF 081) 第1層・黒色土層	(5.3) (5.8) 0.9 — (31)		緑色片岩	未製品(CかD) 第2工程。片面の中央に研磨面あり。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1248 JR65  黒褐色土層	(6.3) (5.0) 0.7 — (22)		緑色片岩	未製品(D) 第2工程。破片。 ○ なし ○ 上端縁に背潰れ痕あり。		
	S-07-1253 MN55 土器堆積 (SL321) 黒色土層	(4.8) 6.1 (0.6) — (23)		緑色片岩	未製品 第2工程。上下両端縁研磨により平坦面を呈す。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1258 MB54 溝 (SF 074) 黒褐色砂礫層	(7.4) 5.7 1.3 — (68)		緑色片岩 (点紋)	未製品(D) 第1工程。周縁には打ち欠きが施されており、両面とも中央部は片理面である。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1265 MB54 溝 (SF 074) 黒褐色砂礫層	(7.9) (5.7) 0.9 — (56)		緑色片岩	未製品 第2工程。背面は平坦に研磨され、平面との境に角を持つ。刃先は、打ち欠きによるエッジであるが、一部分、幅1mm程に研磨される。端部はエッジがそのまま残る。両平面共に研磨されており、一方の平面は上下方向と右上-左下方向に研磨痕が残る。周縁に打ち欠き面が残存する。他方の平面は、端部周縁に打ち欠き面と、中央に剝離面が残る。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

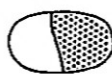
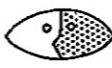


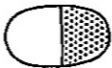

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 (遺構番号)位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-1269 ME53 溝 (SF 078) 黒色砂礫土層	(8.1) (3.7) 0.6 — (25)		緑色片岩	未製品 第2工程。刃部破片。両面に研磨の及ばない片理面残存。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1272 LG58  黒褐色土層	(3.0) (4.1) 0.9 — (18)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。両面に研磨面が残る。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1295 JU66  黒褐色土層	(6.1) (6.8) 1.2 — (58)		緑色片岩	未製品 第1工程。 ○ なし ○ 上・下の打ち欠き面のエッジに背潰れ状の痕跡がある。		
	S-07-1296 LO58  黒褐色土層	(11.5) (6.7) 0.9 — (94)		緑色片岩	未製品(D) 第1工程。 ○ なし ○ 下端縁にわずかに背潰れ痕あり。		
	S-07-1298 LO58  黒褐色土層	(10.2) 6.2 0.8 — (73)		緑色片岩	未製品(C) 片刃。第2工程。身幅の広い楕円形態を呈す。長軸においてA面側へ彎曲。両平面、周縁に研磨を施して整形。A面には研磨の及ばない剝離面残存。A面・B面とも右上-左下方向の研磨が主であり、背面は長軸方向の研磨が施される。両面と背面の境は角をなす。刃部稜は不明瞭であり、刃先には平坦な研磨面残存する。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1303 LO58  黒褐色土層	(13.0) (5.1) 1.3 — (109)		緑色片岩	未製品(Dの変形) 第2工程初段階。A面は片理面、B面は剝離面よりなり、周縁よりA面側へ打ち欠きを施して成形。両面体部にわずかに研磨が施される。 ○ なし ○ 背部・刃部の打ち欠き面のエッジにあり。特に中央で著しい。		
	S-07-1305  不明	(6.1) 8.7 1.0 — (61)		緑色片岩	未製品 第1工程。中央部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1309  不明	(8.8) 6.8 0.8 — (59)		緑色片岩	未製品(D) 両刃気味片刃。第3工程。刃面もつくられるが稜はなまず。両平面とも研磨は施されるが大部分は片理面のままで、背面は打ち欠き整形のままである。紐孔は両面の背面寄りに研磨以前に敲打後穿孔されている。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1312 JS64 溝 (SF 081) 黒褐色土層	(10.0) (6.1) (1.0) — (48)		緑色片岩	未製品(D) 第1工程。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1315 LS62 黒褐色土層	(6.9) 6.4 1.0 — (49)		緑色片岩	未製品(D) 片刃。第3工程。両面・背面に研磨を施している。背部には周縁からの打ち欠きが残存。B面は平坦面を呈し、A面体部も平坦だが刃面は稜をなさない。紐孔は中央背よりに敲打による凹面あり。A面体部では中央は上下方向、端部は右上-左下方向、刃面も同。B面では上半部は右上-左下方向、下半部では、左下-右下方向の研磨。背面は長軸に直交方向の研磨が施される。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1318 JC64 黒褐色土層	11.0 (4.9) 1.1 — (67)		緑色片岩	未製品 完形。第1工程。原材より、打ち欠いた剝片で、一方の面は自然面である。上・下周縁の一方は、打ち欠きを施して、厚くなっており、他方に向ってうすくなる。 ○ なし ○ 周縁全体に背潰れ状の痕跡あり。		
	S-07-1369 MJ58 溝 (SF 074) 褐色砂層	12.6 8.3 1.2 — 151		緑色片岩	未製品(CかD) 完形。第1工程。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1371 KI66 第3層・黒色砂質土層	(5.4) (6.8) 1.0 — (49)		緑色片岩	未製品(B) 第1工程。一辺に細かな打ち欠き整形が施されている。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1372 LF67 第2層	(8.9) (7.8) 1.4 — (90)		緑色片岩	未製品(CかD) 第1工程。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1374 KJ66 第3層・黒色砂質土層	(9.1) (5.7) 1.0 — (53)		緑色片岩	未製品(D) 第1工程。背面には片理に直交して打ち割った平坦な面あり。周縁に整形の細かな打ち欠きを施している。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1375 KJ66 第3層・黒色砂質土層	(6.0) (4.2) 0.8 — (28)		緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ 一辺に背潰れ状の痕跡あり。		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重 量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-1379 KI66  第3層・黒色砂質土層	(5.2) (3.3) 0.6 — (14)		緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ 一辺に背潰れ状の痕跡あり。		
	S-07-1382 ME61 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(7.1) (6.6) 0.9 — (40)		緑色片岩	未製品(D) 第1工程。上端縁に厚く、下辺に向ってうすくなっている。 ○ なし ○ 両辺に背潰れ状の痕跡あり。		
	S-07-1388 MJ57  黒色土層	(9.6) 8.0 1.1 — (101)		緑色片岩	未製品 第1工程。両平面とも片理面からなる板材で片面に打ち欠き成形を施し、周縁から打ち欠き整形を施している。 ○ なし ○ 端部・背面に背潰れ状の痕跡あり。折れ破損部にも著しい。		
	S-07-1389 NZ  表採	(5.1) 7.1 0.7 — (29)		緑色片岩	未製品(D) 第1工程。破片。 ○ なし ○ 背面に背潰れ痕あり。		
	S-07-1390 MH56  黒色土層	(6.8) (5.2) 1.0 — (47)		黒色片岩	未製品(D) 両刃気味片刃。第2工程。両平面・背面に研磨が施される。背面は打ち欠き面が大きく残り、刃先にも剝離がみられる。刃部は稜をなさず。 ○ なし ○ 背面の打ち欠き面のエッジに部分的に背潰れ状の痕跡がみられる。		鉄分付着
	S-07-1391 KX58  第3層	(8.0) (7.3) 1.3 — (95)		緑色片岩	未製品(D) 片刃か。第1工程。打ち欠き成形後エッジに丁寧に細かな打撃を施し整形している。一面側へ刃先より打ち欠き片刃につくろうとしている。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1393 MI57  黒色砂質土層	(7.1) (5.4) 0.7 — (38)		緑色片岩	未製品(D) 片刃。第2工程。両平面とも剝離面よりなり、両面・背面・刃面に研磨を施すが、両平面、刃部、B面背部に打ち欠き面残存。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1397 MI57  黒色砂質土層	(4.1) (5.8) 0.9 — (28)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。両平面共に片理面よりなる板材で、一方の面が研磨されている。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1399 KI65  第3層・黒色砂質土層	13.6 5.8 1.2 — 100		緑色岩類	未製品(D) 完形。第1工程。片面は、片理面からなる平坦な面で、他方の面は、横軸中央に稜を持つ2面よりなる。一方は自然面よりなる。一方の端部は先端で鋭く、他方は側辺をつくる。周縁よりの大きな打ち欠きはみられず。細かな打ち欠きが施されており、エッジは鋭い。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
	S-07-1402 MK59 第9号土器堆積 (SL 308) 黒色土層	(8.5) (5.8) 1.3 — (96)		緑色片岩 (点紋)	未製品(CかD) 第1工程。両面とも片理面よりなり、周縁には打ち欠きが施される。エッジは丸くなっている。 ○ なし ○ 上端縁は背潰れ痕で丸くなる。		
	S-07-1403 KP62 第2層	(4.8) (6.0) 1.1 — (35)		緑色片岩	未製品(D) 端部破片。第2工程の初段階。周縁より打ち欠きを施した後、両平面・背面に研磨を加える。打ち欠き面残存。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1405 KX66 第2層	(9.2) (5.5) 0.8 — (43)		緑色片岩	未製品 第1工程。破片。一方の面は自然面で他方の面は片理面の板材。下端縁より自然面なる面に剝離したもの。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1428 JE58 整地層	(5.1) (5.7) 0.8 — (36)		緑色片岩	未製品 両刃気味片刃。第2工程。刃部破片。研磨により刃部もつくられるが刃先にわずかに打ち欠きが残存する。 ○ なし ○ なし	鉄分付着	
	S-07-1431 JU58 黒色土層	(6.2) (8.5) 1.3 — (80)		緑色片岩	未製品 第2工程。周縁より打ち欠きを施して粗く成形後、両面に研磨を施している。側辺の打ち欠き面にもわずかな研磨あり。 ○ なし ○ 背部・刃部の打ち欠き面のエッジにも、わずかな背潰れ痕状の痕跡あり。		
	S-07-1433 JM66 褐色土層	(9.1) (5.7) 0.6 — (40)		緑色片岩	未製品(Aか) 第2工程。両平面共に平坦な一面の片理面よりなり、一方の面にあらく右上-左下方向に研磨されている。背部と刃部は、それぞれ折れ面よりなる。打ち欠きは施されていない。 ○ なし ○ 背部、刃部共に折れ面のエッジに、背潰れ状の痕跡あり。		
	S-07-1434 JM66 褐色土層	(6.0) (6.5) 1.1 — (59)		緑色片岩	未製品(D) 第1工程。両面とも片理面よりなり、周縁には打ち欠きが施される。 ○ なし ○ 上・下端縁に、背潰れ状の痕跡あり。		
	S-07-1436 JQ66 褐色土層	(6.3) 8.1 1.3 — (99)		緑色片岩	未製品 第2工程初段階。両面とも片理面よりなり上端縁、下端縁に施された打ち欠き面が残存。上端縁の打ち欠き面にはわずかに研磨が施される。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1437 JQ66 褐色土層	(7.5) 6.6 (0.6) — (35)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。一面は片理面より剝離欠損。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備 考
	S-07-1439 ML54 土器堆積 (SL 321)	(11.6) 7.6 1.1 — (122)	緑色片岩	未製品(Cか) 第1工程。両面とも片理面よりなる板材のまわりに小さな打ち欠きを施したものの。下端縁に平坦な自然面残存。 ○ なし ○ なし	鉄分付着 		
	S-07-1441 ML54 溝 (SF 078) 黒褐色砂質土層	12.5 6.8 1.9 — 151	緑色片岩	未製品(D) 完形。第1工程。周縁は打ち欠き成形後そのエッジに細かな打ち欠きにより整形している。 ○ なし ○ なし	鉄分付着 		
	S-07-1442 MZ  表採	(7.8) 7.2 1.2 — (79)	緑色片岩	未製品 第2工程の初段階。端部破片。両面・背部に研磨が施されるのみ。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1444 MF56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(11.0) 6.6 0.9 — (91)	緑色片岩	未製品(Dか) 第1工程。両面とも片理面よりなるうすい板材を使用。 ○ なし ○ 上端縁全体、下端縁の突出部先端に背潰れ状の痕跡あり、丸くなる。			
	S-07-1445 LK58 溝 (SF 430) 黒褐色土層	(9.1) 6.5 1.0 — (98)	緑色片岩	未製品(D) 片刃か。第2工程初段階。両平面・背面に研磨がわずかに施されるが、大部分は剝離面のままである。背面は周縁に小剝離あり、刃部は打ち欠き面のエッジに背面同様の小剝離がある。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1446 IX68 溝 (SF 079) 灰黒色粘土層	(10.1) (7.0) 0.9 — (75)	緑色片岩	未製品(D) 片刃か。第1工程。両面とも片理面よりなるうすい板材を使用。下端縁は一方の平面にのみ打ち欠いている。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1447 IS64 溝・第3溝 (SF 080) 第2層・炭混砂礫土層	(8.8) 7.0 1.0 — (76)	緑色片岩	未製品(D) 第2工程。周縁より両面へ打ち欠きを施した後、A面に研磨したもの。右上-左下方向の研磨である。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1455  不明	(7.1) (4.8) 0.9 — (50)	緑色片岩	未製品(Dか) 第2工程。両面共に研磨されているが、剝離面が残る。 ○ なし ○ 上・下周縁のエッジに背潰れ状の痕跡あり。			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。




図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備考
						○使用痕跡 ○背潰れ痕	
	S-07-1457 MB55 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(11.9) 7.0 1.6 — (192)	緑色片岩	未製品(D) 片刃。第2工程。周縁に打ち欠きを施して成形後、A面体部、刃面、B面刃部に研磨が施される。両平面は剝離面あり、周縁には研ぎ残しの打ち欠き面残存。背面は研磨が施されず、剝離成形のままであるが、磨滅がみられ、また、背潰れにより丸くなる。刃先は小剝離が両面にみられ、エッジは磨滅している。 ○ なし ○ 肩部にあり。			
	S-07-1458 MH57 溝 (SF 074) 褐色砂層	(8.2) 9.1 1.3 — (94)	緑色片岩	未製品(CかD) 第2工程初段階。両面体部中央の厚い所にのみわずかに研磨が施される。周縁のエッジは整形されている。 ○ なし ○ 下端縁打ち欠き面のエッジにわずかにあり。			
	S-07-1459 MQ63 溝 (SF 074)	(6.9) 6.5 1.2 — (75)	緑色片岩	未製品(CかD) 第1工程。下端縁に平坦な自然面残存。打ち欠き成形後、そのエッジに細かな打ち欠きにより整形。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1460 MG61 溝 (SF 075) 黒色土層	(9.9) (5.2) 0.8 — (49)	緑色片岩	未製品(CかD) 第1工程。背面は打ち欠きにより、半円形に凹む。 ○ なし ○ 背面と刃先に背潰れ痕が著しい。			
	S-07-1471 MG56 溝 (SF 074) 黒色土層	(11.8) (4.9) 0.7 — (70)	緑色片岩	未製品(Dの変形) 完形。第2工程初段階。両平面とも片理面よりなり、両平面・背面にわずかに研磨を施している。左端部は杏仁形態を呈すが、右端部はまっすぐ下る。 ○ なし ○ 背面・下端縁に著しい。背面は元来浅く彎曲するが、中央部は背潰れ痕が著しく、凹面を呈す。下端縁にも著しく、外彎刃を呈するものが直線的になる。			
	S-07-1472 MG54 溝 (SF 074) 黒色土層	(6.0) (4.9) 1.0 — (31)	緑色片岩	未製品 第2工程。破片。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1473 JY58 茶褐色土層	(8.9) 5.1 1.0 — (64)	緑色片岩	未製品(D) 片刃。第2工程。両平面・背面に研磨を施す。背部には打ち欠き面残存。刃部は両面への打ち欠き面のままである。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1477 KB58 黒褐色土層	(7.0) (5.0) 1.0 — (47)	緑色片岩	未製品 第3工程。一方の平面に研磨が施されており、その面に未貫通穿孔痕がある。 ○ なし ○ なし	火を受けて変色する。一方の面に鉄分付着。		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-1512 LY58  茶色礫混砂質土層	11.1 5.1 1.8 — 110		アブライト	未製品(Dか) 完形。第1工程。周縁の三辺は平坦な自然面よりなる。三辺より打ち欠きも施されているが、残る一辺から、集中的に打ち欠き成形が施されている。全体に特に厚味がある。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1515 MR58  黒褐色礫混合土層	(7.8) 5.8 1.3 — (79)		緑色片岩	未製品か 一方の平面は自然面であり、他方は剥離面よりなる。周縁は打ち欠き状の剥離面よりなるが一部に平坦な自然面を残し、石材とも思われる。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1516 MR58  黒褐色礫混合土層	(3.4) (2.5) 0.8 — (7)		緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1520 LE65  第2層	(8.9) 7.5 1.1 — (83)		緑色片岩	未製品(C) 第2工程。一平面のみ研磨。背面にわずかにあり。周縁は細かな打撃により整形されている。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1521 ME60 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(12.0) (6.7) 1.2 — (118)		緑色片岩	未製品 第2工程。両平面共に片理面からなる板材で、周縁は折れ面で、打ち欠きは、ほとんど残存しない。両平面共にあらく研磨されており、片理面が大きく残る。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1523 MS63 第9号土器堆積 (SL 308)	(6.9) (4.9) 0.8 — (34)		緑色片岩	未製品 片刃。第1工程。左に広く、右に向って狭くなる形態。 ○ なし ○ 左側辺に、背潰れ状の痕跡あり。		
	S-07-1535 MK63 溝 (SF 077) 褐色土層	(7.8) 5.6 1.0 — (45)		緑色片岩	未製品(D) 第2工程。両平面・背面に研磨を施したものの、背面・刃部に磨き残しの打ち欠き面あり。 ○ なし ○ 刃部左側～端部にあり、その先端は丸くなる。		
	S-07-1536 NC60  整地面	(11.8) (4.6) 1.1 — (73)		緑色片岩	未製品(D) 第1工程。周縁に一方の平面側のみ打ち欠きがみられる。 ○ なし ○ 周縁の打ち欠き面のエッジに背潰れ状の痕跡がみられる。		
	S-07-1539 MM64 溝 (SF 077) 黒色粘質土層	(7.3) 8.0 0.8 — (48)		緑色片岩	未製品(CかD) 第1工程。周縁の一部に自然面が残存する。一方の面にだけ、周縁より大きく打ち欠きが施されている。 ○ なし ○ 周縁の一辺に背潰れ状痕跡あり。		

( )は残存部分の法量である。

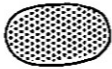
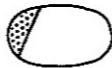


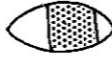
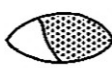
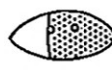
( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1647 LZ  Pit33	(11.3) 7.5 1.4 — (148)	緑色片岩	未製品(CかD) 第1工程。大きく打ち欠き成形後に細かな打ち欠き整形が施される。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1652 JA56 第9号周溝墓 (SH 128) 黒褐色土層	14.5 7.5 1.6 — 161	緑色片岩	未製品(CかD) 第1工程。周縁に一度の打ち欠きを施してあらく成形している。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1654 MX47  褐色砂礫層	(5.8) (3.8) (0.5) — (12)	緑色片岩	未製品 第2工程。破片。一面は片理面より剥落。一方の面にはやや右上がり方向の丁寧な研磨が施され、背面は平坦面を呈し、平面との境は角をもつ。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1664 IB62  礫混黒褐色土層	(7.1) 6.2 0.7 — (40)	緑色片岩	未製品(CかD) 第2工程初段階。A面はいくつかの剝離面、B面は1つの剝離面よりなり、刃部は打ち欠き後周縁全体に細かな打ち欠きを施して成形。背面、A面にはわずかに研磨を施している。 ○ なし ○ なし		鉄分付着	
	S-07-1665 IB62  礫混黒褐色土層	(10.5) 5.4 1.0 — (84)	緑色片岩	未製品(Eか) 完形。第2工程。背面は円く彎曲し、左端部は垂直に下り、刃部は直刃を呈し、身幅の広い鎌形である。両面とも周縁より打ち欠きにより成形し、両平面・背面に研磨を施す。 ○ なし ○ 刃先のエッジにわずかだが、背潰れ痕状の痕跡あり。			
	S-07-1668 LO58 第8号井戸 (SG 111) 木枠外	(6.8) (5.6) 1.0 — (57)	緑色片岩	未製品(CかD) 第2工程。両平面共に片理面よりなる板材で、周縁より打ち欠きが施される。片面に研磨が施されるが、片理面が大きく残存する。 ○ なし ○ 上・下周縁の打ち欠き面のエッジに背潰れ状の痕跡あり。			
	S-07-1670 HO60 土壌 (SJ 157)	(12.9) 6.6 1.3 — (125)	緑色片岩	未製品(D) 第1工程。一方の面に打ち欠き成形を施し、周縁に打ち欠き整形を施す。 ○ なし ○ なし		片面に鉄分付着。	
	S-07-1675 IN58  礫混黒褐色土層	(6.6) 4.6 0.6 — (24)	緑色片岩	未製品(D) 片刃。第2工程。穿孔前の略完成品。全面に研磨を施して成形。A面体部は右上-左下方向、刃面は刃先に沿った方向、B面体部は左右方向、刃部は右上-左下方向の研磨である。刃部は稜をなさない。 ○ なし ○ なし		鉄分付着	
	S-07-1679 IV60 溝 (SF 080) 灰黒色砂質土層	(7.3) (5.7) 0.9 — (45)	緑色片岩	未製品 第1工程破片。 ○ なし ○ なし			

( )は残存部分の法量である。



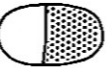

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (cm) (g)	長 さ 幅 厚 紐孔距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-1683 HK54  整地層・茶褐色土層	14.0 6.7 1.2 — 124		緑色片岩	未製品(CかD) 完形。第1工程。打ち欠き成形により、周縁はうすくなっている。全体に火をうけており、そのためか、周縁エッジは、丸く磨滅している。 ○ なし ○ なし		全体に火を受けて、赤く変色し、全体に風化する。
	S-07-1684 HK54  整地層・茶褐色土層	14.6 6.1 1.1 — 110		緑色片岩	未製品(D) 完形。第1工程。打ち欠き成形後、周縁より細かな打ち欠き整形を施したものの。 ○ なし ○ なし		火を受けて変色する。 
	S-07-1686 IU62 溝 (SF 080)	(6.6) (4.0) 0.7 — (23)		緑色片岩	未製品(Dか) 第1工程。破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1715  表探	(6.9) (3.8) 0.8 — (32)		緑色片岩	未製品 第1工程。周縁のエッジが丸く磨滅。 ○ なし ○ 背部側にあり。		
	S-07-1736 LY56 溝 (SF 077) 腐混黒色粘土層	(6.1) (5.6) 0.8 — (32)		緑色片岩	未製品(D) 第1工程。端部破片。両平面共に片理面よりなる板材で、打ち欠き整形を周縁に施す。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1763 MZ	(7.2) (5.7) 0.8 — (40)		緑色片岩	未製品 片刃。第2工程。刃面も研磨によりつくられるが背面、刃先とも平らになっている。背部の打ち欠きが大きく残存。 ○ なし ○ 上端・下端縁にあり、凹みをなす。		
	S-07-1770 GT58  表土	(10.1) 6.0 1.0 — (91)		緑色片岩	未製品(D) 第2工程。全面研磨して杏仁形態につくるが刃部はつくられておらず、刃先は平坦な面である。背面は丸い面であるが刃部と背部は逆になる可能性あり。 ○ なし ○ なし		鉄分付着 
	S-07-1786 GZ  表探	(9.0) 5.0 0.8 2.9(敲) (53)		緑色片岩 (点紋)	未製品(D) 片刃。第3工程。背面は弓状に大きく彎曲し、刃部は浅く外彎する。両平面・背面に研磨が施され、紐孔部は両面に敲打により双孔とも凹面を呈す。A面体部刃部では右上-左下方向、B面では傾斜の急な右上-左下方向の研磨が施される。刃部は稜をなさない。 ○ なし ○ なし		鉄分付着 

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1800 ML60  黒褐色砂礫混合土層	(6.1) (4.4) 0.7 — (21)	紅色片岩 (紅縑片岩)	未製品 第2工程。背面を研磨して、作り出しており、両面との境界は鈍い角をもつ。端部の周縁に背と直交する方向に平坦な自然面あり。打ち欠きは施されていない。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1801 MJ58 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(4.8) (3.9) 0.6 — (17)	緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1803 MH62  礫混黒褐色土層	(11.0) 5.6 1.2 — (97)	緑色片岩	未製品(Dの変形) 完形。第1工程。両面とも片理面よりなる板材の周縁に打ち欠きを施して成形。左端は平坦な自然面である。 ○ なし ○ 打ち欠き面のエッジは背潰れ痕状の痕跡で丸くなる。			
	S-07-1804 MJ57 溝 (SF 074) 褐色砂層	(5.8) (3.0) 1.0 — (16)	緑色片岩	未製品(CかD) 第1工程。破片。 ○ なし ○ 背面に背潰れ痕がわずかにあり。			
	S-07-1805 MI64 溝 (SF 075) 黒色土層	(12.4) (8.5) 1.7 — (230)	緑色片岩	未製品 第1工程。大きな板材の周縁に打ち欠きを施したものの。上端面のエッジは磨滅している。 ○ なし ○ なし	鉄分付着 		
	S-07-1806 NZ  表採	(8.8) (5.8) 1.0 — (56)	緑色片岩	未製品(B) 第1工程。両面共に片理面の板材状で、周縁に小さな打ち欠きを施す。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1807 MH64  黒褐色礫混合土層	(9.6) (4.8) 1.2 — (73)	緑色片岩	未製品 第2工程。厚味がある。片面に研磨が施され、他面は剝離面を残す。 ○ なし ○ 上下両端縁にあり。			
	S-07-1815 KH54  整地層	15.2 6.3 1.9 — 206	緑色片岩	未製品(D) 完形。第1工程。両面とも大剝離面よりなる。厚みをとるため打ち欠きを施した後、周縁全体に両面に小さな剝離を施して成形している。そのエッジは磨滅している。 ○ なし ○ なし			
	S-07-1819 LW62 溝 (SF 430) 黒色粘質土層	(6.7) (8.0) 1.3 — (69)	緑色片岩	未製品(C) 第1工程。打ち欠きによる剝離は中央にのびておらず、厚味がある。 ○ なし ○ 周縁のエッジに背潰れ痕状の痕跡あり。			

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

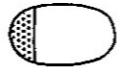
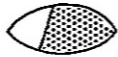



図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備 考
						○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	
	S-07-1820 LW50 溝・南向流路内 (SF 074) 青腐混土層	(5.9) (5.8) 0.7 — (23)		緑色片岩	未製品(A) 第2工程。背面は自然面に研磨を施した、平坦面で両面に角をもつ。最大厚は背面にあり、刃先に向ってうすくなる。両平面共に片理に沿って剝離した平坦な面で、刃部に打ち欠きを施し、そのエッジを研磨している。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1821 LY57 溝 (SF 075) 黒色土層	(10.0) 8.1 1.1 — (157)		緑色片岩	未製品 第1工程。両平面共に片理面よりなる板材で、周縁に打ち欠きは、ほとんどみられない。 ○ なし ○ 周縁の1辺のエッジに背潰れ状痕跡あり。		両面に鉄分付着。
	S-07-1822 LY57 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	(8.8) (6.5) 1.0 — (74)		緑色片岩	未製品(CかD) 第1工程。1方の平面は自然面である。側縁のエッジは丸く磨滅している。 ○ なし ○ 上端縁にあり。		
	S-07-1823 LW54 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	(8.9) 6.7 1.7 — (149)		緑色片岩 (点紋)	未製品(CかD) 第1工程。打ち欠き成形後、周縁に打ち欠き整形を施したもの。端部は刃線と直交する側辺をもち、背部へは円く続く。片面の中央に敲打を施している。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1824 GT60 Pit10	(5.2) 5.0 1.0 — (35)		緑色片岩	未製品(A) 第2工程。A面、周縁に研磨を施すが、研磨の及ばない剝離面残存。B面は打ち欠き面のまま。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1825 IB60 溝 (SF 100)	(6.2) 5.1 0.8 — (47)		緑色片岩	未製品 第2工程。体部破片。 ○ なし ○ 上・下両端縁に著しく、共に平坦になる。		
	S-07-1831 MZ	(3.4) (5.3) 0.6 — (15)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。一方の平面が部分的に研磨されている。 ○ なし ○ 周縁の一部分に背潰れ状の痕跡あり。		
	S-07-1832 MQ63 第4層・砂礫混黒色有機土層	(8.0) (4.7) 1.0 — (44)		緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ 一辺に背潰れ痕あり。		鉄分付着
	S-07-1837 KQ65 第2層	(6.0) (3.6) 1.0 — (23)		緑色片岩	未製品 第2工程初段階。破片。一面にのみ、わずかに研磨。左端は平坦な自然面である。 ○ なし ○ 上端縁にあり。		

( )は残存部分の法量である。


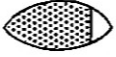

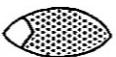



( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1838 MB59 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(7.2) (6.9) (1.2) — (53)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。一方の面の一部に研磨がある。他方の面は1つの剝離面よりなり、打ち欠きはみられない。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1839 MH54  礫混黒褐色土層	(4.9) (4.6) 0.7 — (15)		緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1840 JSZ  黒褐色土層	(6.3) (6.6) 1.7 — (71)		緑色片岩	未製品(D) 第1工程。端部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1841 LZ  Pit198	(10.2) 7.4 1.4 — (191)		緑色片岩	未製品(D) 第2工程初段階。両面中央にのみ右上←左下方向のあらい研磨が施される。周縁は打ち欠きにより成形後そのエッジに更に小さな剝離を施して整形している。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1851 JQ70  第5層	(6.5) (5.7) 1.0 — (45)		緑色片岩	未製品 第1工程。破片。 ○ なし ○ 1辺の角に背潰れ痕あり。		鉄分付着
	S-07-1856 LZ  Pit198	(7.7) (5.0) 0.8 — (36)		黒色片岩	未製品 第2工程。背部破片。背面は直線状を呈す。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1904 LD58  黒褐色土層				S-07-1856と同一個体。		
	S-07-1857 LY57 溝 (SF 075) 黒色土層	(10.7) 6.7 (1.0) — (74)		緑色片岩	未製品(Dか) 第1工程。両面とも片理面よりなる板材のまわりに打ち欠きを施して成形。 ○ なし ○ 背面にわずかにあり。		
	S-07-1860 JC64・65  黒褐色砂質土層	(6.0) (6.0) 0.8 — (44)		緑色片岩	未製品 第2工程。端部破片。背面と一平面、刃先に研磨が施される。他の平面は片理面に沿って剝落している。周縁よりの打ち欠き面残存。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1870 MX62  黒色砂粘質土層	(11.1) (5.7) 0.7 — (57)		緑色片岩	未製品(CかD) 第1工程。両平面共に片理面よりなる板材の一方の面のみに打ち欠き成形。周縁の一部に自然面残存。 ○ なし ○ 周縁に背潰れ状痕跡を若干もつ。		
	S-07-1873 GT58  整地層	(8.9) 4.9 1.3 — (84)		緑色片岩	未製品(C) 片刃か。第2工程。背面・両平面に研磨が施されるがA面は殆どが剝離面のままである。刃先にもわずかな研磨が施されエッジは平坦面を呈す。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1874 GP54  整地層	(7.8) (5.2) 0.9 — (50)		緑色片岩	未製品(CかD) 片刃。第2工程初段階。B面は片理面のままで、A面にのみわずかに研磨が施される。A面刃部にも研磨が施され刃面がつくれる。 ○ なし ○ 刃先に背潰れ状の痕跡あり。		
	S-07-1885 LX56 溝 (SF 075) 腐混黒色粘土層	(9.6) 5.0 1.0 — (73)		緑色片岩	未製品(C) 第2工程。両平面・背面に研磨が施される。刃部はA面に大きく打ち欠きを施して刃面をつくり、そのエッジに小さな剝離を施す。B面刃部にわずかに研磨面あり。両平面とも背部側面に打ち欠き面残存。A面・B面とも右上-左下方向のいくつかの研磨面あり、B面刃部には左右方向の研磨である。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1886 MB50 溝 (SF 074) 腐混砂粘土層	(5.6) (6.1) 0.7 — (32)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。一方の平面に部分的に研磨あり。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1891 MX60  Pit31	(4.6) 3.7 0.7 — (16)		緑色片岩	未製品 第1工程。破片。周縁の3辺は磨滅している。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1895 KK68  第3層・黒色砂質土層	(9.5) 5.2 1.1 — (68)		緑色片岩	未製品(B) 第1工程。両面とも剝離面よりなり、周縁に打ち欠きを施して成形。 ○ なし ○ 周縁の打ち欠きのエッジにわずかにみられる。		
	S-07-1896 GP58 溝 (SF 083)	(9.9) 7.2 1.8 — (152)		緑色片岩	未製品(Dか) 第1工程。 ○ なし ○ 背面のエッジにあり。		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備考
						○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	
	S-07-1898 MH62 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(7.9) (4.6) 1.0 — (40)		緑色片岩	未製品 第1工程。破片。		
	S-07-1901 HS62 南北溝	(4.9) (4.8) 0.7 — (7)		緑色片岩	未製品 第2工程。破片。		
	S-07-0004 MQ63 第6層・褐色砂礫土層	(5.0) (4.3) 0.6 2.4 (14)		緑色片岩	体部中央、紐孔部破片。(内5mm、外6.5mm)		
	S-07-0006 JW63 第2層・黄色土層	(5.3) (5.0) 0.7 — (25)		緑色片岩	体部中央破片。		火をうけて変色。
	S-07-0025 MP56 茶褐色礫混合土層	(5.4) (3.7) 0.7 — (21)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ 背面にわずかにあり。		
	S-07-0035 KK66 第3層・黒色砂質土層	(3.0) (3.3) 0.7 — (10)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ 上下両辺にあり。		
	S-07-0039 GL56 第3層・黒褐色粘土層	(5.8) (4.0) 0.7 — (20)		緑色片岩	紐孔を含む破片。(内5.5mm、外8mm) ○ なし ○ なし		
	S-07-0066 不明	(2.9) (4.4) 0.7 — (10)		緑色片岩 (点紋)	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0068 MH57 黒色砂質土層	(3.0) (2.3) (0.5) — (4)		緑色片岩	紐孔を含む破片。紐孔は敲打後穿孔。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0075 KM63 第3層・褐色砂質土層	(6.6) (5.1) 0.7 — (30)		緑色片岩	体部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0079 IZ 表探	(4.2) (3.6) 0.6 — (11)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0083 MJ57  褐色砂層	(2.4) (3.4) 0.8 2.3 (11)		黒色片岩か	体部中央紐孔部破片。紐孔は両面に敲打後穿孔。 ○ なし ○ 背面・下端縁に著しい。刃部は失われる。		
	S-07-0094 KF63  第3層・褐色砂質土層	(4.6) (2.7) 0.8 — (12)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ 一辺にあり。		
	S-07-0097 KG62  第3層・褐色砂質土層	(2.1) (1.4) (0.5) — (2)		緑色片岩	紐孔部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0100 MH57  黒色砂質土層	(4.2) (4.9) 0.9 — (18)		緑色片岩	紐孔を含む体部破片。(内 3.5mm、外 8mm) ○ なし ○ 背面にあり。		
	S-07-0102 MI57  黒色砂質土層	(4.6) (4.0) 0.5 — (12)		緑色片岩	紐孔を含む背部破片。(内 6mm、外 8mm) ○ なし ○ 背面の一部にあり。		
	S-07-0112 MI57  第3層・黒色砂質土層	(2.5) (3.6) 0.6 — (5)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0113 MO56 溝 (SF 078) 表採	(6.1) (3.1) (0.5) — (16)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		火をうけて白色化。
	S-07-0123 KF67  Pit 2	(6.9) (4.1) (0.3) — (6)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0126 KG63  第3層・褐色砂質土層	(5.9) (3.8) 0.8 — (25)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ 上下両辺にあり。		
	S-07-0131 KO63  第3層・下部暗褐色粘質土層	(3.8) (3.5) (0.3) — (6)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0136 KX60  第3層・黒色砂質土層・Pit内	(3.8) (4.5) 0.4 — (12)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0138 KT60  第3層・黒色砂質土層	(4.9) (4.3) 0.6 — (23)		緑色片岩 (点紋か)	破片。 ○ なし ○ 背面と刃先の全体に背潰れ痕あり。		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0142 KX60 第3層・黒色砂質土層・Pit内	(2.5) (2.2) (0.2) — (2)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0144 MM61 黒色土層	(7.0) (4.2) 1.0 — (32)		緑色片岩	紐孔を含む体部破片。(内5mm、外7mm) ○ なし ○ なし		
	S-07-0151 LA62・63 第3層・茶褐色砂層	(5.3) (2.2) 0.7 — (12)		緑色片岩 (点紋)	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0152 LA・LB64・65 第3層・茶褐色砂質土層	(2.2) (2.3) 0.6 — (4)		緑色片岩	紐孔の一部を含む背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0154 MF64 床土層	(5.5) (3.5) 0.6 — (16)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0156 MN63 溝 (SF 074) 第3層	(3.8) (4.0) 0.7 — (15)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0157 GL58 第3層a・灰褐色粘土層	(5.9) (3.6) (0.6) — (15)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		火をうけて白色化。
	S-07-0161 MQ63	(3.3) (3.9) (0.3) — (3)		緑色片岩	紐孔を含む破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0163 KP62 第3層・茶褐色砂質土層	(4.0) (2.6) 0.7 — (7)		緑色片岩	刃部破片。片刃。 ○ なし ○ 刃先に小剝離を伴う背潰れ痕あり。		
	S-07-0180 KT62 第2層・褐色砂質土層	(2.7) (2.8) 0.7 — (6)		緑色片岩	紐孔を含む背部破片。(内不明、外12mm) ○ なし ○ なし		
	S-07-0190 MK64 黒褐色礫混合土層	(4.0) (2.8) (0.4) — (6)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0194 KQ69 第4層	(5.3) (4.6) (0.4) — (16)		緑色片岩	体部破片。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備 考
						○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	
	S-07-0197 MM60 黒色砂質土層	(4.6) (5.1) 0.7 — (24)		緑色片岩	体部中央紐孔部破片。(内5mm、外9mm) ○ なし ○ なし		
	S-07-0205 MN62 黒色砂質土層	(7.4) (3.8) 0.8 — (29)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0207 MN62 黒色砂質土層	(5.6) (3.3) 0.7 — (16)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0217 MU62 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(2.6) (3.3) 0.7 — (8)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0235 MP62 溝 (SF 074) 褐色砂層	(2.4) (3.2) (0.4) — (4)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0240 MO63 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(2.6) (2.6) (0.4) — (4)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0244 MO63 溝 (SF 074) 褐色土混黒色砂質土層	(6.1) (2.8) 0.6 — (20)		緑色片岩	端部破片。下端破損部に両面より研磨を施している。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0248 ML60 溝 (SF 074) 褐色砂層	(3.8) (4.1) 0.7 2.8 (13)		緑色片岩	紐孔部を含む背部破片。未貫通の穿孔痕が一面にあり。(内7mm、外10mm) ○ なし ○ 背面に著しい。		
	S-07-0249 ML60 溝 (SF 074) 褐色砂層	(2.3) (2.7) (0.3) — (3)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0257 MM63 黒褐色礫混合土層	(3.4) (2.2) (0.3) — (2)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0261 MJ59 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(4.7) (3.0) (0.3) — (6)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0264 MP62 溝 (SF 074) 黒褐色礫混合土層	(7.2) (3.7) 0.8 — (29)		緑色片岩	紐孔を含む背部破片。(内5.5mm、外7mm) ○ なし ○ なし		下端部火をうけて変色。

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。



石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0274 KX66 第2層	(6.1) (2.5) 0.6 — (14)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0275 MK59 第9号土器堆積 (SL 308)	(2.1) (3.5) 0.5 — (6)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0276 KX63 第2層	(3.8) (3.5) (0.3) — (4)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0278 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(5.7) (5.5) 0.5 — (19)		緑色片岩	破片。両面は片理面よりなり、平面形は隅円の三角形即ち、おむすび形を呈する。周縁には研磨が施され、両面にはわずかに研磨面あり。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0283 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(4.6) (3.5) 0.6 2.0 (14)		緑色片岩	紐孔部破片。(内 4.5mm、外 7.5mm) ○ なし ○ なし		
	S-07-0284 MK60 第9号土器堆積 (SL 308)	(3.2) (3.0) (0.4) — (5)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0285 KX62 第2層	(3.4) (4.9) 0.8 3.0 (17)		緑色片岩	紐孔を含む体部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0288 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(5.3) (4.5) 0.6 — (21)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0299 MK63 黒褐色礫混土層	(2.5) (2.0) 0.7 — (4)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ 背面にあり。		
	S-07-0302 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(4.6) (2.6) (0.6) — (13)		黒色片岩	紐孔の一部を含む背部破片。 ○ なし ○ 背面にあり。		
	S-07-0303 MH56 溝 (SF 074) 褐色砂質土層	(3.7) (4.4) 0.7 — (15)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ 1辺にあり。		
	S-07-0322 MK59 溝 (SF 074) 褐色砂層				S-07-0303と同一個体		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背渋れ痕	備 考
	S-07-0305 MJ58 溝 (SF 074) 褐色砂層	(3.6) (5.1) 0.5 — (12)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0315 KX62  床土層	(2.8) (2.5) 0.3 — (3)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0318 MZ	(3.1) (1.2) (0.3) — (1)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0320 KL67  第3層・黒色砂質土層	(3.6) (4.0) (0.6) — (10)		黒色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0321 MK59 溝 (SF 074) 褐色砂層	(5.0) (4.7) 0.8 — (25)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0326 MK59  褐色砂層	(3.5) (3.3) 0.4 — (5)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0330 MJ59 溝 (SF 074) 褐色砂層	(4.6) (3.7) 0.9 — (16)		緑色片岩	紐孔を含む背部破片。(内7mm、外不明) ○ なし ○ なし		
	S-07-0331 MJ58 溝 (SF 074) 褐色砂層	(3.6) (3.2) (0.4) — (7)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0334 LA67 土坑 (SK 272) 第3層	(3.8) (1.5) (0.3) — (3)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0345 KT62  第2層・褐色砂質土層	(3.9) (3.1) (0.6) — (7)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0346 FZ  第2層・灰褐色粘質土層	(4.2) (3.6) 0.7 — (16)		緑色片岩	端部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0349 ML59 溝 (SF 074) パラス混青褐色砂層	(7.6) (4.2) (0.7) — (28)		緑色片岩	紐孔左側体部破片。 ○ なし ○ 周縁にあり。		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0358 LC60 第2層	(3.9) (3.9) 0.5 — (9)		緑色片岩 (点紋)	端部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0359 MZ	(4.1) (4.8) (0.5) — (11)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0361 KZ 表採	(4.2) (2.8) 0.8 — (13)		緑色片岩	端部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0364 KZ 表採	(3.5) (4.0) 0.6 — (10)		緑色片岩	端部破片。長方形態か。 ○ なし ○ 側辺に剝離面を伴っており。		鉄分付着
	S-07-0365 MZ 表採	(3.5) (4.1) (0.4) — (7)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0366 MZ 表採	(4.0) (2.1) 0.6 — (6)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0368 MZ 表採	(4.7) (3.7) (0.4) — (7)		緑色片岩	紐孔の一部を含む破片。 ○ なし ○ 背面にあり。		
	S-07-0372 MD60 黒褐色礫混土層	(4.3) 3.8 0.8 — (23)		緑色片岩	紐孔の一部を含む体部破片。 ○ なし ○ 背面にあり、凹みをなす、下端縁にもあり。		
	S-07-0375 MB58 整地面	(3.0) (3.7) 0.7 — (9)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		火をうけて変色。 鉄分付着
	S-07-0384 MC60 黒色土層	(6.8) (2.6) 0.5 — (15)		緑色片岩	端部破片。下端破損部に研磨を施し、端部を再加工。両面より研磨して鋭くしている。磨製石鏃の未製品と思われる。 ○ なし ○ 下端破損部にあり。		
	S-07-0395 MC61 黒褐色礫混入土層	(6.1) (3.4) (0.6) — (16)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0400 LY58 溝 (SF 075)	(5.7) (4.3) 0.8 — (26)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0402 KD68・69  Pit	(1.7) (2.8) (0.3) — (1)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0411 MA58 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(5.4) (3.1) (0.5) — (14)		緑色片岩	端部破片。 ○ なし ○ 背面・刃部にあり。両面とも著しく、原形を失う。		
	S-07-0430 MB59 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(4.8) (4.4) 0.8 — (20)		緑色片岩	紐孔を含む肩部破片。(内5mm、外不明) 紐孔脇に両面に対応して未貫通の穿孔痕あり。紐孔の背寄りに以前の紐孔と思われる孔あり。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0437 KT-KU68・69  第3層下・第4層上	(4.8) (4.4) 0.8 — (20)		緑色片岩	端部破片か。端部先端は剥離欠損しているが、両面より研磨し両刃気味に再加工している。 ○ なし ○ 下端破損部及び側辺のエッジにあり。		
	S-07-0439 ML59  第4層・Pit1	(6.4) (4.3) 0.8 — (23)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0446 ML60  黒色土層	(2.4) (2.6) (0.5) — (4)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0480 MT59  叩き面	(6.0) (3.2) 0.8 1.8 (23)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ 背面にあり。背面中央部は背潰れ痕により、紐孔までつぶれて、平坦に変形。	火をうけて表面はあれている。	
	S-07-0487 KJ66  第3層・黒色砂質土層	(2.5) (3.4) 0.6 — (8)		黒色片岩	紐孔を含む破片。(内6.5mm、外不明) ○ なし ○ なし		
	S-07-0488 MC59 溝 (SF 075) 腐混黒色粘質土層	(2.4) (2.9) (0.3) — (3)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0527 MZ	(2.1) (3.7) (0.4) — (4)		緑色片岩	端部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0528 KZ  表採	(3.5) (1.6) (0.5) — (3)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0529 MS57 溝 (SF 078) 黒色砂混粘質土層	(6.0) (5.1) (0.7) — (20)		緑色片岩	紐孔を含む体部破片。(内6.5mm) ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-0700 JC65 褐色礫混土層	(5.9) (3.3) 0.8 — (21)		緑色片岩	紐孔の一部を含む肩部～端部破片。 ○ なし ○ 背面、下端破損部にあり。		鉄分付着
	S-07-0705 ME64 井戸整地面	(3.7) (4.0) 0.8 — (16)		緑色片岩	紐孔を含む背部破片。(内 5.5mm、外 9mm) ○ なし ○ 背面、下端破損部にあり。		火をうける。
	S-07-0708 IT63・64 黒褐色砂質土層	(4.0) (3.2) (0.4) — (6)		緑色片岩	紐孔を含む背部破片。(内不明、外 7mm) ○ なし ○ 背面にあり。		
	S-07-0715 MJ57 溝 (SF 074) 褐色土層	(3.8) (3.2) 0.7 2.7 (12)		緑色片岩	紐孔部を含む背部破片。(内 7mm、外 9mm) ○ なし ○ なし		鉄分付着
	S-07-0728 JB68 黒色砂質土層	(3.7) (3.0) 0.6 — (8)		緑色片岩	紐孔の一部を含む背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0748 JC68・69 黒色粘質土層	(3.7) (3.5) (0.5) — (8)		黒色片岩 (点紋)	端部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0752 MB50 茶褐色砂礫土層	(5.5) (3.6) 0.7 — (18)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		火をうけて白色化。
	S-07-0760 JE54 床土整地層	(5.6) (4.5) (0.6) — (21)		緑色片岩	端部破片。端部は円く背面、下端破損部に対応して、長軸に直交する方向に研磨され凹面を呈する部分あり。両面とも研磨は施されていない。 ○ なし ○ なし		鉄分付着
	S-07-0769 JE54 整地面	(6.6) 4.2 0.6 — (29)		緑色片岩	1方の紐孔を含む体部中央部破片。下端破損部に研磨が施される。(内 6mm、外 7.5mm) ○ なし ○ なし		鉄分付着
	S-07-0776 MF50 整地層	(3.3) (3.0) 0.8 2.1 (11)		緑色片岩	紐孔部破片。紐孔に重なって未貫通の穿孔痕あり。(内 6.5mm、外 8.5mm) ○ なし ○ なし		火をうける。
	S-07-0777 JE66 整地層	(5.6) (2.3) 0.6 — (10)		黒色片岩	紐孔を含む背部破片。(内 5.5mm、外 7mm) ○ なし ○ 背面にわずかにあり。		
	S-07-0786 JE62 整地層	(4.3) (3.0) (0.5) — (7)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		鉄分付着

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴	備考
						○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	
	S-07-0805 JM66 整地層	(5.5) (4.7) 0.9 — (32)		緑色片岩	背部破片。背面に以前の紐孔が残存。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0808 MB50 黒褐色礫混土層	(4.9) (4.0) 0.6 — (19)		緑色片岩	紐孔の一部を含む肩部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0815 MC50 整地層	(2.5) (3.4) 0.4 — (4)		緑色片岩	端部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0843 MB50 黒褐色礫混土層	(4.2) 3.7 0.7 — (18)		緑色片岩 (点紋)	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0856 KL54 整地層	(2.9) (3.6) 0.5 — (8)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0865 KP54 整地層	(5.9) (3.6) 0.5 — (14)		緑色片岩	中央部破片。両刃。 ○ なし ○ 刃先・上端縁にあり。		
	S-07-0881 KH66 第3層	(5.0) (4.5) 0.7 — (19)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ なし		火をうける。
	S-07-0886 MP62 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(4.1) (3.7) (0.4) — (8)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0911 MT58 溝 (SF 078) 黒色砂混粘質土層	(2.8) (2.4) (0.3) — (3)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0923 MH65 茶褐色土層	(4.8) (6.0) (0.4) — (13)		黒色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0927 JC65 褐色礫混土層	(6.4) (3.7) 1.0 — (25)		黒色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		未製品か鉄分付着
	S-07-0934 MNZ	(2.6) (2.3) (0.3) — (2)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-0940 LW54  整地層	(6.2) (3.7) (0.4) — (15)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0941 LW58  整地層	(5.6) (5.7) 0.9 — (38)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0984 KH58  茶褐色土層	(3.7) 4.0 (0.5) — (8)		緑色片岩	体部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0991 MF56 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(2.8) (2.9) (0.4) — (3)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0992 MB53 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(4.0) (3.6) 0.6 — (9)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0993 MB53 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(3.2) (1.6) (0.4) — (2)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-0998 MN63  暗褐色土層	(7.4) 6.5 0.7 — (49)		緑色片岩	体部欠残存。刃部欠損。(内6mm、外8mm) ○ なし ○ 背面にあり。下端縁に小剝離を伴い、そのエッジにあり。	鉄分付着	
	S-07-1025 JI66  褐色土層	(6.7) (3.8) 0.5 — (18)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1045 JU66  整地層	(3.4) (2.9) (0.5) — (5)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1073 JV58  茶褐色土層	(4.8) (5.5) 1.1 — (34)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ 下端縁には打ち欠きがあり、そのエッジにあり。		
	S-07-1091 JE58 溝 (SF 079) 上層	(5.3) (5.1) 0.7 — (28)		緑色片岩 (点紋)	体部破片。両刃。表面の風化著しい。 ○ なし ○ なし	火をうける。	
	S-07-1098 JE58 溝 (SF 080) 上層	(6.2) 3.5 0.7 — (25)		緑色片岩	端部破片。 ○ なし ○ 背面、刃部にあり。背面は平坦に変形し刃部は失われる。	鉄分付着	

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1103 JBZ 床土層	(3.3) (2.3) 0.3 — (3)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1111 JE66 褐色土層	(5.2) (2.4) (0.4) — (6)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1133 JI66 褐色土層	(6.3) (5.1) 0.8 — (27)		緑色片岩	肩部～端部破片。 ○ なし ○ なし		火をうけて変色。
	S-07-1142 JQ66 褐色土層	(7.4) (5.2) 0.5 — (27)		緑色片岩	紐孔を含む肩部～端部破片。(内5mm、外7mm) ○ なし ○ なし		
	S-07-1162 LG54	(4.7) (4.3) (0.7) — (16)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1165 KA62	(3.6) (4.4) (0.7) — (16)		緑色片岩	紐孔部破片。(内6mm、外11mm) ○ なし ○ なし		鉄分付着
	S-07-1166 KL58 茶褐色土層	(5.0) (5.1) 0.7 — (25)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ 背面に著しく、凹面を呈す。		
	S-07-1169 KD54 黒色砂質土層	(7.0) (3.8) 0.8 — (22)		緑色片岩	端部破片。 ○ なし ○ 下端縁に打ち欠きがあり、そのエッジにある。		
	S-07-1177 KD54 茶褐色土層	(2.1) (3.7) (0.3) — (3)		緑色片岩	端部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1183 KD54 黒色土層	(4.4) (3.3) (0.3) — (6)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1197 JU62 黒褐色土層	(3.4) (3.5) (0.4) — (7)		緑色片岩	端部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1200 KE58	(5.0) (2.8) (0.3) — (4)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 紐孔間距離 重量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-1202 不明	(6.8) (4.3) 0.5 — (13)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1203 MJ54 土器堆積 (SL 321)	(5.4) (4.3) (0.5) — (11)		緑色片岩	紐孔を含む破片。(内4mm、外不明) ○ なし ○ なし		
	S-07-1204 MJ54 土器堆積 (SL 321)	(4.3) (4.3) 0.8 — (20)		緑色片岩	端部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1209 KP58 茶褐色土層	(5.0) (4.2) 0.7 — (23)		緑色片岩 (点紋)	背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1220 JW64 黒褐色土層	(5.0) (3.4) 0.7 — (13)		緑色片岩	刃部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1250 JR65 黒褐色土層	(3.7) (3.9) 0.7 — (14)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1263 MB54 溝 (SF 074) 黒褐色砂礫土層	(5.9) (3.5) 0.7 — (25)		緑色片岩	端部破片。一面に未貫通の穿孔痕あり。肩部に鋭い刃物で抉りといったような小凹面あり。 ○ なし ○ 背面、下端破損面に著しい。	鉄分付着	
	S-07-1293 JE58 溝 (SF 079) 黒褐色砂礫土層	(7.2) 3.9 0.4 — (18)		緑色片岩	破片。片理に沿って全面が剝離するが、再研磨される。一方の面は旧研磨面のままであるが、両面ともに研磨面下に片理面が残存する。刃部は左右方向に折れ欠損し、折れ面に沿って若干研磨され、刃面を作り出そうとしている。 ○ 旧研磨面は磨滅し光沢をもつ。刃部折れのエッジは丸く磨滅し、背面も丸く磨滅する。 ○ なし		
	S-07-1311 不明	(3.9) (4.4) (0.7) — (9)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1336 JM66 溝 (SF 081) 黒褐色土層	(3.0) (4.6) 0.7 — (14)		緑色片岩	端部破片。 ○ なし ○ 背面と下端縁にあり。		
	S-07-1362 MZ 表採	(5.0) (2.5) (0.5) — (7)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (cm) (g)	長 さ 幅 厚 紐孔間距離 重 量	石 材	特 徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備 考
	S-07-1363 MZ  表採	(4.5) (2.2) 0.6 — (6)		緑色片岩	紐孔を含む背部破片。背面は平坦で、両面との境界に角をもつ。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1396 KT60  第2層・黒褐色砂質土層	(5.2) (6.1) 0.6 — (27)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1429 JI66  整地層	(8.1) (5.8) 0.5 — (40)		緑色片岩	紐孔を含む体部破片。(内4mm、外7mm) ○ なし ○ なし		
	S-07-1449 KG63  第3層下部・黒色砂質土層	(8.5) (6.0) 0.5 — (31)		緑色片岩	紐孔を含む体部破片。 ○ なし ○ 上端縁に打ち欠きがあり、そのエッジにあり。		
	S-07-1466 MF58  茶褐色土層	(4.4) (7.0) 0.4 — (15)		緑色片岩	破片。周縁に研磨を施して再加工する。 ○ なし ○ なし		鉄分付着
	S-07-1467 MG57 溝 (SF 074) 黒色土層	(6.0) (5.2) (0.7) — (28)		緑色片岩	紐孔を含む背部破片。紐孔は敲打後穿孔。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1478 KB66  黒褐色土層	(2.8) (4.4) (0.7) — (11)		緑色片岩	紐孔を含む体部中央破片。 ○ なし ○ 下端破損部にわずかにあり。		
	S-07-1482 LO58 溝状遺構 黒色土層	(5.6) 3.3 0.7 — (18)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ 背面、下端縁にあり。		
	S-07-1490 IT62 溝・第3溝 (SF 080) 黒褐色砂礫混土層	(4.4) (3.3) (0.8) — (11)		緑色片岩	紐孔部破片。両面に対応して未貫通の穿孔痕あり。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1509 MO61 溝 (SF 074) 褐色粘質土層	(2.5) (4.6) (0.5) — (7)		緑色片岩 (点紋)	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1538 JC63  黒褐色粘土層	(4.0) (4.2) (0.5) — (9)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		鉄分付着
	S-07-1544 MF54 溝 (SF 074) 黒色土層	(4.8) (4.5) (0.6) — (19)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ 相対する二辺にあり。		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1696 KZ	(6.6) (2.7) 0.8 — (21)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1699 II58 溝 (SF 296) 砂質混灰黒色粘質土層	(7.0) (3.1) 0.7 — (17)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ 一辺にあり。		鉄分付着
	S-07-1722 IV54 溝 (SF 077) 腐混黒色粘質土層	(5.4) (4.7) 0.7 — (15)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		鉄分付着
	S-07-1723 LX56 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(4.1) (3.2) (0.5) — (10)		緑色片岩	紐孔を含む端部破片。 ○ 側辺のエッジは丸く磨滅。 ○ なし		鉄分付着
	S-07-1757 不明	(1.9) (4.3) (0.4) — (5)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1759 不明	(3.8) (4.1) 0.6 — (16)		緑色片岩	肩部破片。一面に敲打痕あり。 ○ なし ○ 下端破損部にあり。		火をうけて赤変。
	S-07-1769 MO56	(7.0) (5.3) 0.7 — (34)		緑色片岩	肩部～端部破片。 ○ なし ○ なし		火をうけて赤変。
	S-07-1773 GT54 整地層	(4.1) (5.5) 0.7 — (25)		緑色片岩	紐孔を含む背部破片。(内6mm、外7.5mm) ○ なし ○ なし		
	S-07-1795 LA62・63 第3層・茶褐色砂層	(5.4) (4.2) 0.9 — (22)		緑色片岩	紐孔の一部を含む肩部破片。 ○ なし ○ なし		火をうけて赤変。
	S-07-1814 MG62 溝 (SF 075) 黒褐色礫混土層	(7.3) (3.7) 0.8 — (27)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1816 JE58 溝 (SF 079) 上層	(3.8) (3.1) (0.2) — (3)		黒色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		鉄分付着
	S-07-1833 HO60 黄褐色土層	(5.4) (4.9) (0.6) — (14)		黒色片岩	体部破片。 ○ なし ○ 上下両端縁に著しい。		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○ 使用痕跡 ○ 背潰れ痕	備考
	S-07-1842 JR59 土坑 (SK 243)	(3.9) (2.7) (0.6) — (7)		緑色片岩	刃部破片。 ○ なし ○ なし		鉄分付着
	S-07-1843 IN65  Pit 6	(2.8) (2.1) (0.3) — (2)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1844 GT50  整地層	(7.5) (2.1) 0.6 — (13)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1845 GBZ 溝・第2溝 (SF 083) 砂礫層	(3.6) (4.5) 0.5 — (14)		緑色片岩	肩部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1848  不明	(3.7) (3.3) (0.4) — (5)		緑色片岩	紐孔の一部を含む端部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1850  不明	(6.2) (3.1) 0.7 — (23)		緑色片岩	紐孔の一部を含む体部中央破片。 ○ 両面に光沢あり。 ○ 上下両端に打ち欠きがあり、そのエッジにある。		
	S-07-1854 ME50  黒褐色礫混土層	(5.3) (2.0) (0.5) — (6)		黒色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1863  不明	(3.1) (2.1) (0.5) — (5)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ 一辺にあり。		
	S-07-1866 JQ66  整地層	(5.9) (3.9) 0.9 — (25)		緑色片岩	紐孔の一部を含む肩部破片。紐孔の穿孔にくいちがいがあり 一面には紐孔に重なって未貫通の穿孔痕あり。 ○ なし ○ なし		火をうけて白色化。
	S-07-1867  不明	(3.2) (2.9) (0.8) — (9)		緑色片岩	刃部破片。片刃。 ○ なし ○ 刃先にあり。		火をうけて赤変する。風化著しい。
	S-07-1868 ML63  黒褐色礫混土層	(3.8) (3.0) (0.7) — (8)		安山岩	紐孔の一部を含む背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1876 GL58 溝 (SF 082) 黒色粘質土層	(6.6) (6.4) 0.8 2.8 (45)		緑色片岩	紐孔を含む肩部破片。(内 5.5mm、外 6.5mm) ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 紐孔間距離 重量	石材	特徴	タイプ 形態上・製作上の特徴 ○使用痕跡 ○背潰れ痕	備考
	S-07-1877 HCZ	(2.2) (2.6) (0.5) — (3)		緑色片岩	背部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1879 HA52 第8溝	(3.3) (3.4) (0.5) — (5)		緑色片岩	破片。 ○ 表面に光沢あり。 ○ なし		
	S-07-1880 HA58  暗褐色砂層・Pit 3	(4.6) (4.8) 0.7 — (21)		緑色片岩 (点紋)	紐孔の一部を含む肩部破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1884 ID64 第2号土器堆積 (SL 301)	(6.6) (5.5) (0.9) — (41)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1888 LK62  黒褐色土層	(4.2) (2.7) 0.7 — (11)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1889 LK62  黒褐色土層	(2.6) (2.8) (0.4) — (3)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1893 MQ63  第4層・砂礫混黒色有機土層	(5.7) (5.3) 0.8 — (29)		黒色片岩	刃部破片。片刃。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1897 KN70  第3層・黒色砂質土層	(2.1) (2.7) (0.5) — (2)		黒色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1900 LK54 第11号住居址内・第1Pit (SA 011)	(3.1) (1.6) 0.8 2.0 (6)		緑色片岩	紐孔を含む背部破片。 ○ なし ○ なし	火をうけて赤変。	
	S-07-1902 HS62 溝 (SF 098)	(3.7) (3.5) (0.4) — (7)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1903 HS62 溝 (SF 098)	(3.2) (2.4) (0.3) — (3)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		
	S-07-1907 GT50 溝 (SF 334)	(5.5) (3.4) 0.5 — (14)		緑色片岩	破片。 ○ なし ○ なし		

( )は残存部分の法量である。

( )は紐孔径のうち内孔径・外孔径、右孔・左孔、A面・B面の法量である。

## 第2節 大型石庖丁 (PL. 44・45、PL. 60)

本遺跡出土の大型石庖丁は、総数151点である。<sup>37)</sup>

大型石庖丁は、扁平で、体部の幅が広く、薄く鋭い両刃を有する大型の磨製石器である。中央背寄りに単孔を有するものが大半であるが、この他に、両肩部に小孔を有するものもある。また、石庖丁杏仁形態(Dタイプ)をそのまま大型化したものもある。

大型石庖丁の機能および使用状況は不明であるが、従来「押し切り」<sup>38)</sup>「武器」等の説がある。使用状況を観察すると、刃先は鋭く、刃部両面に、刃先から同じ長さの範囲に光沢をもつ。著しい場合は体部上方までその光沢が至り、孔部も又、両面とも光沢をもっている(PL. 43-3)。これは、「石庖丁」にみられる、左上方へのびる方向性をもつ面の磨滅とは異なり、方向性はなく、表面の凸部が一様に磨滅して、光沢がひろがった感じである。刃先は鋭いが、わずかな剝離(刃こぼれ)がみられる。背寄りの孔には稜の磨滅は認められず、明瞭な角を呈している。

このような使用痕跡から、大型石庖丁は、刃先が垂直に位置し、両面に同等の圧力が加わる上下運動によって機能したと考えられる。即ち、「押し切り」と考えたい。

本遺跡における大型石庖丁の石材の種類は fig.17 の通りである。和歌山県紀ノ川南岸三波川変成帯<sup>39)</sup>より産出する緑色片岩、黒色片岩等の結晶片岩類、同御荷鉢帯<sup>40)</sup>より産出する緑色岩類で100%を占め、いわゆる『紀州より搬入した石材』を使用している。その中でも緑色片岩が大半である。

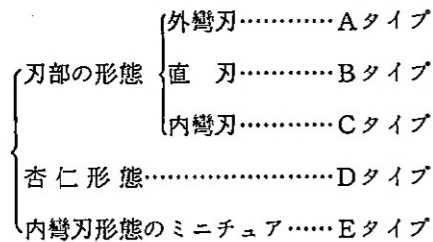
種類	点数	割合 %
緑色片岩	142	93.9
"    (点紋)	14	9.3
黒色片岩	7	4.7
"    (点紋)	1	0.7
石英(絹雲母)片岩	1	0.7
緑色岩類	1	0.7
合計	151	100

石 材

大型石庖丁は、石庖丁と同様に、刃部の形態によって 3 分類を行い、この他に石庖丁杏仁形態の大型化したもの、内彎刃形態のミニチュアと思われるものをそれぞれ1形態とし、合計5分類行った。

fig.17 大型石庖丁の石材一覧表

タイプ分類



更に、Aタイプ～Cタイプにおいて、背部の形態により1)～4)まで小分類を行う。

- 1) 背部は弓状に張る様に彎曲し、中央部は円く、両端へかけてまっすぐにのびる。孔は単孔である。(PL. 43-2・8、PL. 44-5)
- 2) 背部は半円形状に円く彎曲する。孔は単孔である。(PL. 43-9、PL. 44-8)
- 3) 背部は総じて、1)、2)と同様に彎曲するが、中央孔部の左右の肩部で挟った様に凹み、更にのびて端部に至る。中央部は孔部だけが突出した様になる。中央部は、円みをもつだけでなく、角張って台形状を呈するものもある。孔は単孔である(PL. 43-



3、S-08-0024⑧)。

4) 背部中央部は直線状にのびるか、または、ごく浅く彎曲し、両肩部で屈折して外方へ開いて下り、端部に至る。背面は台形状を呈する。屈折した部分の直下で挟りが入り、その部分だけ凹む。肩部の屈折部分に一孔ずつ、二孔穿孔されている。(PL.43-5)。

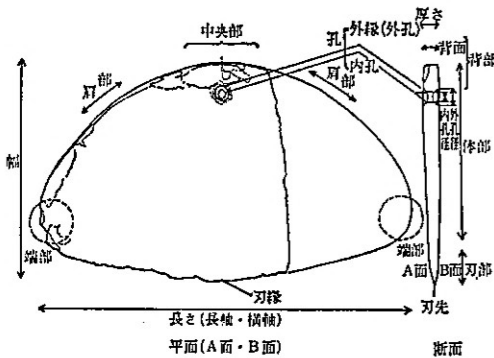


fig.18 大型石庖丁の各部名称

- A-1 (S-08-0016、0002、0073、0110)
- A-2 (S-08-0004、0026)
- A-3 (S-08-0005)
- A-4 (S-08-0040)

このタイプの大型石庖丁は、やや片刃気味両刃も若干みられるが、殆どが両刃を呈し、片刃のものはない。また、大半のものは体部中央上半部に最大厚をもち、刃部に下るにつれてうすくなり、刃先は鋭い両刃を呈するが、1点のみ(S-08-0073)体部の厚さは余り変わらず、刃部で傾斜して鈍角な両刃を呈すものもある。

法量は、長さは完形品がないため不明だが、略完形に近い形で残るもの(S-08-0002)から推定して、長さ17.4cm+ $\alpha$ 、幅9.4cm~10.7cm(平均10.2cm)、厚さ0.7cm~1.2cm(平均1.0cm)、重量もまた、不明であるが、S-08-0002は141g+ $\alpha$ で、残存最大重量は228gまでである。

Bタイプ 24点。完形品2点(S-08-0043、0003)。このタイプは直線刃を呈す。

小分類の中の3形態が含まれる。

- B-1 (S-08-0006、0043、0028)
- B-2 (S-08-0003、0015、0031)
- B-3 (S-08-0007、0024、S-07-0762)

このタイプの大型石庖丁も、Aタイプ同様、殆どが両刃を呈するが、片刃が1点ある(S-07-1125)。

法量は、長さ15.3cm~15.4cm(平均15.4cm)、幅7.7cm~13.1cm(平均10.4cm)、厚さ0.9cm~1.6cm(平均1.2cm)、重量210g~216g(平均213g)である。特大のものが1点あり(S-08-0020)、両端は失われているが、身幅が大きく、重量も396g+ $\alpha$ が最大値を示す。

Cタイプ 6点。完形品1点(S-08-0019)。このタイプは内彎刃を呈する。このタイプの背部の形態は、1)のみである。刃部は両刃を呈すが、刃先がうすく鋭いものはなく、体部

なお、大型石庖丁の部分名称は石庖丁と同様、fig.18の様にす。大型石庖丁は両刃が多く、使用状況とは関係なく、便宜上、A面、B面としている。片刃の場合は石庖丁に準じる。

Aタイプ 21点。完形品はない。殆ど完形に近いものが1点ある(S-08-0002)。このタイプは外彎刃を呈す。小分類した4形態は全て含まれる。

の厚さは余り変わらず、両面とも刃部で傾斜して鈍角な両刃となる、刃面が狭く感じられる刃部である。これはおそらく、研ぎ直しによってこの形態になったものと考えられる。

法量は、長さ21.4cm、幅6.3cm～7.6cm (平均 7.1cm)、厚さ0.8cm～1.3cm (平均 1.1cm)、重量311gである。

A～Cタイプは、いわゆる一般的な大型石廔丁の変化と考えられる。その平均法量を求めると、長さ15.3cm～21.4cm (平均17.4cm)、幅6.3cm～13.1cm (平均 9.1cm)、厚さ0.7cm～1.6cm (平均1.1cm)、重量210g～311g (平均 246g)である。

Dタイプ 11点。完形品なし。このタイプは、石廔丁杏仁形態の大型のもの。中央背寄りに二孔穿孔されている。孔径は石廔丁と同様であるが、双孔間距離は、21mm～52mm (平均38mm)と長くなる。二孔には磨滅痕は認められない。両刃と片刃が揃っており、片刃の方が多い。

法量は、長さは完形品がないため不明だが、残存最大長14.0cm、幅 6.9cm～ 8.3cm (平均7.4cm)、厚さ0.7cm～1.0cm (平均 0.8cm)、重量も長さ同様不明だが、残存最大重量150gである。

Eタイプ 2点。2点とも略完形。このタイプはCタイプ内彎刃形態の小型とも考えられるものである。最大幅は左右のどちらかに片寄り、反対側の端部が鋭く、他方の端部は円味をもつ、鎌形に近い形態を呈す。孔はつくられず。周辺に打ち欠き面を残し、つくりは余り丁寧ではない。両刃を呈す。

法量は、残存最大長10.0cm～11.1cm (平均10.6cm+α)、幅5.1cm、厚1.3cm、残存最大重量89g～101g (平均95g+α)である。

タイプ不明(Z) 24点。刃部欠損のため、大分類が不可能なもの。小分類した4形態の中の1)と3)がある。

Z-1 (S-08-0103、0018、0027、0107、0111)

Z-3 (S-08-0101、0010、0074、0094、0105)

破片 36点。小片で全体形の復元の不可能なもの。

大型石廔丁の孔は、両面より直接穿孔されたものが最も多く(S-08-0016Ⓐタイプ(以下タイプ省略))、Dタイプは全て直接穿孔である。また一方の面からのみ穿孔しているものが2点あり(S-08-0005Ⓐ、0010Ⓑ)、両面に敲打後穿孔するものも6点ある(S-08-0040Ⓐ)。また、孔がつかれないものも1点ある(S-08-0006Ⓐ)。

大型石廔丁の刃部は、体部から刃先に下るにつれて次第に薄くなり、鋭い鋭角の両刃を呈するものが多く、Dタイプ以外は、未製品をも含めて、殆どが両刃であるといえる。Bタイプに1点のみ片刃がある(S-07-1125)。Dタイプは片刃を呈するものの方が多い。

また、体部の厚さは余り変わらず、刃部に至り傾斜して鈍角な両刃を呈するものがある(S-08-0073Ⓐ、0003Ⓑ、0019Ⓒ)。これは製品として、本来的につくられた形態ではなく、恐らく、刃の研ぎ直しによってつくられたものであろうと思われる。Cタイプに多い。

石廔丁と同様に背潰れ痕をもつものが全てのタイプにみられ、未製品も含めて、13点ある(全体の 8.6%)。









大型石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法 量 (cm) (g)	長 さ 幅 厚 重 量	特	徴	備 考
				タイプ 形態上・製作上の特徴	使用痕跡	
	S-08-0033 JE62	(13.0) (9.9) 0.9 (140)		A-1かA-3 両刃。中央背寄りに1孔あり、背頂部は孔を切って横方向に欠損。孔部に最大厚あり。下方へ下るにつれてうすくなり、刃部は鋭い両刃となる。刃先は殆どが、剝離欠損。大ききの割合に孔は小さい。(内5mm、外8.5mm)	表面の風化が著しく、不明	B面鉄分付着 
	S-08-0058 MN56  黒褐色泥礫粘質土層	(10.5) (7.5) 1.0 (81)		A 両刃。刃部は浅く外彎し、背面は直線的に斜め上方へのびる。	不明	火をうけて赤変し、表面の荒れが著しい。 
	S-08-0060 MR58 溝 (SF 078) 黒色砂混粘土層	(5.9) (4.6) 0.9 (25)		A 両刃。端部破片。	不明	火をうけて変色。 
	S-08-0073 MG56 溝 (SF 074) 黒色土層	(10.7) (7.1) 0.9 (98)		A-1 両刃。刃部は直刃に近い浅い外彎刃を呈す。中央背寄りに1孔あり。孔を横切る様に背頂部は欠損孔部に最大厚あり。体部は余り厚さは変わらず、刃部に至り傾斜し両刃を呈す。(内5.5mm、外8mm)	不明	火をうけて赤変。 
	S-08-0075 MR50  整地層	(8.3) (7.8) 0.8 (70)		A-1 両刃。端部破片。	刃先は磨滅する。刃部は大 半剝離欠損。	
	S-08-0077 JM66  褐色土層	(7.2) (5.8) 0.7 (44)		A 両刃。刃部破片。	刃先より約1.7cmの間に光 沢あり。	鉄分付着 
	S-08-0081 MF50  黒色砂礫土層	(8.3) (5.5) 0.8 (48)		A-1 両刃。端部破片。	不明	
	S-08-0086 IX66 溝 (SF 079) 腐混灰黒色粘土層	(7.8) (7.4) 0.9 (60)		A 片刃気味両刃。端部近くの体部破片。背部・刃部には研ぎ直しの剝離面残存。研磨痕は全面明瞭に残存。	なし	火をうけて赤変。 石庖丁の未製品の 可能性あり。 

( )は残存部分の法量である。

( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。





大型石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 遺構番号 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	特 徴		備 考
				タイプ 形態上・製作上の特徴	使用痕跡	
	S-08-0088 JZ	(7.1) (6.1) 0.9 (39)	A 片刃気味両刃。端部破片。	不明	火をうけて赤変し、表面の荒れが著しい。 	
	S-08-0092 KF67 Pit 2	(9.2) (7.8) 1.1 (88)	A-1 端部破片。B面は大半が片理より剝落し、欠損。	表面の風化が著しく、不明。刃先はB面へ剝離欠損。		
	S-08-0097 KE68 第3層・黒色砂質土層	(6.5) (6.6) 0.7 (35)	A 両刃。端部破片。	両平面刃部に光沢あり(刃先より約2cmの間)。刃先は磨滅している。		
	S-08-0108 MD60 溝 (SF 075) 腐混黒色砂質土層	(7.5) (7.8) 1.1 (77)	A 両刃。体部下半部破片。	不明	火をうけて赤変。 	
	S-08-0110 MJ54 土器堆積 (SL 321) 黒色土層	(9.4) (9.5) 0.7 (79)	A-1 両刃。平面形は石庖丁Dタイプと同形態を呈しその大型である。背面は平坦な面で両面との境で角をなす。A面は背面角よりまっすぐにのび刃部周辺でやや傾斜して下る。B面は背面角よりややふくらみ気味にのび、下半はまっすぐに下る。背面直下に最大厚をもち、刃部に下るにつれて、うすくなり、刃先は鋭い。端部背面及び中央部背面の両平面角、刃先全体に石庖丁の背潰れ状痕跡あり、そのエッジは丸く磨滅している。	不明	Dタイプの可能性あり。 	
	S-07-1384 ML60 褐色砂層	(7.5) (5.6) 0.5 (21)	A 両刃。体部破片。一平面剝離欠損後再使用。	刃先より約1.2cmの間に光沢あり。		
	S-07-1872 GT58 整地層	(5.9) (6.5) 0.6 (30)	A 両刃。端部破片。	刃先の刃こぼれが著しく、刃先は凹凸を呈す。	緑色片岩(点紋)鉄分付着 	
PL.44-5	S-08-0043 JD69 黒色砂質土層下部	15.3 7.7 1.1 (210)	B-1 完形。平面形は背面中央を頂点とする三角形を呈する。背面左側は弓状に彎曲し、右側は直線的に端部に至る。下端縁は直線状を呈し、研磨により平坦な面になっており刃部はつくられず。本来的にはB-2タイプの大型だったものが中央で折れた後その部分に加工を施して、再生したものであろう。中央背寄りに1孔あり、B面には穿孔前の敲打痕が残存。(内6mm、外13mm)背面はやや丸みをもつ面だが平面との境で角をなす。右肩部には打ち欠きが残存するが、再研磨により角がとれている。中央頂部背面に石庖丁の背潰れ痕あり。	両面とも体部下半に光沢をもつ。(刃先より約3cmの間)	緑色片岩(点紋) 	

( )は残存部分の法量である。

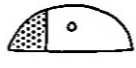
( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。

大型石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 重量	特 徴		備 考
				タイプ 形態上・製作上の特徴	使用痕跡	
PL.44-6	S-08-0006 KH69  第3層・黄色土層・Pit30	(12.7)   (288)	11.1  1.6	B-1 両刃。背部に最大厚あり、刃部に下るにつれてうすくなるが、刃部で傾斜して両刃となる。刃部はごくわずかに内彎気味である。B面は片理面よりなる平坦な面を呈するが、A面は丸みをもつ。背部に研き残しの打ち欠き面が残存。孔はつくられていない。全面に研磨痕が明瞭にある。A面上半部は傾斜の急な右上-左下方向、端部背部には右上-左下方向、下方は左右方向の研磨である。B面は丸みに沿って方向が異なり、上半部中央は上下方向。肩部打ち欠き面は右上-左下方向、その右側は左右方向、下半部は左右方向の研磨である。背面は打ち欠き面のエッジにわずかに斜め方向の研磨が施されている。	両面とも下半部に光沢があり、特に刃先周辺に著しい。刃先は鋭いが、エッジは磨滅している。	火をうけたのか、赤変。  
PL.44-8	S-08-0003 MK58  黒色土層	15.4   216	8.9  0.9	B-2 片刃気味両刃。完形。背部は半円形状、刃部はごく浅い外彎刃を呈する。両端部には剝離面残存。背面は平坦面を呈し両平面との境は角をなす。体部は背面より略同じ厚さで刃部に至り傾斜して、両刃を呈す。B面の傾斜がやや大きい。	刃先は刃こぼれした様に細かな凹凸があるがエッジは丸く磨滅している。刃先中央部は剝離欠損。	緑色片岩(点紋) A面は火をうけたものか赤変。  
	S-08-0007 MA59  黒色土層	(9.8)   (80)	(8.1)  0.9	B-3 両刃。背面寄りに最大厚があり、刃部に下るにつれて徐々にうすくなり両刃を呈す。肩部には研き残しの打ち欠き面残存。刃部はごくわずかに内彎気味である。	両平面刃先から2cmの間に光沢あり。刃先は磨滅し、又刃こぼれもみられる。	一部火をうけて赤変。 鉄分付着  
	S-08-0014 JQ66  整地層	(11.4)   (151)	(8.2)  1.1	B-1 片刃気味両刃。中央背面寄りに1孔あり。その直下に最大厚があり、刃部に下るにつれてややうすくなる。刃部でA面がより大きく傾斜して片刃気味両刃を呈す。孔を横切って背頂部欠損。背面には石庖丁の背潰れ痕あり。	刃先は小剝離しエッジは磨滅している。両面刃部刃先から約1.5cmの間にわずかなが光沢がみられる。	鉄分付着  
	S-08-0015 MG56  黒褐色礫混土層	(10.3)   (140)	(9.1)  1.0	B-2 両刃。背面は幅の狭い平坦面を呈し、身幅の中央に最大厚を有し、刃部周辺で傾斜して両刃となる。両面とも背部には打ち欠き面が残存し、両平面には研き残しの片理面残存。中央背寄りに1孔あり。	両平面とも全体に光沢あり、刃先~1.5cmの間、孔周辺に特に著しい。	
	S-08-0020 JU64 溝 (SF081) 第1層・黒色土層	(15.8)   (396)	13.1  1.4	B(B-4か) 両刃。非常に大型である。背面は浅く彎曲してのび、両肩部で屈折して外下方へ開いて下ると思われる。背面より端部に最大厚を有し、刃部へ下るにつれてうすくなり、両刃を呈す。両面とも研き残しの片理面が残存し、背部にも又研き残しの打ち欠き面残存。A面全面、B面下半部には左右方向の研磨、B面上半部には右上-左下方向の研磨が施される。左肩部に小孔あり(内4.5mm、外8mm)。おそらく右肩部にもあったと思われる。B面孔上方に未貫通の穿孔痕あり。	刃先に刃こぼれ状の小剝離痕あり。	刃先及左肩部に火をうけて赤変。  

( )は残存部分の法量である。

( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	特	徴	備考
				タイプ 形態上・製作上の特徴	使用痕跡	
	S-08-0024 ML60 溝 (SF 074) 褐色砂層	(14.6) 11.2 0.9 (93)		B-3 両刃。背面は背頂部が丸味をもつ三角形状を呈し、外下方へひろがってのびる。肩部で内彎して凹むが、その部分は背面に石庖丁の背潰れ痕があり、両面に剝離する。背部は欠損後の再加工があり、折れ部分が残存する。背部中央には両面より穿孔した未貫通の穿孔痕あり。(外孔径11.5mm) その右上方と背面に一对になる孔がある。又左側折れ欠損後、その部分のA面に打ち欠きを施し再研磨している。	両面とも刃先から2cmの間に光沢あり、刃先には刃こぼれあり。	再加工品 
	S-08-0028 ME56 溝 (SF 074) 黒色砂質土層	(15.7) (9.7) 1.2 (220)		B-1 片刃気味両刃。中央背寄りに1孔あり、孔を横切って背頂部欠損。背面は丸く、孔部に最大厚あり。体部は略同じ厚さで、下方は徐々にうすくなり、刃部先端でA面がより大きく傾斜して片刃気味両刃となる。両面に磨き残しの片理面残存。(内8mm、外10mm)孔直下に未貫通の浅い穿孔痕あり。両面とも体部下半部には左右方向の研磨が施され、上半部は右上-左下方向、背部角は背面に直交する方向、A面背部は背に沿った方向の研磨が施されている。	両面とも刃先より約4cmの間に光沢をもつ。刃先は磨滅しており、又刃こぼれもみられ、そのエッジも磨滅している。	
	S-08-0083 MF54 溝 (SF 074) 黒褐色砂礫層			S-08-0028と同一個体。		
	S-08-0031 LG54 黒褐色土層	(6.0) (8.0) 1.0 (60)		B-2 両刃。身幅の中央に最大厚あり。背部刃部へむけて徐々にうすくなり、刃先は鋭い両刃を呈す。背面より身幅の1/2位に両面に敲打により凹められ後、穿孔した孔あり。(内10mm、外B面20mm) A面背部に研ぎ残しの打ち欠き面残存。A面下半部は上下方向、上半部は右上がり方向、孔周辺は左右方向、B面上半は左右方向、下半は上下方向、左上がり方向の研磨が施されている。	不明	
	S-08-0035 HO64 黒色土層	(6.7) (5.6) 0.9 (34)		B 両刃。端部破片。	両面とも刃先から1cmの間に光沢あり。	黒色片岩 
	S-08-0056 MD59 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(9.0) (6.1) 0.7 (45)		B-1 両刃。端部破片。背面は平坦な面を呈し、直線的にのびる。	不明	火をうけて赤変。 
	S-08-0059 MJ57 溝 (SF 078) 黒色砂混粘土層	(8.9) (6.5) 1.2 (80)		B 両刃。刃部破片。	両面とも刃先から7mmの間に光沢あり、刃先には刃こぼれがあり、エッジは磨滅している。	

( )は残存部分の法量である。

( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。

大型石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	特 徴		備 考
				タイプ 形態上・製作上の特徴	使用痕跡	
	S-08-0076 JM66  褐色土層	(6.9) (7.7) 1.2 (85)	B 両刃。背面中央部は直線状にのび、肩部で屈折して、外下方へ開いて下る。背面中央部は、擦り切りの痕跡あり。傾斜部分は折れ欠損後に研磨して、再加工している。身幅背面より1/2に最大厚があり、背部・刃部へいくにつれてうすくなる。刃部先端は剝離欠損。	不明。	再加工品 	
	S-08-0084 L058  黒褐色土層	(9.1) (6.6) 0.7 (48)	B-1 両刃。端部破片。体部は刃部に下るにつれてややうすくなるが、略同じ厚さを呈し、刃部で傾斜して両刃となる。刃部はわずかに内彎気味である。両面とも左右方向の研磨である。	両面刃部に光沢あり。刃先は磨滅している。		
	S-08-0089 JA58 溝・第2溝 (SF 080) 灰黒色粘土層	(11.6) (6.0) 0.7 (68)	B 両刃。端部破片。長軸方向で一方の平面にやや彎曲。背面には研ぎ残しの打ち欠き面が残存。厚さは刃部に下るにつれてうすくなり、刃先の鋭い両刃を呈す。	両平面とも刃先～1cmの間に光沢あり。刃先は鋭いが磨滅がみられ、又刃こぼれもみられる。	鉄分付着 	
	S-08-0104 MM60  黒色砂質土層	(9.7) (5.4) 0.9 (60)	B-1 両刃。端部破片。	両平面とも刃先から2cmの間に光沢あり。刃先は小剝離欠損。		
	S-08-0106 JS63  第3層・灰黒色砂質土層	(7.5) (6.5) 0.9 (65)	B-1 両刃。背面中央は直線状にのび、肩部で屈折して外下方へひらいてのびる。中央背寄りに1孔あり、背面中央には打ち欠きによるものか欠損によるものか剝離後再研磨している。孔部に最大厚があり、刃部に下るにつれてうすくなる。	両平面に光沢あり、刃先から1.2cmの間に特に著しい。刃先には小剝離あり。		
	S-07-0762 MA54  砂礫混黒褐色土層	(9.0) (6.7) 0.8 (49)	B-3 両刃。端部破片。	両平面に光沢あり、刃先から約2cmの間は特に著しい。	黒色片岩。 火をうけて赤変。 	
	S-07-1125 JQ66  褐色土層	(7.2) (5.7) 0.6 (40)	B-1 片刃。非常に小さい。背面はやや丸みをもつ面を呈するが、平面との境は角をもつ。背面に最大厚をもち下るにつれて徐々にうすくなる。刃部A面には研ぎ直しがみられ、片刃となる。端部より背面には両面より擦り切りによる痕跡残存。	両平面下半部に光沢あり。刃先は磨滅し、又刃こぼれもみられる。	緑色片岩(点紋) A面鉄分付着 	
	S-07-1194 KB58  黒褐色土層	(4.3) (4.1) (0.7) (17)	B 両刃。刃部破片。	両面とも刃先から1cmの間に光沢あり、刃先は鋭いが磨滅している。	一平面火をうけて変色。 	
	S-07-1796 MQ62  礫混黒色有機土層	(6.8) (4.7) 1.0 (31)	B 両刃。端部破片。	不明	火をうけて変色。 鉄分付着。 	

( )は残存部分の法量である。

( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。



図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	特 徴		備 考
				タイプ 形態状・製作上の特徴	使用痕跡	
	S-07-1811 MZ	(7.8) (5.3) 1.0 (50)	B 両刃。端部破片。	両面刃先から5mmの間に光沢あり。刃先は磨滅している。		
	S-07-1881 HY58 大Pit 灰褐色砂混土層	(8.8) (5.0) (0.6) (36)	B 両刃。端部破片。B面剝落し、欠損。	刃先から2.0cmの間に光沢あり。刃先は磨滅している。		
PL.43-2 PL.60-4	S-08-0019 ML54 土器堆積 (SL 321)	21.4 7.6 1.1 311	C 両刃。完形。背部は円いが、張りのある弓状に彎曲し、端部へのびる。刃部は内彎し端部で切れ上がる(深11mm)。中央部刃線には凹凸がある。平面形はブーメランの様な形になる。背部中央背よりに孔あり、両平面に敲打後穿孔。2つの穿孔が重なっており、孔は細長くなる。(内8mm×6.5mm)背面と平面との境は角をなす。刃面は両面とも刃先に沿った方向の研磨が施される。B面体部はやや右上がり、孔の左側背部には右上-左下方向の研磨、A面右側肩部にも同様な研磨痕がみられる。	刃部は両面とも光沢をもつ。刃先は細かに剝離し、そのエッジは丸く磨滅している。	緑色片岩(点紋)鉄分付着 	
PL.43-4	S-08-0041 MB50 溝 (SF 074) 灰色砂層	(14.1) 7.3 1.3 (172)	C 両刃。背部は弓状に彎曲し、中央部は丸いが端部へかけてまっすぐのびる。刃部は深く内彎する。(深約25mm)端部は鋭角になる。中央背寄りに1孔あり。(内10mm、外15mm)背面は平坦面をなし、両平面との境で角をなす。孔部に最大厚あり、刃部を下るにつれてややうすくなるが、刃部で傾斜して両刃となる。刃面には両面とも刃線に沿った方向の研磨が施されている。A面体部、孔部下方にはやや右上がり、及び左右方向の研磨がみられる。研き直しが施されたと思われる。	不明	鉄分付着 	
PL.43-6	S-08-0008 MV60 黒褐色砂質土層	(20.1) (6.4) 1.0 (170)	C 背部は張りのある弓状に彎曲し、中央部は丸いが端部へかけてまっすぐのびる。刃部は欠損。中央部背寄りに1孔あり。(内6.5×7.5mm、外9×12mm) A面では上方より、B面では下方より穿孔されくいちがいを生ずる。背面は丸い。A面体部には左右方向、右端部には右上-左下方向、右肩部には左上-右下方向、B面体部には左上-右下方向、背面には長軸方向、背面中央部では、長軸と直交方向、斜め方向の研磨が施される。下端部はA面側に剝離し、その面もわずかだが、研磨されている。背面中央部に石庖丁の背潰れ痕あり。	下端破損面のエッジにB面側へ小剝離がみられ、そのエッジは磨滅している。	B面鉄分付着 	
	S-08-0047 MI56 黒褐色混土層	(14.4) (6.1) 1.2 (108)	C 両刃。背部は弓状に彎曲すると思われる。体部中央部では、身幅の中央に最大厚があるが、端部は片理面の影響でうすくなる。背面は平坦面を呈し、両面との境は角をなす。中央部背面には、石庖丁の背潰れ痕あり。	刃先は鋭いが磨滅している。	黒色片岩鉄分付着 	
	S-08-0074 KP54 茶褐色土層	(9.7) 6.3 0.8 (80)	C 両刃。中央背寄りに1孔あり。両面に敲打後穿孔している。(内7mm、外15mm)背面は丸みをもつ面を呈す。体部は略同じ厚さで刃部で傾斜して両刃となる。刃部には刃線に沿った方向の研き直しがみられる。	両平面とも光沢あり、刃先より1.5cmの間に特に著しい。		

( )は残存部分の法量である。

( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。

大型石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	特 徴		備 考
				タイプ 形態上・製作上の特徴	使用痕跡	
	S-08-0069 MJ57 溝 (SF 074) 褐色砂層	(9.8) (6.7) 0.8 (41)		未製品 両刃。第2工程。端部破片。体部は殆ど片理面よりなるが、わずかに研磨が施され、刃部は両刃に研ぎだされている。	なし	
	S-08-0082 JW62 溝 (SF 081) 第2層・炭混黒色土層	(10.9) (6.9) 1.3 (85)		未製品 第2工程初段階。両面の凸部に研磨が施される。背面の一部に石庖丁の背潰れ痕あり。	なし	
	S-08-0091 LE66  第2層	20.8 11.2 3.1 808		未製品 完形。第1工程。片面は自然面よりなり、他方の面は片理面よりなる。片理面の周縁にはあらい打ち欠き成形が施される。	なし	
	S-08-0095 HM54  pit36	(2.6) (6.2) 1.2 (27)		未製品 第2工程。体部破片。	なし	
	S-08-0096 ML63 溝 (SF 077) 黒色粘質土層	(7.5) (8.7) 1.9 (110)		未製品 第2工程初段階。端部破片。周縁に打ち欠きを施して成形し、片面の凸部にわずかに研磨が施される。	なし	
	S-07-0883 KL70  第1層・表土	(6.4) (6.4) 1.3 (60)		未製品(Z-3) 第3工程。両面に穿孔のため敲打痕あり。	なし	火をうけて赤変。 
	S-07-1163 LG54	(8.8) (6.9) 1.4 (125)		未製品(A-1か) 第2工程。端部破片。両面、背面に研磨を施しており、背面は丸みをもつ面を呈する。刃部は打ち欠き面のままである。	なし	
	S-07-1424 JB64 溝 (SF 079) 黒色砂質土層	(3.9) (5.5) 1.3 (32)		未製品 第2工程。体部破片。	なし	
PL.43-1	S-08-0101 LW54 溝 (SF 075) 黒褐色土層	(8.4) (6.3) 0.9 (71)		Z-3 背部中央部破片。中央は略直線形で両肩部で屈折して外下方へのびる。背面は平坦面を呈す。中央背寄り1孔あり。(内6mm、外9mm)	不明	緑色片岩(点紋) 鉄分付着 

( )は残存部分の法量である。

( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	特	徴	備考
				タイプ 形態上・製作上の特徴	使用痕跡	
PL.44-4	S-08-0103 MF58	(10.8) (7.3) 1.1 (102)		Z-1 孔を含む肩部破片。肩部に両面より剥孔した未貫通の穿孔痕あり。	不明	火をうけて変色。 
	S-08-0010 NE59  床土層	(12.1) (9.9) 1.0 (170)		Z-3 刃部欠損。背部中央は直線状を呈し、左肩部はカーブして外下方へ下る。略身幅の中央に最大厚があり、B面は平坦面を呈し、A面は丸みもち刃部に下るにつれてうすくなる。背部中央に1孔あり(内10mm、外17mm)。B面からのみ穿孔される。その左上方背寄りに小孔あり。B面全面左右方向の研磨である	不明	A面の風化が著しい。 
	S-08-0018 JU54  茶褐色土層	(9.2) (8.4) 1.0 (95)		Z-1 肩部破片。中央ごく背寄りに孔あり。(内5mm)背面は丸い面である。孔部直下に最大厚あり、刃部に下るにつれてうすくなる。B面は平坦面でA面は丸みをもつ。	不明	
	S-08-0027 MK65 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(10.3) (9.3) 0.7 (90)		Z-1 片刃気味両刃。肩部・刃部の一部を含む体部破片。背面は丸い面を呈し、体部は略同一の厚さで、刃部で傾斜してうすくなり、鋭い両刃となる。	両面とも刃先から約2cmの間にわずかな光沢あり。	火をうけて変色。 
	S-08-0052 KH65  黒色砂質土層・Pit23	(10.6) (8.8) 1.2 (100)		Z-1 孔を含む肩部破片。孔の右下方に未貫通の穿孔痕あり。	不明	黒色片岩 火をうけて変色。 
	S-08-0062 MF63 溝 (SF 077) 褐色土層	(8.5) (8.0) 0.9 (66)		Z-1 肩部破片。背面は丸みをもつが平面との境は角をなす。	不明	鉄分付着 
	S-08-0070 MI57 溝 (SF 074) 青緑色砂層	(8.5) (8.0) 0.9 (66)		Z-1 孔の一部を含む肩部破片。背面は丸みをもつが、両面とも研ぎ残しの打ち欠き面、片理面残存。	不明	
	S-08-0071 MI57 溝 (SF 075) 腐混青緑色砂質土層	(7.1) (7.4) 0.9 (75)		Z-3 孔を含む肩部破片。背部は円く彎曲するが、肩部で浅い凹みをもつ、中央背寄りに孔あり。(内5mm、外7.5mm)背面は丸みをもつが両面の境では角をもつ。孔部左上方背面に孔の痕跡あり。孔部に最大厚をもつが、徐々にうすくなって下る。	不明	
	S-08-0094  不明	(6.2) (4.8) (1.2) (42)		Z-3 肩部破片。	不明	鉄分付着 

( )は残存部分の法量である。

( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。

大型石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	特 徴		備 考
				タイプ 形態上・製作上・の特徴	使用 痕 跡	
	S-08-0105 KT・KU68・69  第3層下～第4層上	(5.9) (7.1) 1.2 (55)	Z-3 肩部破片。背部中央は浅く彎曲し、肩部で屈折して外下方へ下る。背寄りに孔あり。	不明	火をうけて変色。 	
	S-08-0107 HZ  黒褐色土層	(7.4) (5.9) 1.0 (57)	Z-1 両刃。孔及び刃部の一部を含む体部破片。背面は平坦面を呈し、両平面との境は角をなす。中央背寄りに孔あり。孔部に最大厚あり、刃部に下るにつれてうすくなる。刃部は剝離欠損し、そのエッジには細かな打撃痕あり。丸くなる。	不明	鉄分付着 	
	S-08-0109 MB54  茶褐色砂礫土層・整地層	(9.2) (5.0) 1.0 (70)	Z-1 背部中央破片。中央背寄りに孔あり。(内5mm、外10mm)背面は丸い面を呈し、孔直下に最大厚あり。下端破損部のエッジは丸く磨滅している。	不明		
	S-08-0111 MJ57 溝 (SF 074) 褐色砂層	(8.5) (9.2) 1.0 (71)	Z-1 体部破片。背面は丸く、中央部ごく背寄りに孔あり。(内4.5mm、外9mm)身幅の略中央に最大厚あり。	両面とも全面にわずかだが 光沢あり。	緑色片岩(点紋) 火をうけて赤変。 	
	S-08-0114 MI62 溝 (SF 077) 腐混黒色粘質土層	(5.0) (6.7) (0.8) (29)	Z-3 両刃か。肩部破片。背面は丸みをもつ。	不明	火をうけて赤変。 	
	S-07-0308 KR60  第3層	(6.7) (4.6) (0.7) (22)	Z-1 背部中央破片。孔あり。背面は丸みをもつ。背頂部は三角形状を呈す。	不明		
	S-07-0450 MI56 溝 (SF 074) 褐色砂層	(5.9) (4.7) 1.0 (23)	Z-3 背部中央部破片。孔は両面に敲打後穿孔。	不明	火をうけて変色。 	
	S-07-0621 MV62	(5.5) (5.9) 1.0 (40)	Z-3 肩部破片。背面は丸い。	不明		
	S-07-0643 MR～MV58  黒褐色砂質土層	(8.1) (5.2) 1.0 (55)	Z-1 孔を含む肩部破片。背頂部は孔を横切るように欠損。その面にわずかに研磨が施される。背面は丸い面を呈するが、両平面境は角をなす。	不明	鉄分付着 	

( )は残存部分の法量である。

( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	特 徴		備 考
				タイプ 形態上・製作上の特徴	使用痕跡	
	S-07-0937 MC54  整地層	(6.8) (6.2) 0.9 (48)	Z-1 孔を含む肩部破片。孔を横切って背頂部欠損。背面は丸みをもつ面である。	不明		
	S-07-1255 MB50 溝 (SF 078) 黒色土層	(7.3) (4.4) 0.9 (39)	Z-1 背部中央破片。背頂部は三角形状を呈す。その中央に1孔あり五角形状の不正円形を呈す(内5.5mm、外A10mm×8.5mm)。背面は片理に直交する平坦面よりなり、一部に研磨が施される。下端破損部には石庖丁の背潰れ痕あり、丸くなっている。	不明		
	S-07-1337 JUライン 溝 (SF 081) 第1層・黒褐色土層	(7.1) (5.8) 0.9 (40)	Z-1 背部中央破片。背部は三角形状を呈し、背頂部に孔あり。(内6mm、外11mm) A面左上方に重なって未貫通の穿孔痕あり。背面は平坦面を呈す。	不明	火をうけて変色。 	
	S-07-1522 MU62・63 溝 (SF 074) 褐色粘質土層	(8.1) (5.8) 1.1 (68)	Z-3 肩部破片。背面は平坦面よりなり、平面との境は角をもつ。	不明	鉄分付着 	
	S-07-1619 LO58 第8号井戸・木枠外 (SG 111)	(5.4) (4.0) 0.8 (29)	Z-3 肩部破片。背面は丸みをもつ。	不明		
	S-08-0023 MD54 溝 (SF 074) 褐色砂層	(9.9) (7.7) 0.8 (81)	体部中央部破片。背寄りに1孔あり。(内5mm、外9mm) 背面の一部残存。周縁は剝離し、そのエッジは丸く磨滅している。	不明		
	S-08-0030 MD54 溝 (SF 074) 褐色砂層	(7.2) (9.4) (0.9) (71)	体部破片。	不明	黒色片岩。 火をうけて赤変し、 表面の風化が著しい。	
	S-08-0051 MM61 溝 (SF 074) 褐色砂層	(4.0) (7.1) 1.0 (45)	体部破片。	不明	火をうけて変色。	
	S-08-0053 KX66  第2層	(8.3) (7.1) 0.7 (51)	体部破片。	不明	火をうけて赤変。	

( )は残存部分の法量である。

( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。

大型石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	特 徴		備 考
				タイプ 形態上・製作上の特徴	使用痕跡	
	S-08-0054 MH57 溝 (SF 074) 褐色砂層	(5.8) (7.7) 0.6 (33)		端部破片。	不明	
	S-08-0066 ME62 溝 (SF 075) 黒色粘質土層	(5.0) (7.6) (0.8) (30)		刃部破片。片刃気味両刃。	不明	
	S-08-0067 MI62 溝 (SF 075) 黒色土層	(8.7) (4.8) (1.0) (39)		刃部破片。下端縁に石庖丁の背潰れ痕あり、丸くなる。	両面に対応して光沢あり。	一部火をうけて変色。
	S-08-0080 MJ50  黒褐色土層	(5.6) (6.7) 1.2 (56)		背部中央破片。ごく背寄りに孔あり。(内5.5mm、外8mm)	不明	鉄分付着
	S-08-0087 LX  Pit 98	(6.1) 10.1 0.9 (94)		体部中央破片。背寄りに孔あり。(内5mm、外10.5mm) 孔部直下に最大厚あり、刃部に下るにつれてうすくなり、両刃を呈す。中央部折れ部分の他の周縁には小さな打ち欠き状の剝離があり、そのエッジは石庖丁の背潰れ痕で丸くなる。	両平面下半部に光沢あり。特に刃先から約2cmの間に著しい。	
	S-08-0090 IZ	(3.9) (7.3) 1.0 (45)		孔の一部を含む体部中央破片。	不明	鉄分付着
	S-08-0098  不明	(5.2) (3.6) 1.0 (22)		体部破片。	不明	
	S-08-0100 JM66  褐色土層	(5.1) (6.7) 1.0 (60)		背部中央破片。背寄りに両面より敲打による凹みをつくり、穿孔している。孔部下半に最大厚あり。背面は丸みをもつ面を呈するが両平面境は角をもつ。	不明	鉄分付着
	S-08-0112 MR57 溝 (SF 078) 灰緑色混砂粘質土層	(4.8) (5.1) 1.2 (42)		孔部破片。	不明	表面の風化が著しい。

( )は残存部分の法量である。

( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点 遺構名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	特 徴		備 考
				タイプ 形態上・製作上の特徴	使用痕跡	
	S-07-0003 MX54  第1層・耕土	(7.4) (5.4) 1.1 (60)		孔部破片。孔部で欠損。その部分は小さな打ち欠き状の剝離があり、そのエッジには石庖丁の背潰れ痕あり、丸くなる。	不明	
	S-07-0121 LZ  揚土	(5.2) (4.6) 1.2 (33)		背部破片。背面は丸みをもつ面である。	不明	
	S-07-0135 MK60  黒色土層	(3.8) (4.4) 0.8 (17)		刃部破片。片刃気味両刃。	両面刃先～約2cmの間の光沢が著しい。刃先は鋭いが磨滅している。	
	S-07-0184 MZ	(4.5) (3.3) (0.7) (10)		刃部破片。両刃。	両面刃部周辺の光沢が著しい。刃先は鋭いが、刃こぼれがみられ、磨滅している。	
	S-07-0268 MB50  茶褐色砂礫土層・整地層	(3.8) (2.8) (1.1) (15)		孔部破片。	不明	
	S-07-0551 MI63 溝 (SF075) 黒色土層	(8.5) (4.2) (0.8) (38)		端部～刃部破片。両刃。背部、刃部に小さな打ち欠き状の剝離があり、そのエッジには、わずかに石庖丁の背潰れ痕がある。	両面とも刃部よりにわずかだが、光沢がみられる。	鉄分付着
	S-07-0644 MR～MV58  黒褐色砂質土層	(4.7) (4.1) (1.0) (18)		背頂部破片。背頂部は丸く彎曲し、背寄りに孔あり。(内5mm、外8.5mm)背面は丸い面を呈し、研き残しの打ち欠き面残存す。	不明	黒色片岩 火をうけて変色。
	S-07-0714 IS67  黒色砂質土層	(6.3) (5.0) (0.9) (31)		刃部破片。両刃か。	両面とも刃部周辺にわずかだが、光沢あり。	火をうけて赤変。 鉄分付着
	S-07-0810 MF50  黒褐色礫混土層	(5.7) (7.5) (1.0) (43)		孔部破片。(内6.5mm)。表面の剝落が著しい。	不明	

( )は残存部分の法量である。

( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。



大型石庖丁

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	特 徴		備 考
				タイプ 形態上・製作上の特徴	使用痕跡	
	S-07-0844 MB54  黒褐色礫混土層	(4.0) (3.5) (0.5) (8)		刃部破片。片刃か。	両面とも刃先から光沢あり。	鉄分付着
	S-07-1140 JQ66  褐色土層	(9.3) (4.7) (0.8) (49)		刃部破片。両刃。刃部の $\frac{2}{3}$ は刃先欠損後研ぎ直しにより丸くなる。	両面刃先から光沢あり、その幅は一方の面は約2cmで、他方は約1cmである。刃先は鋭いが、刃こぼれがみられ、又磨滅している。	
	S-07-1394 KT・KU64・65  第3層下~第4層上	(8.0) (7.4) 1.1 (68)		体部中央部破片。中央背寄りに孔あり(内7mm、外10mm)。孔を横切って背頂部欠損。孔部下方に最大厚あり。刃部に下るにつれてうすくなる。	不明	火をうけて赤変。
	S-07-1395 ML61  茶褐色砂質土層	(7.3) (6.7) (1.0) (58)		体部破片。	不明	鉄分付着
	S-07-1423 JI62  整地層	(6.0) (6.5) 0.9 (47)		孔を含む体部破片。	不明	鉄分付着
	S-07-1451 JA64 溝 (SF079) 腐混灰黒色粘土層	(8.3) (5.3) (0.8) (52)		刃部破片。両刃。刃先には小さな打ち欠きあり。石庖丁の背潰れ痕あり。	両面とも刃部に光沢あり。	刃部両面とも煤けて黒くなる。
	S-07-1456 MB50 溝 (SF074)	(7.8) (7.6) 1.5 (89)		孔部を含む体部破片。両刃か。両平面より敲打によって穿たれた孔あり。上端縁は剝離面よりなりそのエッジは丸く磨滅。下端縁のエッジも細かな打撃により潰れている。	不明	
	S-07-1491 LO58  Pit32・黒褐色土層	(6.0) (4.6) 1.0 (31)		孔部破片。	両面に光沢がわずかにあり。	
	S-07-1518 MG61 溝 (SF075) 黒色土層	(3.0) (7.0) 1.1 (33)		体部破片。	不明	鉄分付着

( )は残存部分の法量である。

( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。

図版番号	登録番号 出土地点名 (遺構番号) 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	特 徴		備 考
				タイプ 形態上・製作上の特徴	使用痕跡	
	S-07-1650  Pit 92	(7.4) (6.2) (0.9) (42)		背部破片。背面は平坦面を呈し、平面境は角をもつ。	不明	火をうけて赤変。
	S-07-1713 MJ54 溝 (SF078) 第1層・外側	(6.1) (5.0) (0.7) (27)		刃部破片。片刃気味両刃。	両面刃先周辺に光沢あり。特に刃部先端の傾斜面に著しい。刃先は鋭いが刃こぼれあり、又磨滅もみられる。	
	S-07-1802 ML59 第9号土器堆積 (SL308) 黒色砂質土層	(5.1) (3.9) (0.9) (19)		背部破片。	不明	火をうけて変色。
	S-07-1878 HCZ	(5.1) (7.6) 0.7 (49)		刃先を含む体部破片。両刃。刃先は両面に小剥離し、そのエッジは潰れている。体部は略同じ厚さで刃部先端で傾斜して両刃となる。	不明	鉄分付着

( )は残存部分の法量である。

( )は孔径のうち内孔径、外孔径の法量である。

### 第3節 小型石庖丁 (PL. 54、PL. 62)

本遺跡出土の小型石庖丁は、総数12点ある。

小型石庖丁とは、石庖丁のミニチュア石器である。石庖丁のDタイプに属する幅広で浅い外彎刃形態が基本形態である。

**石 材** 和歌山県紀ノ川南岸三波川<sup>41)</sup>変成帯より産出する緑色片岩を石材とするものが大半を占め、他に、同御荷鈴帯<sup>42)</sup>より産出する緑色岩類を用いているものもみられる。

**法 量** 法量は、長さ3.9cm～7.5cm (平均 5.4cm)、幅2.2cm～4.0cm (平均 2.8cm)、厚さ0.4cm～0.7cm (平均 0.5cm)、重量4g～22g (平均10g) である。

**タイプ分類** 全体の状況から次のように分類する。

**Aタイプ** 石庖丁のDタイプ、幅広で浅い外彎刃形態の小型のもの。5点あり。法量は、長さ3.9cm～5.0cm (平均 4.3cm)、幅2.2cm～2.9cm (平均 2.5cm)、厚さ0.4cm～0.6cm (平均 0.5cm)、重量4g～7g (残存最大重量9g) (平均5g) である。両面とも片理面よりなり、周辺に打ち欠きにより成形し、粗く研磨を施す。両面とも研ぎ残しの片理面を残す。背寄りに紐孔を両面より穿孔した痕跡があり (S-20-0001、0003)、1孔のみ貫通している。4点は片刃に付いているが、刃先を鋭くつくりだすものは1点のみである (S-20-0003)。石庖丁の模造品であろう。

**Bタイプ** 石庖丁の破片を利用して作られたものが多く、形態的には変化に富む。もとの石器の部分留めるものや、形を整える事に主眼をおいていないもの。全体として幅狭で長く、杏仁形態が主となる。5点あり。全部片刃に研ぎ出されており、刃先は鋭い。2点のみ、片面に小穿孔痕があり (S-20-0001、0007)、紐孔の痕跡を留めている。法量は、長さ 6.4cm～7.5cm (平均 6.7cm)、幅2.5cm～4.0cm (平均 3.0cm)、厚さ0.4cm～0.7cm (平均 0.6cm)、重量5g～22g (平均14.3g) である。

**Cタイプ** 1点あり。平面形は台形をなし、片刃である。Aタイプと比べて若干大型である。扁平片刃石斧の可能性が大きい (S-20-0008)。

#### 未製品

1点あり。両面とも片理面よりなり、周辺より粗く打ち欠き成形したものである (S-20-0005)。

小型石庖丁の使用痕跡は不明であるが、ただ表面の研磨痕が消え、磨耗しているのは認められる (S-20-0002、0007)。おそらく、石庖丁の模造品として作られたものであろうと考えられる。

遺構出土の小型石庖丁は4点あり、ともに第Ⅲ様式期以降のものとみられる。

注 41) 注26) 参照。

42) 注40) 参照。

図版番号	登録番号 遺構番号 出土地点 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 重量	石材	特徴	備考
PL.54-2	S-20-0004 KY61  第3層・黒色砂質土層	5.0 2.5 0.5 7	緑色片岩	A 杏仁形態。未製品。A面は全体に研磨が施されているが、B面は剝離面の上に軽く一部研磨がかかっているに過ぎない。背、刃部の区別は明確でなく、上辺、下辺中央に研磨が施され、平坦な狭い面をなす。両面共に穿孔の痕跡をとどめない。		
PL.54-3 PL.62-7	S-20-0003 JY58 土坑 (SK 251) 茶褐色土層	4.2 2.2 0.4 5	緑色片岩	A 直線刃半月形態。右端部は欠損。背部は右方がなだらかな円弧に比し、左方が少し直線的に端部へとつづく。背部近くが厚く、刃部に下るにつれ薄くなる。刃部は中央部が僅かに内彎した両刃ぎみの片刃で、刃先は少し丸いが、きれいに研ぎ出されている。体部は少し剝離面をとどめるが、全体に研磨が施され、紐孔を有する。紐孔は共に両面側からの穿孔で、左側は貫通しているが、右側は未貫通で、B面側に2つの小さな凹みを有する。双孔共にA面側から深く、B面側からは浅く穿孔している。		
PL.54-6 PL.62-5	S-20-0001 MK63 溝 (SF 077) 灰褐色土層	4.0 2.2 0.4 4	緑色片岩	A 未製品。背部は右上がりの円弧を描き、右端部欠損、左端部寄り背は少し凹んでいる。刃部はゆるく外彎した片刃であるが、右方で僅かに内彎している。刃先は丸く、A面のみ横方向の研磨が施されているにすぎず、体部には剝離面を多くとどめ、中央部に研磨がみられる程度である。体部左寄りに径2.5mmの穿孔途上の凹みがみられ、それに相対する位置のB面にも径4mmの凹みがあるが未貫通である。		
	S-20-0010 MK65  黒褐色礫混合土層	(3.6) 2.9 0.6 (9)	緑色片岩	A 杏仁形態。未製品。右半分欠損。長軸はA面側へ彎曲。A面左端部はやや厚味をもつ。両面研磨面下に一部片理面残存。刃部は片刃であるが、刃先を研ぎ出さず。紐孔はない。	石庖丁からの転用品	
	S-20-0012 MZ	3.9 2.7 0.4 5	緑色片岩	A 平面は頂部が丸味をもつ不整四辺形状を呈す。両面共に片理面よりなり、軽く研磨が施される程度。右側辺でやや厚味をもつ。頂部には研磨が施され、丸い。刃部は両面より研ぎ出され、薄い。紐孔はない。	石庖丁からの転用品か	
PL.54-4 PL.62-6	S-20-0002 MD60 溝 (SF 075) 黒色砂質土層	6.4 2.5 0.7 14	緑色岩類	B 長軸がA面へ彎曲ぎみの杏仁形態。背部は磨滅した感じで光沢を帯び、左方部において凹んだ個所に長軸と直交する方向の擦痕がみられる。背部寄りの体部に破損面がみられるが、全体に粗く研磨され、A面では二次加工以前の旧研磨面をとどめているものと思われる。右端部は尖がっているが、左端部は厚めで破損後、整形の研磨を加えているが充分でなく尖っていない。B面は破損部の上から軽く研磨している。刃部は片刃で左方の刃先は平坦な面をなし、右方の刃先は薄い鋭くはない。おそらく柱状片刃石斧胴部角の破片を二次加工する途上にあると思われる。紐孔はなし。	柱状片刃石斧からの転用品か	
PL.54-5	S-20-0007  不明	6.4 2.5 0.4 5	緑色片岩	B 平面は頂部が左寄りの三角形形状を呈し、角は丸味を帯びる。長軸はB面へ少し彎曲。刃部はやや外彎ぎみの片刃で、刃先は鋭い。所々に小さな刃こぼれがみられる。研磨面の下には剝離面が残存する。紐孔はない。	完成品か	

( )は残存部分の法量である。

小型石庖丁

図版番号	登録番号 遺構番号 出土地点 層位	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	石材	特徴	備考
PL.54-7 PL.62-9	S-20-0006 IT64  第3層・黒色砂質土層	7.5 3.2 0.7 22	緑色片岩	B 左孔を有する石庖丁背寄り左半分の破片を再加工したもの。全体の形は杏仁形態を呈している。背部はゆるく彎曲し、左端寄りの刃部には旧刃面を留める。刃部右方は剝離破損した面を研磨して片刃をつくり出しているが、右端には研磨がゆき届いていない。刃先はやや鋭く、全体に小さい刃こぼれがみられる。紐孔は右方に位置し、A面側から深く、B面側からは浅い穿孔状態である。	石庖丁からの転用品	
PL.54-8	S-20-0011 MB50 第9号土器堆積 (SL308)	7.7 3.4 0.4 19	緑色片岩	B 外彎刃半月形態か。背は直線的にのび、刃部は中央部で浅く外彎し、端部へ向かって、切れ上がる。刃部は片刃であるが、中央でやや両刃ぎみとなる。両面共研磨が施されているが、B面背部、右端部、A面右端部の研磨下に剝離面が残存。B面左端部寄りに未貫通穿孔痕が3個あり(径1mm、2mm、4.5mm)。	石庖丁からの転用品	
	S-20-0009 KH69  第3層・黒色砂質土層	6.4 4.0 0.5 16	緑色片岩	B 平面は頂部が左寄りの不整四辺形状を呈す。左側辺は直線的で、平坦な研磨面をなす(幅約3mm)。刃部は外彎し、左端部寄りのみ両面より刃先を研ぎ出す。背部には研磨が及ばず。A面には石庖丁当時の研磨痕が全面に残り、B面は片理面に一部研磨が施されている。紐孔はない。左側辺以外のエッジは丸く磨滅。	石庖丁からの転用品	
PL.54-9	S-20-0008 KH66  第4層	5.1 3.5 0.7 16	輝緑凝灰岩	C 平面は台形状を呈し、断面は背部で厚く、刃部で薄くなるクサビ状を呈している。体部研磨面の下に破損面を残し、刃部は直線の片刃である。刃先は鋭く、B面側への小さな剝離がみられる。紐孔はない。	扁平片刃石斧の可能性あり。	
PL.54-1 PL.62-8	S-20-0005 MV60  表採	7.4 4.1 0.9 29	緑色片岩	未製品 周辺より打ち欠きを施して成形したもの。杏仁形態に近い。他の小型石庖丁に比べ、やや大きく、厚みがある。		

( )は残存部分の法量である。